特109
273

特 109

273

特109
273

NEW TESTAMENT.

新約全書

米國聖書會社

横濱市山下町

PEBLISHED
BY THE
AMERICAN BIBLE SOCIETY

JAPAN AGENCY.

新約全書目錄

	頁	章數
馬太傳福音書	一	廿八
馬可傳福音書	九三	十六
路加傳福音書	一五三	廿四
約翰傳福音書	二四九	廿一
使徒行傳	三二九	廿八
達羅馬人書	四三一	十六
達哥林多人前書	四七三	十六
達哥林多人後書	五一五	十三
達加拉太人書	五四三	六
達以弗所人書	五五九	六
達腓立比人書	五七三	四
達哥羅西人書	五八五	四
達帖撒羅尼迦人前書	五九七	五
達帖撒羅尼迦人後書	六〇七	三
達提摩太前書	六一三	六
達提摩太後書	六二五	四
達提多書	六三三	三
達腓利門書	六三九	一
達希伯來人書	六四三	十三
雅各書	六七三	五
彼得前書	六八五	五
彼得後書	六九七	三
約翰第一書	七〇五	五
約翰第二書	七一七	一
約翰第三書	七一九	一
猶太書	七二一	一
約翰默示錄	七二五	廿二

第一章

アブラハムの裔なるダビデの裔イエスキリストの系圖ニアブラハムイサクを生イサクヤコブを生ヤコブユダとその兄弟を生リ三ユダタマルに由てパレスとザラを生パレスエスロンを生エスロンアラムを生四アラムアミナダブを生アミナダブナアソンを生ナアソンサルモンを生五サルモンラハブに由てボアズを生ボアズルツに由てオベデを生オベデエツサイを生六エツサイダビデ王を生ダビデ王ウリヤの妻に由てソロモンを生七ソロモンレハベアムを生レハベアムアビアを生アビアアサを生八アサヨサパテを生ヨサパテヨラムを生ヨラムウツズヤを生九ウツズヤヨタムを生ヨタムアカズを生アカズヘゼキヤを生十ヘゼキヤマナセを生マナセアモンを生アモンヨシアを生リ十一バビロンに徙さるゝ時ヨシアエホヤキンと其兄弟を生十二バビロンに徙されたる後エホヤキンシアテルを生シアテルゼルバベルを生十三ゼルバベルアビウデを生アビウデエリアキンを生エリアキン

アゾルを生 十四 アゾルザドクを生ザドク アキムを生アキム エリウデを生
十五 エリウデエリアザルを生エリアザルマツタンを生マツタンヤコブを生
十六 ヤコブマリアの夫ヨセフを生り此マリアよりキリストと稱るイエス
生れ給ひき 十七 其世系を數ればアブラハムよりダビデに至るまで十四代ダ
ビデよりバビロンに徙さるゝ時まで十四代バビロンに徙されしよりキリス
トまで十四代なり○ 十八 それイエスキリストの生れ給ること左の如し其母
マリアはヨセフと聘定を爲るのみにて未だ偕にならざりしさき聖靈に感じ
て孕しが其孕たること顯れければ十九夫ヨセフ義人なる故に之を辱し
むることを願ず密に離緣せんと思へり 二十 斯て此事を思念せる時に主の
使者かれが夢に現れて曰けるはダビデの裔ヨセフよ爾妻マリアを娶こと
を懼るゝ勿その孕る所の者は聖靈に由なり 二一 かれ子を生ん其名をイエス
と名くべし蓋その民を罪より救はんとすれば也 二二 凡て此事は預言者に託
て主の曰たまひし言に 二三 處女はらみて子を生ん其名をインマヌエルと稱

べしと有に應せん爲なり 二三 其名を譯ば神われらと偕に在との義なり 二四 ヨセ
フ寢より起て主の使者の命ぜし言に遵ひ其妻を娶たれど 二五 冢子の生る
るまで牀を同にせざりき其生れし子をイエスと名けたり

第二章 夫イエスはヘロデ王の時ユダヤのベテレヘムに生れ給しが其とき
博士たち東の方よりエルサレムに來り 二 曰けるはユダヤ人の王として生れ給へ
る者は何處に在す われら東の方にて其星を見たれば彼を拜せん爲に來れ
り 三 ヘロデ王これを聞て痛む又エルサレムの民もみな然り 四 凡の祭司の長
と民の學者とを集てヘロデ問けるはキリストの生るべき處は何處なる乎 五
答けるはユダヤのベテレヘムなり蓋預言者の錄されたる言に 六 ユダヤの地
ベテレヘムよ爾はユダヤの郡中にて至小きものに非ず我イスラエルの民
を牧ふべき君その中より出んと云ばなり 七 是に於てヘロデ密に博士等を召
星の現れし時を詳に問て 八 彼等をベテレヘムに遣さんとして曰けるは往て
嬰兒の事を細に尋これに遇ば我に告よ我も亦ゆきて拜すべし 九 かれら王の

命を聞て往り前に東の方にて見たりし星かれらに先ちて嬰兒の居所にいたり其上に止りぬ　十彼等この星を見て甚く喜び　十一既に室に入れば嬰兒の其母マリアと偕に居を見ひれふして嬰兒を拜し寶の盒を開て黄金、乳香、沒藥など禮物を献たり　十二博士夢にヘロデへ返る勿との默示を蒙りて他の途より其國に歸れり○　十三彼等が去るのち主の使者ヨセフの夢に現れて曰けるはヘロデ嬰兒を索て殺さんとする故に起て嬰兒と其母とを率へエジプトに逃て復わが爾に示さん時まで彼處に止れ　十四ヨセフ起て夜嬰兒と其母とを率へエジプトに往　十五ヘロデの死るまで其所に止れり是主預言者に託て我わが子をエジプトより召出せりと云給ひしに應せん爲なり　十六是に於てヘロデ博士に欺かれたるを忿り大にいかり人を遣して博士に詳く問たる時を度りベテレヘムと其境の内なる二歳以下の嬰兒を盡く殺せり　十七即ち預言者エレミヤの言に　十八歎き悲み甚く憂る聲ラマに聞ゆラケルその兒子を歎き其兒子の無によりて慰を得ずと云しに應へり　十九斯てヘロデ死しかゞ主の使者ヨセフの夢にエジプトにて現れ曰けるは　二十起て嬰兒とその母とを率へイスラエルの地にゆけ嬰兒の生命を索る者ゝ已に死りぬ　二一彼おきて嬰兒と其母とを率へてイスラエルの地に至しが　二二アケラヲ父ヘロデに代てユダヤの王たりと聞ければ彼處に往ことを懼る又夢に告を蒙りてガリラヤの内に避　二三ナザレと云る邑に至りて居り彼はナザレ人と稱れんと預言者に託て云れたる言に應せん爲なり

第三章

當時バプテスマのヨハ子來りてユダヤの野に宣傳へて　二曰けるは天國は近けり悔改めよ　三是は主の道を備その路線を直せよと野に呼る人の聲ありと預言者イザヤが言し人なり　四此ヨハ子は身に駱駝の毛衣をき腰に皮の帶をつかれ蝗蟲と野蜜を食物とせり　五此時エルサレム及びユダヤを擧またヨルダンの四方より人々出てヨハ子に就　六己が罪を悔あらはしヨルダンにて彼よりバプテスマを授られたり　七バプテスマを受んとてパリサイ及びサドカイの人々の多く來れるを見て彼等に曰けるは蝮の裔よ誰なんぢ

に來んとする怒を避べきことを告しや 八然ば悔改に符ふ果を結べよ 九
爾曹われらが先祖にアブラハム有と云ことを意ふ勿れ我爾曹に告ん神わ
能この石をもアブラハムの子と爲しめ給ふなり 十今や斧を樹の根に置る故
に凡て善果を結ざる樹は斫れて火に投入らるべし 十一我は爾曹を悔改
させんとて水を以て爾曹にバプテスマを授く我より後に來者は我に勝て能
力あり我は其履を提にも足す彼は聖靈と火をもて爾等にバプテスマを授ん
十二手には箕を持て其禾場を淨め麥は斂て其倉にいれ糠は熄ざる火にて燬
べし○十三斯時イエスヨハネにバプテスマを受んとてガリラヤよりヨルダ
ンに來り給ふ 十四ヨハネ辭て曰けるは我は爾よりバプテスマを受べき者
なるに爾反て我に來る乎 十五イエス答けるわ暫く許せ如此すべての義き
事は我儕盡す可なり是に於てヨハネ彼に許せり 十六イエスバプテスマを受
て水より上れるとき天忽ち之が爲にひらけ神の靈の鴿の如く降て其上に
來るを見る 十七又天より聲ありて此わ我心に適わが愛子なりと云り

第四章
偖イエス聖靈に導かれ惡魔に試られん爲に野に往り 二四十日
四十夜食ふ事をせず後うゑたり 三試むる者かれに來りて曰けるわ爾もし神
の子ならば命じて此石をパンと爲よ 四イエス答けるわ人わパンのみにて
生るものに非ず唯神の口より出る凡の言に因と錄されたり 五是に於て惡
魔かれを聖京に携へゆき殿の頂上に立せて曰けるわ 六爾もし神の子な
らば己が身を下へ投よ蓋なんぢが爲に神その使等に命ぜん彼等手にて支へ
爾が足の石に觸ざるやうすべしと錄されたり 七イエス彼に曰けるわ主たる
爾の神を試むべからずと亦錄せり 八惡魔また彼を最高き山に携へゆき世界
の諸國とその榮華とを見せて 九爾もし俯伏て我を拜せば此等を悉なんぢに
與ふべしと曰 十イエス彼に曰けるわサタンよ退け主たる爾の神を拜し惟之
にのみ事ふべしと錄されたり 十一終に惡魔かれを離れ天使たち來り事ふ
○十二イエスヨハネの囚れし事を聞てガリラヤに往 十三ナザレを去ゼブル
ンとナフタリとの界なる海邊のカペナウンに至て此に居り 十四これ預言者

イザヤの言に十五ゼブルンの地ナフタリの地海に沿たる地ヨルダンの外の地異邦人のガリラヤ十六此等の幽暗になる民は大なる光をみ死地と死陰に坐する者の上に光いでたりと云しに應せん爲なり○十七斯時よりイエス始て道を宣傳へ天國は近けり悔改めよと曰たまへり十八イエスガリラヤの海邊を歩てペテロと云シモンその兄弟アンデレと二人にて海に網うてるを見たり彼等は漁者なり十九之に曰けるは我に從へ我なんぢらを人を漁る者と爲ん二十彼等やがて網を棄てイエスに從ふ二一此より進けるに又ほかの兄弟二人即ちゼベダイの子ヤコブと其兄弟ヨハネ父ゼベダイと偕に舟にて網を補へるを見て之を召しに二二彼等も頓て舟と父とを置てイエスに從へり○二三イエスガリラヤを徧く巡り其會堂にて教をなし天國の福音を宣傳かつ民の中なる諸々の病もろ〳〵の疾を醫しぬ二四その聲名あまねくスリヤに播りしかば人々すべての患へる者萬殊の病また痛惱る者あるひは鬼に憑たるもの癲癇、癱瘓の病に罹れる者を彼に携來

ければ之を醫せり二五ガリラヤとデカポリスエルサレムユダヤヨルダンの外より多の人々きたり從ふ

第五章　イエス許多の人を見て山に登り坐し給ければ弟子等も其下に來れり二イエス口を啓て彼等に教へ曰けるは三心の貧き者は福なり天國は即ち其人の者なれば也四哀む者は福なり其人は安慰を得べければ也五柔和なる者は福なり其人は地を嗣ことを得べければ也六饑渴ごとく義を慕者は福なり其人は飽ことを得べければ也七矜恤ある者は福なり其人は矜恤を得べければ也八心の清き者は福なり其人は神を見ことを得べければ也九和平を求る者は福なり其人は神の子と稱らる可ればなり十義ことの爲に責らるゝ者は福なり天國は即ち其人の者なれば也十一我ために人なんぢらを詐譃また迫害いつはりて各樣の惡言をいはん其時は爾曹福なり十二喜び樂め天に於て爾曹の報賞おほければ也そは爾曹より前の預言者をも如此せめたりき○十三爾曹は地の鹽なり鹽もし其味を失はゞ何

を以て故の味に復さん後は用なし外に棄られて人に踐るゝ而已 十四 爾曹は
世の光なり山の上に建られたる城は隱るゝことを得ず 十五 燈を燃して斗の
下におく者なし燭臺に置て家に在すべての物を照さん 十六 此の如く人々
の前に爾曹の光を耀かせ然れば人々なんぢらの善行を見て天に在す爾
曹の父を榮むべし○ 十七 われ律法と預言者を廢る爲に來れりと意ふ勿われ
來て之を廢るに非ず成就せん爲なり 十八 われ誠に爾曹に告ん天地の盡ざ
る中に律法の一點一畫も遂つくさずして廢ることなし 十九 是故に人も
し誡の至微き一を壞り又その如く人に教なば天國に於て至微き者と
謂れん凡そ之を行ひ且人に教る者は天國に於て大なる者と謂るべし 二十 我
なんぢらに告ん學者とパリサイの人の義よりも爾曹の義こと勝ずば必
ず天國に入こと能じ○ 二一 古の人に告て殺こと勿れ殺す者は審判に干ら
んと言ることこと有は爾曹が聞し所なり 二二 然ど我なんぢらに告ん凡て故なく
して其兄弟を怒る者は審判に干らん又その兄弟を愚者よといふ者は

最議に干らん又狂妄よといふ者は地獄の火に干るべし 二三 是の故に爾も
し禮物を携へて壇に往たる時かしこにて兄弟に恨るゝことあるを憶
起さば 二四 その禮物を壇の前に留まづ往て爾の兄弟と和ぎ後きたりて
爾の禮物を獻よ 二五 爾を訴ふる者と偕に途間にある時はやく和げよ恐く
は訴ふる者なんぢを審官に付し審官また爾を下吏に付し遂に爾は獄に
入られん 二六 我まことに爾に告ん分盤までも償へざれば必ず其所を出ることを
能ざる也○ 二七 古の人に告て姦淫することを勿と言ることあるは爾曹が
聞し所なり 二八 然ど我なんぢらに告ん凡そ婦を見て色情を起す者は中
心すでに姦淫したる也 二九 もし右の眼なんぢを罪に陷さば抉出して之を棄
よ蓋五體の一を失ふは全身を地獄に投入らるゝよりは勝れり 三十 もし右の
手なんぢを罪に陷さば之を斷て棄よ蓋五體の一を失ふは全身を地獄に投入
らるゝよりは勝れり○ 三一 また曰ることあり凡そ人その妻を出さんとせば
之に離緣狀を與ふべしと 三二 然ど我爾曹に告ん姦淫の故ならで其妻を出

す者ハ之に姦淫なさしむるなり又出されたる婦を娶る者も姦淫を行ふなり

〇三三 また古の人に告て僞の誓を立ることなかれ必ず主に遂べしと言ることあるなり三四然ど我なんぢらに告ん更に誓ことなかれ天を指て誓ふなかれ是神の座位なれば也三五地を指て誓ふことなかれこれ神の足臺なれば也エルサレムを指て誓ふことなかれ大王の京城なれば也三六爾の首を指て誓ふなかれ一すぢの髮だに白し黑することなかれ也三七爾曹たゞ是々否々といへ此より過るハ惡より出るなり〇三八目に目を償ひ齒にて齒を償へと言ることあるハ爾曹が聞し所なり三九然ど我なんぢらに告ん惡に敵することなかれ人なんぢの右の頰を批ば亦ほかの頰をも轉して之に向よ四十爾を訟て裏衣を取んとする者にハ外服をも亦さらせよ四一人なんぢに一里の公役を强なば之と偕に二里ゆけ四二爾に求る者にハ予へ借んとする者を卻くること勿れ〇四三爾の隣を愛みて其敵を憎べしと言ることあるハ爾曹が聞し所なり四四然も我なんぢらに告ん爾曹の敵を愛み爾曹を詛ふ者を祝し爾曹を憎む者を善視し虐遇迫害もの爲に祈禱せよ

四五如此するハ天に在す爾曹の父の子とならん爲なり夫天の父ハ其日を善者にも惡者にも照し雨を義き者にも義からざる者にも降せ給へり四六爾曹おのれを愛する者を愛するハ何の報賞かあらん稅吏も然せざらん乎四七安否を兄弟にのみ問ハ人より何の過たる事かあらん稅吏も然せざらん乎四八是故に天に在す爾曹の父の完全が如く爾曹も完全すべし

第六章

なんぢら人に見せん爲に其義を人の前に行ことを愼もし然ずハ天に在す爾曹の父より報賞を得じ二是故に施濟を行とき人の榮を得ん爲に會堂や街衢にて僞善者の如く鉦を己が前に吹しむる勿れ我まことに爾曹に告ん彼等ハ既にその報賞を得たり三なんぢ施濟をするとき右の手の爲ことを左の手に知する勿れ四如此するハ其施濟の隱れんが爲なり然ハ隱たるに鑒たまふ爾の父ハ明顯に報たまふべし〇五なんぢ祈る時に僞善者の如する勿れ彼等ハ人に見られんが爲に會堂や街衢の隅に立て祈ることを好われ

誠に爾曹に告ん彼等ハ既にその報賞を得たり六なんぢ祈る時ハ嚴密なる室にいり戸を閉て隱微たるに在す爾の父に祈れ然ハ隱微たるに鑒たまふ爾の父ハ明顯に報たまふべし七爾曹祈る時ハ異邦人の如く重複語を言なかれ彼等ハ言おほきを以て聽れんと意へり八是故に彼等に效こと勿れ爾曹の父ハ求ざる先に其需用物を知たまへば也九然ば爾曹かく祈るべし天に在ます我儕の父よ願くば爾名を尊崇させ給へ十爾國を臨らせ給へ爾旨の天に成ごとく地にも成せ給へ十一我儕の日用の糧を今日も與たまへ十二我儕に負債ある者を我儕がゆるす如く我儕の負債をも免し給へ十三我儕を試探に遇せず惡より拯出し給へ國と權と榮ハ窮りなく爾の有なれハなりアメン十四爾曹もし人の罪を免さば天に在ます爾曹の父も亦なんぢらを免し給はん十五然ども人の罪を免さずハ爾曹の父も爾曹の罪を免し給はざるべし

○十六なんぢら斷食するとき僞善者の如き憂容をする勿れ彼等は斷食を人に見ん爲に顏色を損ふ我まことに爾曹に告ん彼等ハ既に其報賞を得たり十七なんぢ斷食する時ハ首に膏をぬり面を洗へ十八如此するハ爾の斷食人に見ずして隱微たるに在す爾の父に現れんが爲なり然ハ隱微たるに鑒たまふ爾の父ハ明顯に報たまふべし○十九蠹くひ銹くさり盜うがちて竊む所の地に財を蓄ふること勿れ二十蠹くひ銹くさり盜穿て竊ざる所の天に財を蓄ふべし二十一蓋なんぢらの財の在ところに心も亦ある可れハ也○

二二身の光ハ目なり若なんぢの目瞭かならハ全身も亦明なるべし二三若なんぢの目眊らハ全身暗かるべし是故に爾の中の光もし暗からハ其暗こと如何に大ならず乎二四人ハ二人の主に事ること能ず蓋これを惡かれを愛み是を親み彼を疎べけれハ也なんぢら神と財に兼事ること能ハず二五是故に我なんぢらに告ん生命の爲に何を食ひ何を飲まん身體の爲に何を衣んと憂慮こと勿れ生命ハ糧より優り身體ハ衣よりも優れる者ならず乎二六なんぢら天空の鳥を見よ稼ことなく穡こと爲ず倉に蓄ふることなし然るに爾曹の天の父ハ之を養ひ給へり爾曹之よりも大に勝るゝ者ならず乎

二七 爾曹のうち誰か能おもひ傾ひて其生命を寸陰も延得んや 二八 また何故に衣のことを思わづらふや野の百合花い如何して長かを思へ勞ず紡がざる也 二九 われ爾曹に告んソロモンの榮華の極の時だにも其裝この花の一に及ざりき 三十 神い今日野に在て明日爐に投入らるゝ草をも如此よそはせ給へば況て爾曹をや嗚呼信仰うすき者よ 三一 然ば何を食ひ何を飲なにを衣んとて思わづらふ勿れ 三二 此みな異邦人の求る者なり爾曹の天の父い凡て此等のものゝ必需ことを知たまへり 三三 爾曹まづ神の國と其義とを求よ然ば此等のものい皆なんぢらに加らるべし 三四 此故に明日の事を憂慮なかれ明日い明日の事を思わづらへ一日の苦勞い一日にてかり

第七節 人を議することを勿れ恐くい爾曹もまた議せられん 二 爾曹が人を議する如く己も議せらるべし爾曹が人を量るごとく己も量らるべし 三 なんぢ兄弟の目にある物屑を視て己が目にある梁木を知らざるは何ぞや 四 己の目に梁木のあるに如何で兄弟にむかひて爾が目にある物屑を我に取せよと曰ことを得んや 五 僞善者よ先おのれの目より梁木をとれ然ば兄弟の目より物屑を取得るやう明かに見べし 六 犬に聖物を與ふる勿また豕の前に爾曹の眞珠を投與るる勿れ恐くい足にて之を踐ふりかへりて爾曹を噬やぶらん 七 求よ然ば與られ尋よ然ばあひ門を叩よ然ば開かるることを得んすべて求る者いえ尋る者いあひ門を叩く者い開かる可ればなり 九 爾曹のうち誰か其子パンを求んに石を予んや 十 また魚を求んに蛇を予んや 十一 然ば爾曹惡き者ながら善賜を其子に與ふるを知まして天に在す爾曹の父い求る者に善物を予ざらん乎 十二 是故に凡て人に爲られんと欲ことゝ爾曹また人にも其ごとく爲よ是律法と預言者なる也 十三 窄き門より入よ沈淪に至る路い濶その門い大なり此より入もの多し 十四 命に至る路い窄その門い小し其路を得もの少なり 十五 僞の預言者を謹めよ彼等い綿羊の姿にて爾曹に來れども內い殘狠なり 十六 是その果に由て知べし誰か荊棘より葡萄をとり蒺藜より無花果を採ことをせん 十七 凡て善樹い善果を結び惡樹

へ惡果を結べり十八善樹ハ惡果を結ばず惡樹ハ善果を結ぶこと能ざる也十九凡そ善果を結ざる樹ハ斫れて火に投入らる二十是故に其果に由て之を知べし○二一我を召て主よ主よと曰もの盡く天國に入に非ず唯これに入者ハ我天に在す父の旨に遵ふ者のみなり二二其日われに語て主よ主よ主の名に託てをしへ主の名に託て鬼をおひ主の名に託て多く異能を行しに非ずやと云もの多からん二三其時かれらに告われ曾て爾曹を知ず惡をなす者よ我を離去と曰ん二四是故に凡て我この言を聽て行ふ者を磐の上に家を建たる智人に譬ん二五雨ふり大水いで風ふきて其家を撞ども倒ることなし是磐を基礎と爲たれば也二六凡て我この言を聽て行ハざる者を沙の上に家を建たる愚なる人に譬ん二七雨ふり大水いで風ふきて其家を撞ば終にハ倒てその傾覆おほいなり二八イエス此等の言を語竟たまへるとき集りたる人々その教を駭きあへり二九そは學者の如ならず權威を有る者の如く教たまへば也

第八章

イエス山を下しとき多の人々これに從へり二癩病の者きたり拜して曰けるハ主もし旨に適さきハ我を潔なし得べし三イエス手を伸かれに按て我旨に適へり潔なれと曰ければ癩病たゞちに潔れり四イエス彼に曰けるハ愼て人に告る勿れ唯ゆきて己を祭司に見せ且モーセが命ぜし禮物を献て彼等に證據をせよ○五イエスカペナウムに入しとき百夫の長きたり願て曰けるハ六主よ我僕癱瘓をやみ家に臥ゐて甚だ惱めり七イエス曰けるハ我ゆきて之を醫すべし八百夫の長こたへけるハ主よ我なんぢを我が屋下に入奉るハ恐れ多し唯一言を出し給へ僕ハ愈ん九蓋われ人の權威の下にある者なるに我下に亦兵卒ありて此に往と曰ばゆき彼に來れと曰ば來る我僕に此を行と曰ば即ち行が故なり十イエスこれを聞て奇み從へる人々に曰けるハ我まことに爾曹に告んイスラエルの中にだに未だ斯る篤信に遇ざる也十一われ爾曹に告ん多の人々東より西より來てアブラハムイサクヤコブと偕に天國に坐し十二國の諸子ハ外の幽暗に逐

出され其處にて哀哭切齒すること有んイエス百夫の長に往なんちが
信仰の如く爾に成べしと曰たまへる其時に僕癒たり○十四イエスペテロ
の家に入その岳母の熱を煩ひ臥ねたるを見て十五その手に捫ければ即ち熱
されり婦おきて彼等に事ふ十六日暮たるとき人々鬼に憑れたる者を多く
携來ければイエス言にて鬼を逐出し病ある者を悉く醫せり十七預言
者イザヤに托て自ら我儕の恙を受われらの病を負と曰たまひしに應せん
が爲なり○十八偖イエス多の人々の己を環るを見て弟子に命じ向の岸
に往んとし給しに十九ある學者きたりて曰けるヽ師よ何處へ行給ふとも我
從ヘん二十イエス之に曰けるヽ狐ヽ穴あり天空の鳥ヽ巣あり然ど人の子ヽ
枕する所なし二一また弟子の一人いひけるヽ主よ先ゆきて父を葬ることを
我に容せ二二イエス曰けるは我に從へ死たる者に其死し者を葬らせよ○
二三イエス舟に登れば弟子等も之に從ふ二四此とき大なる飄風おこりて
舟を蔽ばかりなる浪たちしにイエスヽ寢たり二五弟子等これに近きて醒し

曰けるヽ主よ救たまへ我儕亡んとす二六イエス彼等に曰けるヽ信仰うすき
者よ何ぞ懼るや遂に起て風と海とを戒ければ大に平息になりぬ二七人々
奇みて曰けるヽ此ヽ如何なる人ぞ風も海も之に從ひたり○二八イエス向の
岸なるガダラ人の地に至れるとき鬼に憑れたる二人のもの墓より出て彼を
迎ふ猛こと甚しくして其途を人の過ること能ヘざりしほど也二九かれら
呼叫て曰けるヽ神の子イエスよ我儕なんぢと何の與あらん乎いまだ時い
たらざるに我儕を責んとて此處に來るか三十遠はなれて豕の多のむれ食し
居ければ三一鬼イエスに求て曰けるヽ若われらを逐出さんとならば豕の群
に入ことを容せ三二彼等に往と曰ければ鬼いでゝ豕の群に入しに惣のむれ
山坡より逸て海にいり水に死たり三三牧者ども邑に逃走て此事と鬼に憑れ
たりし者の事を告ければ三四イエスに逢んとて邑の者擧て出きたり彼を
見て此境を出んことを願へり

第九章　イエス舟に登わたりて故邑に至れば二癱瘋にて床に臥たる者を

人々早來れりイエス彼等が信ずるを見て癱瘋の者に曰けるハ子よ心安かれ爾の罪赦れたり三ある學者たち心の中に謂けるハ此人ハ褻瀆を言り四イエスその意を知て曰けるハ爾曹いかなれば心に惡を懷ふや五爾の罪赦されたりと言と起て歩めと言と孰か易き六それ人の子地にて罪を赦すの權あることを爾曹に知せんとて遂に癱瘋の者に起て床をとり家に歸れと曰ければ七起て其家に歸りぬ八人々これを見て奇み此の如き權を人に賜し神を崇たり○九イエス此より進往マタイと名くる人の稅關に坐し居けるを見て我に從へと曰ければ起て從へり十イエス彼が家に食するとき稅吏罪ある人おほく來りてイエス及その弟子と偕に坐しければ十一パリサイの人これを見て其弟子に曰けるハ爾曹の師ハ何故稅吏や罪ある人と偕に食するや十二イエス聞て彼等に曰けるハ康强なる者ハ醫者の助を需ず唯病ある者これを需十三われ矜恤を欲て祭祀を欲ずといふ此ハ如何なる意か往て學ぶべし夫わが來るハ義人を招ためにあらず罪ある人を招きて悔改させんが爲なり○十四其時ヨハネの弟子イエスに來て曰けるハ我儕とパリサイの人ハしば〳〵斷食するに師の弟子の斷食せざるハ何故ぞ十五イエス彼等に曰けるハ新郎の友その新郎と偕に居うちハ哀むことを得んや將來新郎をひきさらるゝ日きたらん其時にハ斷食すべき也十六新き布を以て舊き衣を補ふ者ハあらじ蓋つくろふ所のもの反て之を壞その綻び尤も甚だしからん十七また新き酒を舊き革囊に盛る者ハあらじ若しかせば囊ぱりさけ酒もれいでゝ其囊も亦壞らん新囊に新酒を盛なば兩なから存べし○十八イエス彼等に此事を言る時ある宰きたり拜して曰けるハ我女いま既に死り來て彼に手を按たまへゞ生べし十九イエス起て彼に從ひ其弟子と偕に往二十十二年血漏を患へる婦うしろに來て其衣の裾に捫れり二十一蓋もし衣にだにも捫らば愈んと意へばなり二十二イエスふりかへり婦を見て曰けるハ女よ心安かれ爾の信仰なんぢを愈せり即ち婦この時より愈二十三イエス宰の家に入しに笛ふく者および多の人の泣哭を見て二十四

之に曰けるハ退け女ハ死るに非ずたゞ寢たるのみ人々イエスを嘲笑ふ　二五
彼等を出しゝ後いりて其手を執しに女起たり　二六　此聲名あまねく其地に
播りぬ　二七　イエス此を去さき二人の瞽者ふたがひて呼いひけるハダビデの
裔よ我儕を憐み給へ　二八　イエス家に入しに瞽者きたりけれバ彼等に曰たま
ひけるハ我此事を行得ると信ずるや答けるハ主よ然り　二九　イエス彼等の
目に手を按て爾曹の信ずる如く爾曹に成べしと曰けれバ　三十　其目ひらけた
りイエス嚴く戒て之に曰けるハ愼て人に知する勿れ　三一　然ども彼等
いでゝ遍く其地にイエスの名を播めたり○　三二　瞽者の出るとき人々鬼に
憑れたる喑啞をイエスに携來りしに　三三　鬼おひいだされて喑啞ものいへり
衆人あやしみ曰けるハイスラエルの中にも未だ斯る事ハ見ざりき　三四　パリ
サイの人いひけるハ彼鬼の王に藉て鬼を逐出せる也○　三五　イエス遍く都
邑を廻その會堂にて教をなし天國の福音を宣傳へ民の中なる諸の病すべて
の疾を愈せり　三六　牧者なき羊の如く衆人なやみ又流離になりし故に之を
見て憫みたまふ　三七　其とき弟子等に曰給けるは收穫ハ多く工人
ハ少し　三八　故に其稼主に工人を收穫場に送んことを願ふべし

第十章

偖イエスその十二弟子をよび彼等に汚たる鬼を逐いだし又すべて
の病すべての疾ひを醫す權を賜へり　二その十二使徒の名ハ左の如し首に
ハペテロと名け給ひしシモンその兄弟アンデレゼベダイの子ヤコブその
兄弟ヨハネ　三ピリポバルトロマイトマス稅吏マタイアルペイの子な
るヤコブタツダイと名くるレツバイ　四カナンのシモンイスカリオテのユダ
是すなハちイエスを賣しゝ者なり○　五イエスこの十二を遣さんとして命じ
曰けるハ異邦の途に往なかれ又サマリヤ人の邑にも入なかれ　六惟イスラエ
ルの家の迷へる羊に往セ往て天國近に在と宣傳へよ　八病の者を醫し癩
病を潔し死たる者を甦らせ鬼を逐出すことをせよ爾曹價なしに受た
れバ亦價なしに施すべし　九爾曹金またハ銀またハ錢を貯へ帶る勿れ　十行
囊二の裏衣履杖も亦然そは工人の其食物を得ハ宜なり　十一

凡そ鄉邑に至らゞ其中の好人なを訪て出るまでゝ其處に留れ十二人の家にいらゞ其平安を問十三その家もし平安を得べき者ならゞ爾曹の願ふ平安は其家に至らん若し平安を受べからざる者ならゞ爾曹の願ふ平安ゝ爾曹に歸るべし十四もし爾曹を接ず爾曹の言を聽ざる者あらゞ其家またゝ其邑を去とき足の塵を拂へ十五われ誠に爾曹に告ん審判の日到ればソドムとゴモラの地ゝ此邑よりも却て易からん○十六われ爾曹を遣すゝ羊を狼の中に入るゞ如し故に蛇の如く智く鴿の如く馴良かれ十七愼て人に戒心せよ蓋人なんぢらを集議所に解し又その會堂にて鞭つべけれゞ也十八又わが緣故に因て侯伯および王の前に曳るべし是かれらと異邦人に證をなさんが爲なり十九人なんぢらを解さゞ如何なにを言んと思ひ煩らふ勿れ其とき言べき事ゝ爾曹に賜るべし二十是なんぢら自ら言に非ず爾曹の父の靈その衷に在て言なり二一兄弟ゝ兄弟を死に付し父は子を付し子ゝ兩親を訴へ且これを殺さしむべし二二又なんぢら我名の爲に凡の人に憎れん然ど終まで忍ぶ者ゝ救へるべし二三この邑にて人なんぢらを責なゞ他の邑に逃れよ我まことに爾曹に告ん爾曹イスラエルの諸邑を廻盡さゞる間に人の子ゝ來るべし二四弟子ゝ師より優らず僕は主より優らざる也二五弟子ゝ其師の如く僕ゝそのあるじとなり其主の如ならゞ足ぬべし若し人主を呼てベルゼブルと云ゞ況て其家の者をや二六是故に彼等を懼るゝこと勿れ蔽れて露れざる者なく隱て知れざる者なけれゞ也二七われ幽暗に於て爾曹に告しことを光明に述よ耳をつけて聽しことを屋上に宣播めよ二八身を殺して魂を殺すこと能ゝざる者を懼るゝ勿れ唯なんぢら魂と身とを地獄に滅し得る者を懼れよ二九二羽の雀ゝ一錢にて售に非ずや然るに爾曹の父の許なくば其一羽も地に隕ることなし有じ三十爾曹の頭の髮また皆かぞへらる三一故に懼るゝ勿れ爾曹ゝ多の雀よりも優れり三二然ゞ凡そ人の前に我を識と言ん者を我も亦天に在す我父の前に之を識と言ん三三人の前に我を識ずと言ん者を我も亦天に在す我父の前に之を識ずと言べし○三四地に泰平を出ん爲に我來れりと意なかれ泰

平を出さんとに非ず刃を出さん爲に來れり 三五 夫わが來るハ人を其父に背かせ女を其母に背かせ嫁を其姑に背かせんが爲なり 三六 人の敵ハ其家の者なるべし 三七 我よりも父母を愛む者ハ我に協ざる者なり我よりも子女を愛む者ハ我に協ざる者なり 三八 その十字架を任て我に從ハざる者も我に協ざる者なり 三九 その生命を得る者ハ之を失ひ我ために生命を失ふ者ハ之を得べし 四十 爾曹を接る者ハ我を接るなり我を接る者ハ我を遣しゝ者を接るなり 四一 預言者なるを以その預言者を接る者ハ預言者の報賞を受け義人なるを以その義人を接る者ハ義人の報賞を受 四二 わが弟子なるをもて小き一人の者に冷なる水一杯にても飲する者ハ誠に爾曹に告んなら必ず其報賞を失ハじ

第十一章

イエスその十二弟子に示 舉しき此處をさり道を教へ廣んが爲に彼等の諸邑に往り○ 二 偖ヨハ子獄にてキリストの行し業を聞その弟子二人を彼に遣して 三 曰せけるハ來べき者ハ爾なるか又われら他に待べき乎

四 イエス彼等に答て曰けるハ爾曹が聞こころ見こころの事をヨハ子に往て告よ 五 瞽者ハみ跛者ハあゆみ癩病人ハ潔まり聾者ハきゝ死たる者ハ復活され貧者ハ福音を聞せらる 六 凡そ我ために躓かざる者ハ福なり○ 七 彼等の歸れる後イエスヨハ子の事を人々に曰けるハ爾曹何を見んとて野に出しや風に動さるゝ葦なる乎 八 然ハ爾曹何を見んとて出しや美服を着たる人なるか 美服を着たる者ハ王宮に在 九 然ハ何を見んとて出しや預言者なるか然われ爾曹に告ん彼ハ預言者よりも卓越たる者なり 十 夫なんぢに先ちて道を備る我が使者を我なんぢの前に遣んと錄されたるハ即ち是なり 十一 誠に爾曹に告ん婦の生たる者の中いまだバプテスマのヨハ子より大なる者ハ起らざりき然ど天國の最小き者も彼よりハ大なる也 十二 バプテスマのヨハ子の時より今に至るまで人々勵て天國を取んとす勵たる者ハ之を取り 十三 それ凡の預言者と律法の預言したるハヨハ子の時までなれハ也 十四 若なんぢら我言を承ることを好まゞ來べきエリヤハ是なり

十五 耳ありて聽ゆる者は聽べし○十六 我この世を何に譬んや童子街に坐し
其侶を呼て 十七 われら笛ふけども爾曹をどらず哀をすれども爾曹胸うた
ずと云に似たり 十八 蓋ヨハネ來て食ふことを飲ことを爲ざれば鬼に憑れたる
者なりと人々言り 十九 人の子きたりて食ふことを飲ことを爲れば又食
を嗜み酒を好む人 稅吏 罪ある 者の友也といふ然ども智慧は智慧の子に
義と爲らるゝ也○ 二十 厥時イエス 多の異 能を行たまひたる諸邑の悔改
めざるに由て責いひけるは 二一 あゝ禍なる哉コラジンよ噫禍なる哉
ベテサイダよ爾曹の中に行し異 能を若ツロとシドンに行しならば彼等
は早く麻をき灰を蒙りて悔改しなるべし 二二 われ爾曹に告ん審判の日に
はツロとシドンの刑罰は爾曹よりも却て易からん 二三 既に天にまで擧られ
しカペナウムよ又陰府に落さるべし蓋なんぢに行し異 能を若ソドムに行
しならば今日までも尙保存しならん 二四 我なんぢらに告ん審判の日にソド
ムの地は爾よりも却て易からるべし○ 二五 其ときイエス 答て曰けるは天地
の主なる父よ此事を 智者 達者 に隱して赤子に顯したまふを謝す 二六
父よ然それ此の如く聖旨に適るなり 二七 父は我に萬物を予たまへり父の外
に子を識もの無また子および子の顯す所の者の外に父を識者なし○ 二八 凡
て勞たる者また重を負る者は我に來れ我なんぢらを息ません 二九 我は心
柔和にして謙遜者なれば我軛を負て我に學なんぢら心に平安を獲べし
三十 蓋わが軛は易わが荷は輕ければ也

第十二章

當時イエス安息日に麥の畑を過しが其弟子たち飢て穗を摘食
はじめたり 二 パリサイの人これを見てイエスに曰けるは爾の弟子は安息日
に爲まじき事を行り 三 之に答けるはダビデおよび從に在し者の饑しとき行
し事を未だ讀ざる乎 四 卽ち神の殿に入て祭司の他は己および從にたる者も
食ふまじき供のパンを食へり 五 また安息日に祭司は殿の內にて安息日を犯
せども罪なき事を律法に於て讀ざる乎 六 われ爾曹に告ん殿より大なるもの
茲に在 七 われ矜恤を欲て祭祀を欲ずとは如何なることか之を知ば罪なき者

を罪せざるべし八それ人の子は安息日の主たるなり○九此を去て彼等の會堂に入しに、十一手なへたる人ありければ彼等イエスを訴へんとて之に問けるは安息日には醫すことを行べき乎十一彼等に曰けるは爾曹の中に一の羊を有る者あらんに若その羊安息日に坑に陷らば之を擧上ざる乎十二人は羊より優ることは幾何ぞや然れば安息日に善を行は宜十三遂にその人に爾が手を伸よと曰ければ伸せり卽ち他の手の如く愈十四パリサイの人いでゝイエスを殺さんと謀れり十五イエス之を知て此を去しに多の人々これに從ふ凡て疾病ある者をみな愈し十六我を人に露すこと勿れと戒たり十七これ預言者イザヤの云し言に十八視よ我が選し我僕すなはち我心に適たる我が愛む者われ之に我靈を賦んに彼異邦人に審判を示すべし十九彼は競ことなく喧ことなし人街に於て其聲を聞ことなし二十審判をして勝を遂しむるまでは傷る葦を折ことなく煙れる麻を熄ことなし二一異邦人も亦その名に賴べしと有に應せん爲なり○二二爰に鬼に憑たる瞽の瘖なる者を

イエスの所に携來りければ此瞽の瘖を醫して言ひ見るやうに爲り二三衆人みな奇みて曰けるは此はダビデの裔には非ざる乎二四パリサイの人きゝて曰けるは此人は鬼の王ベルゼブルを役ふに非ざれば鬼を逐出ことなし二五イエスその心を知て彼等に曰けるは凡て相爭ふ國は亡び凡て相爭ふ邑や家は立べからず二六サタン若サタンを逐出さば自ら相爭ふなり然れば其國いかで立んや二七若われベルゼブルに由て惡鬼を逐出さば爾曹の子弟は誰に由て之を逐出すや夫かれら爾曹の裁判人となるべし二八若われ神の靈に由て鬼を逐出しゝならば神の國は既に爾曹に至れり二九また勇士をまづ縛らざれば如何で其家に入その家具を奪ふことを得んや縛て後に其家を奪ふべし三十我と偕ならざる者は我に背き我と偕に歛ざる者は散すなり三一是故に爾曹に告ん人々の凡て犯す所の罪と神を瀆ことは赦れん然ど人々の聖靈を瀆ことは赦るべからず三二言を以て人の子に背く者は赦るべし然ど言をもて聖靈に背く者は今世に於ても亦來世に於ても赦る

べからず 三三 或は樹をも善とし其果をも善とせよ或は樹をも悪とし其果をも悪とせよ夫樹は其果に由て知るゝなり 三四 あゝ蝮の裔よ爾曹悪にして何で善を言ことを得んや夫心に充るより口に言るゝ者なれば也 三五 善人は心の善庫より善ものを出し悪人はその悪庫より悪ものを出せり 三六 われ爾曹に告ん凡て人のいふ所の虚言は審判の日に之を訴へざるを得じ 三七 それ爾その曰ところの言に由て義とせられ又其いふ言に由て罪ありとせらるゝ也○ 三八 此時ある學者とパリサイの人答て曰けるは師よ休徴をなして我儕に見せんことを爾に請ふ 三九 答て彼等に曰けるハ奸悪なる世ハ休徴を求されど預言者ヨナの休徴の外ハ之に休徴を與られじ 四十 夫ヨナが三日三夜魚の腹の中に在し如く人の子も三日三夜地の中に在べし 四一 ヨナの誨に由て悔子べの人審判の日に共に起て今の世の罪を定めん彼等ハヨナの誨に由て悔改たり夫ヨナより大なる者こゝに在 四二 南の女王さばきの日に共に起て今の世の罪を定めん彼ハ地の極よりソロモンの智慧を聽んとて來れり夫ソロモンより大なるもの此にあり 四三 悪鬼人より出て旱たる地を廻り安息を求れども得ずして曰けるハ 四四 我が出し家に歸らん既に來しに空虚にして掃淨り飾れるを見 四五 遂に往て己よりも悪き七の悪鬼を携へ偕に入て此に居がその人の後の患狀ハ前よりも更に悪かるべし此あしき世もまた此の如ならん 四六 イエス人々に語なろ時その母と兄弟かれに言ハんとて外に立けれが 四七 或人イエスに曰けるハ爾の母と兄弟なんぢに言ハんとして外に立り 四八 イエス告し者に答て曰けるハ我母ハ誰ぞ我兄弟ハ誰ぞや 四九 手を伸その弟子を指て曰けるハ是わが母わが兄弟なり 五十 蓋すべて我が天に在す父の旨を行ふ者ハ是わが兄弟わが姉妹わが母なれが也

第十三章

當日イエス家を出て海邊に坐せしに 二 多の人々彼に集り來けれがイエスハ舟に登て坐し凡の人々ハ岸に立り 三 イエス譬を以て多端の言を人々に語ハ種まく者播に出しが 四 播るとき路の旁に遺し種あり空中の鳥きたりて啄み盡せり 五 また土うすき磽地に遺し種あり直に萌出たれど

六日の出しとき灼れしかゞ根なきが故に槁たり七また棘の中に遺し種あり
棘そだちて之を蔽けり八また沃壤に遺し種あり實を結べること或ハ百倍
あるひハ六十倍あるひハ三十倍せり九耳ありて聽ゆる者ハ聽べし十弟子等
きたりて彼に曰けるハ何故に譬をもて彼等に語り給ふや十一答て曰けるハ
爾曹にハ天國の奥義を知ことを予たまへど彼等にハ予へ給ざれゞ也十二そ
れ有る者ハ予られてなほ餘あり無有者ハその有る者をも奪るゝ也十三彼等
ハ視ても見ず聽ても聽ず悟ざるが故に我譬を以て彼等に語れり十四イザヤ
の預言に爾曹ハ聽ども悟らず視ども見ず十五蓋この民目にて見耳にてきゝ
心にて悟り改めて我に醫されんことを恐その心を頑し耳を蔽ひ目を閉たり
と云しに應へり十六然ど爾曹の目ハ見爾曹の耳ハ聞が故に福なり十七わ
れ誠に爾曹に告ん多の預言者と義人ハ爾曹が見ところを見んとしたり
しが見ことを得ず爾曹が聞ところを聞んとしたりしが聞ことを得ざりき
十八故に爾曹播種の譬を聽十九天國の教を聞て悟らざれゞ惡鬼きたりて

その心に播れたる種を奪ふ是路の旁に播たる種なり二十礫地に播たる種
ハ是教を聽て速かに喜び受れども二一己に根なければ暫時のみ教の爲に
患難あるひハ迫らるゝ事の起る時ハ忽ち道に躓く者なり二二また棘の中に
播たる種ハ是教を聽ども此世の思慮と貨財の惑に教を蔽れて實らさ
る者なり二三沃壤に播たる種ハ是教を聽て悟り實を結ことあるひ
ハ六十倍あるひハ三十倍する者なり○二四また譬を彼等に示して曰けるハ
天國ハ人畑に美種を播に似たり二五人々の寢たる間に其敵きたり麥の
中に稗子を播て去り二六苗はえ出て實たるとき稗子も現れたり二七主人
の僕きたりて曰けるハ主よ畑にハ美種を播ざりしか如何して稗子ある乎
二八僕に曰けるハ敵人これを行り僕主人に曰けるハ然らば我儕ゆきて之を
拔あつむるハ宜か二九否おそらくハ爾曹稗子を拔あつめんとて麥をも共
に拔べし三十收穫まで二ながら長おけ我かりいれの時まづ稗子を拔あつめ
て焚んため之を束れ麥をゞ我が倉に收よと刈者に言ん○三一また譬を彼等

に示し曰けるハ天國ハ芥種の如し人これを取て畑に播バ 三二 萬の種より
ハ小けれども長てハ他の草より大にして天空の鳥きたり其枝に宿ほどの樹
となる也○ 三三 また譬を彼等に語けるハ天國ハ酵酵の如し婦これをとり三
斗の粉の中に藏せバ悉く脹發すなり 三四 イエス譬をもて凡て此等の
事を衆人に語たまへり譬にあらざれバ語り給ハず 三五 これ預言者に託て
我譬を設て口を啓き世の始より隱たる事を言出さんと云れたるに應せん
爲なり○ 三六 遂にイエス衆人を歸して家に入り其弟子きたりて曰けるハ
畑の稗子の譬を我儕に解たまへ 三七 之に答て曰けるハ美種を播者ハ人の
子なり 三八 畑ハこの世界なり美種ハ是天國の諸子なり稗子ハ惡覺の子類な
り 三九 之をまく敵ハ惡覺なり收穫ハ世の末なり刈者ハ天の使等なり 四十
稗子の斂て火に焚る如く此世の末に於ても此の如くなるべし 四一 人の子
その使者たちを遣して其國の中より凡て躓礙となる者また惡をなす人を斂
て 四二 之を爐の火に投入べし其處にて哀哭切齒すること有ん 四三 此とき

義人ハ其父の國に於て日の如く輝かん耳ありて聽ゆる者ハ聽べし○ 四四
また天國ハ畑に藏たる寶の如し人みいださば之を秘し喜び歸り其所有な
盡く賣てその畑を買なり○ 四五 また天國ハ好眞珠を求んとする商人の如
し 四六 一の値たかき眞珠を見出さバその所有を盡く賣て之を買なり○
四七 また天國ハ海に投て各樣の魚をとる網の如し 四八 既に盈れバ岸に曳あ
げ坐てその嘉ものを器にいれ惡ものを棄るなり 四九 世の末に於ても此の如
ならん天の使等いでゝ義者の中より惡者を取わけ 五十 之を爐の火に
投入べし其處にて哀哭切齒すること有ん○ 五一 イエス彼等に曰けるハ此事
をみな悟しや彼に曰けるハ主よ然 五二 イエス彼等に曰けるハ然バ天國につ
いて教られたる學者ハ新しき物と舊き物とを其庫より出す家の主の如し○
五三 イエスこの譬を言畢て此を去ぬ 五四 その故土にいたり會堂にて教へ
しに人々奇み曰けるハ此人の智慧と異なる能ハ何處より來るや 五五 これ
木匠の子にあらずや其母ハマリアその兄弟ハヤコブヨセシモンユダに

非ずや 五六 その妹等ハみな我儕と偕に在に非ずや然るに此人の凡て此等の事ハ何處より來しや 五七 遂に獻て之を棄イエス彼等に曰けるハ預言者ハその郷土その家の外に於て尊まれざることなし 五八 彼等か信することなきに由て多の異なる能を此に行給ハざりき

第十四章

其ころ分封の君ヘロデイエスの聲名を聞て 二 その僕に曰けるハ是バプテスマのヨハ子なり彼死より甦りたり故に異なる能を行ふなり 三 前にヘロデその兄弟ピリポの妻ヘロデヤの事に由てヨハ子を捕へ縛て獄に入たり 四 此ハヨハ子ヘロデに此婦を娶るハ宜しからずと云しに因 五 彼ヨハ子を殺さんと欲ど民これを預言者とするにより彼等を懼たりしが 六 ヘロデ誕生の日を祝へる時ヘロデヤの女その座上にて舞をなしヘロデを悅バせけれバ 七 何なる物にても求に任て予んとヘロデ之に誓たり 八 女その母の勧めしに因バプテスマのヨハ子の首を盆に載て此に賜れと曰 九 王憂けれども既に誓たると席に列れる者の爲に予ることを命じ 十 卽ち人を遣し獄に於てヨハ子の首を斬せ 十一 その首を盆に載て女に予けれバ女ハ之をその母に捧たり 十二 ヨハ子の弟子等きたりて屍を取これを葬り往てイエスに告 十三 イエスこれを聞て人をさけ舟に登て其處を去さびしき處に往給ひしが衆人きゝて歩行にて彼に從へり ○ 十四 イエス出て多の人を見て之を憫み其病る者を醫せり 十五 日くるゝ時その弟子きたりて曰けるハ此ハ寂寞きところにして時もハや遲し諸邑に往て自ら食を求させん爲に人々を去しめよ 十六 イエス彼等に曰けるハ人々往ずとも可なんぢら之に食を予よ 十七 答けるハ我儕此にたゞ五のパンと二の魚あるのみ 十八 イエス曰けるハ其を此に携來れ 十九 遂に衆人に命じて草の上に坐しめ五のパンと二の魚を取り天を仰て謝しパンを擘て弟子にあたふ弟子これを衆人に予ぬ 二十 みな食て飽その餘たる屑を拾しに十二の筐に盈たり 二一 食し者ハ婦を幼童の外おほよそ五千人なりき ○ 二二 頓てイエス衆人を歸さんとして其弟子を強て舟にのせ向の岸ハ先に渡しむ 二三 斯て衆人を歸しけれバ祈禱せんとて密に

山に上り日くれて獨そこに在せり　二四　舟は海中に在て　逆風の爲に浪に漂
へさる　二五　夜の四時ごろイエス海の上を歩て之に至しに　二六　弟子その海の
上を歩るを見て驚き此へ變化の物ならんと曰て懼れ叫たり　二七　イエス頓て
彼等に曰けるへ心安かれ我なり懼るゝ勿れ　二八　ペテロ答て曰けるへ主よ
若し爾ならば我に命じ水を履て爾の所に至しめよ　二九　來と曰給ひければペ
テロ舟より下てイエスの所に至んとて浪の上を歩たれど　三十　風の烈きを見
て懼れ沈かゝりければ主よ我を救たまへと曰　三一　イエス頓て手を伸これを
執て曰けるへ信仰うすき者よ何ぞ疑ふや　三二　偖に舟に登ければ風しづまり
ぬ　三三　舟に居し者ちかゝりて彼を拜し曰けるへ誠に爾へ神の子なり○　三四
遂に渡てゲ子サレの地に到しかば　三五　其處の人々イエスを識て遍く四方
に人を遣し凡て病の者を携へ來らしむ　三六　只その衣の裾に捫らんことをイ
エスに願へり捫し者へ則ちみな愈されたり

第十五章

時にエルサレムの學者とパリサイの人イエスに來て曰けるへ　二

爾の弟子古の人の遺傳を犯へ何故そ蓋食する時に其手を洗ざれば也　三
答て彼等に曰けるは爾曹へ亦なんぢらの遺傳によりて神の誡を犯へ何故
ぞ　四　それ神いましめて爾の父母を敬へ又父母を詈る者へ殺さるべしと宣
給へり　五　然るに爾曹へ曰て凡て人父母に對なんぢを養ふ可ものへ禮物
なりと云ば　六　その父母を敬へずとも可とす斯て爾曹遺傳により神の誡
を廢くせり　七　僞善者よイザヤへ能なんぢらに就て預言し　八　此民へ口にて我
に近き唇にて我を敬へども其心へ我に遠かり　九　人の誡を教となして
徒らに我を拜すと云り　十　イエス人々を召て彼等に曰けるへ聽て悟れ　十一　口
に入ものへ人を汚さず口より出るものへ是人を汚すなり　十二　弟子きたりて
イエスに曰けるへパリサイの人この言を聞て厭棄るを爾知か　十三　答て
曰けるへ我が天の父の植ざる者へみな拔るべし　十四　彼等を棄おけ醫者の相
する醫者なり若めしひのもの醫者の相せば二人とも溝に落べし　十五　ペテロ
イエスに答て曰けるは此譬を我儕に解たまへ　十六　イエス曰けるへ爾曹も

未だ悟ざる乎 十七 凡て口に入るものは腹を運て厠に落るを未だ知ざるか 十八 口より出るものは心より出これ人を汚すもの也 十九 蓋 心より出る所の悪念 凶殺 姦淫 苟合 盜竊 妄證 謗讟 二十 此等は人を汚ものなり 然ども手を洗ずして食ふは人を汚さず 二一 イエス此を去てツロとシドンの地に往けるに 二二 其地に住るカナンの婦いでゝ呼はり曰けるは主よダビデの裔よ我を憫み給へ我むすめ鬼に憑れて甚く苦めり 二三 イエス一言も彼に答ざりしかば其弟子きたり請て曰けるは我儕の後より呼はるが故に彼を去せ給へ 二四 答て曰けるはイスラエルの家の迷へる羊の外に我は遣されず 二五 婦きたり拜して曰けるは主よ我を助たまへ 二六 答けるは兒女のパンを取て犬に投與ふるは宜からず 二七 婦いひけるは主よ然されど犬もその主人の膳より落る屑を食なり 二八 遂にイエス答て曰けるは婦よ爾の信仰は大なり願の如く爾に成べし此時より其女いえたり○ 二九 イエス此を去かりラヤの海邊にゆき山に登りて坐せり 三十 多の人々跛者瞽者瘖者殘缺者および各樣の疾病ある者を伴ひきたりイエスの足下に置ければ卽ち之を醫しぬ 三一 是に於て瘖者は物いひ殘疾は癒跛者はあゆみ瞽者は見たるを人々見て奇みイスラエルの神を榮たり○ 三二 イエスその弟子を呼て曰けるは我この衆人を憫む彼等われと偕に居ること三日にして食ふものなし飢させて去しむることを欲ず恐くは途間にて惱ん 三三 其弟子かれに曰けるは野にて此多くの人に飽するほどのパンを何處より得んや 三四 イエス彼等に曰けるはパン幾何あるや答けるは七と些少の魚あり 三五 イエス人々に命じて地に坐しめ 三六 七のパンと魚を取て謝し之を擘て其弟子に予しかば弟子これを人々に予ふ 三七 食てみな飽たり餘の屑を拾しに七の籃に盈り 三八 之を食るもの婦と孩子の外に四千人ありき 三九 イエス人々を去しめ舟に登てマグダラの境に至れり

第十六章

パリサイとサドカイの人きたりてイエスを試んとて天の休徵を我儕に見せよと曰ければ 二 彼等に答けるは爾曹暮には夕紅に由て晴な

らんと言 三晨には朝紅また曇に由て今日は雨ならんといふ僞善者よ空の景色を別ことを知て時の休徴を別ち能はざる乎 四姦惡なる世は休徴を求るとも預言者ヨナの休徴のほか休徴を予られじ遂に彼等を離れて去ぬ○五その弟子むかふの岸に到しにパンを携ふることを忘たり 六イエス彼等に曰けるは戒心してパリサイとサドカイの人の麪酵を慎めよ 七弟子たがひに論じて曰けるは是パンを携へざりし故ならんスイエスこれを知て曰けるは信仰すき者よ何ぞ互にパンを携へざりしことを論ずる乎 九未だ悟らざるか五千人に五のパンを予しとき幾籃ひろひし乎 十また四千人に七のパンを予しとき幾籃ひろひしや爾曾これを記ざるか 十一パリサイとサドカイの人の麪酵を愼めとはパンにつきて言るに非るを何ぞ悟らざる 十二是に於て弟子その麪酵にはあらでパリサイとサドカイの人の教を謹めと言るなるを悟れり○

十三イエスカイザリヤピリピの方に到しとき其弟子に問て曰けるは人々は人の子を誰と言や 十四彼等いひけるは或人はバプテスマのヨハネ或人はエリヤ或人はエレミヤまた預言者の一人なりと言り 十五彼等に曰けるは爾曾は我を言て誰とする乎 十六シモンペテロ答けるは爾はキリスト活神の子なり 十七イエス答て彼に曰けるはヨナの子シモン爾は福なり蓋血肉なんぢに示せるに非ず天に在す吾父なり 十八我また爾に告ん爾はペテロなり我が教會をこの磐の上に建べし陰府の門は之に勝べからず 十九又われ天國の鑰を爾に予ん爾が地に於て繫ことは天に於ても繫なんぢが地に於て釋ことは天に於ても釋べし 二十遂に其弟子を戒めけるは我をキリストと人に告ることを勿れ○二一此時よりイエスその弟子に己のエルサレムに往て長老祭司の長學者等より多の苦みを受かつ殺され第三日に甦る等なすべき事を示し始む 二二ペテロイエスを援めて主よ宜らず此事なんぢに來るまじと曰ければ 二三イエス反顧てペテロに曰たまひけるはサタンよ我後に退け爾は我に礙く者なり夫なんぢは神の事を思はず人の事を思へり 二四此時イエスその弟子に曰けるは若われに從はんと欲ふ者は己を棄その十

字架を負て我に從へ　二五　そは生命を保全せんとする者ハ之を失ひ我ために其生命を失ふ者ハ之を得べければ也　二六　もし人全世界を得とも其生命を失ハゞ何の益あらん乎また人なにを以て其生命に易んや　二七　それ人の子ハ父の榮光を以てその使等と偕に來らん其時おの〳〵の行に由て報ゆべし　二八　誠に爾曹に告ん人の子その國を以て來るを見までハ此に立ものゝ中に死ざる者あるべし

第十七章

六日の後イエスペテロヤコブその兄弟ヨハネを伴ひ人を避て高山に登り給しが　二彼等の前にて其容貌かハり其面目の如く輝き其衣ハ白く光れり　三モーセとエリヤ現れてイエスと偕に語ぬ　四ペテロ答てイエスに曰けるハ主よ我儕こゝに居ハ善もし尊旨に適ハゞ我儕に三の廬を建せたまへ一ハ主のため一ハモーセのため一ハエリヤの爲にせん　五如此いへる時ハゞやける雲かれらを蔽ふ聲雲より出て言けるハ此ハ我旨に適ふわが愛子なり爾曹これに聽べし　六弟子これを聞て大におそれ倒れ伏たり　七イエス來りて彼等に手を按おきよ懼るゝ勿れと曰ければ　八其目を擧しに惟イエスのほか一人をも見ざりき　九山を下る時にイエス彼等に命じて人の子の死より甦るまでハ爾曹の見し事を人に告べからずと言り　十其弟子とふて曰けるハ然ばエリヤハ先に來べしと學者の云るハ何ぞや　十一イエス答て曰けるハ實にエリヤハ來て萬事を改むべし　十二然ど我なんぢらに告んエリヤハ既に來しに人これを知ずたゞ意の任に彼を待へり此の如く人の子もまた彼等より苦難を受べし　十三是に於て弟子バプテスマのヨハネを指て曰たまへるを悟れり　十四　彼等おほくの人の居ところに來しに或人イエスの所にきたり跪き　十五　曰けるハ主よ我子を憫みたまへ癲癇にて屢々火に倒れ水に倒れ甚だ苦めり　十六之を爾の弟子に携往たれど醫すことを得ざりき　十七イエス答て曰けるハ噫信なき曲れる世なる哉われ何時まで爾曹と偕に居んや我いつまで爾曹を忍んや彼を我もとに携來れ　十八遂にイエス鬼を戒め給へバ鬼いでゝ其子この時より愈たり　十九其とき弟子ひそかにイエスに來り曰ク

るゝ我儕これを逐出すこと能ゝざりしゝ何故ぞ　二十　イエス彼等に曰けるゝ爾曹信なきが故なり我まことに爾曹に告んもし芥種の如き信あらゞ此山に此處より彼處に移れと命ども必ず移らん又なんぢらに能ざること無るべし　二一　然ど此類ゝ祈禱と斷食に非ざれゞ出ることなし○　二二　ガリラヤを周流ときイエス彼等に曰けるゝ人の子人の手に解され　二三　かつ殺されて第三日に甦るべし弟子これを聞て甚だ哀めり○　二四　彼等カペナウンに來れるとき納金を集る者どもペテロに來て曰けるゝ爾曹の師ゝ納金を出さゞる乎　二五　然ずと曰てペテロ家に入しときイエスまづ彼に曰けるゝシモン爾ゝ如何おもふや世界の王たちゝ稅および貢を誰より徵か己の子より徵か他の者より徵か　二六　ペテロ彼に曰けるゝ他の人より徵なりイエス彼に曰けるゝ然ゞ子ゝ與ることなし　二七　然ど彼等を礙かせざる爲に爾海に往て釣を垂よ初につる魚を取てその口を啓かば金一を得べし其を取て我と爾の爲に彼等に納よ

第十八章

其とき弟子イエスに來て曰けるゝ天國に於て大なる者ゝ誰ぞや　二　イエス嬰兒を召かれらの中に立て　三　曰けるゝ我まことに爾曹に告んもし改まりて嬰兒の若くならずゞ天國に入ことを得じ　四　然ゞ凡そこの嬰兒の若く自ら謙る者ゝこれ天國に於て大なる者なり　五　又わが名の爲に此の如き一人の嬰兒を接る者ゝ我を接るなり　六　然ど我を信ずる此小子の一人を礙かする者ゝ磨石をその頸に懸られて海の深に沈られん方なほ益なるべし　七　此世ゝ禍なる哉そゝ礙かする事をすれゞなり礙く事ゝ必ず來らん然ど礙を來らす者ゝ禍ある哉　八　若し爾の手なんぢの足おのれを礙かさゞ斷て之を棄よ兩手兩足ありて盡ざる火に投入られんよりゝ跛またゝ殘缺にて生に入ゝ善なり　九　もし爾の眼おのれを礙かさゞ拔出して之を棄よ兩眼ありて地獄の火に投入られんよりゝ一眼にて生に入ゝ善なり○　十　爾曹この小子の一人をも愼みて輕視なかれ我なんぢらに告ん彼等が天の使者ゝ天にありて天に在す吾父の面を常に觀ゞなり　十一　それ人の子ゝ亡たる者を救ゝん

爲に來れり　十二　爾曹いかに意ふや人もし百匹の羊あらんに其一匹まよへ
ゞ九十九を山に置ゆきて迷し一を尋ざる乎　十三　若たづねて之に遇ば我まこ
とに爾曹に告ん迷ざる九十九の者よりも倘その一を喜ん　十四　是の如くこの
小子の一人の亡るゝ天に在す爾曹が父の尊旨に非ず　十五　もし兄弟あん
ぢに罪を犯ばその獨ある時に往て諫よもし爾の言を聽ばその兄弟を獲べ
し　十六　もし聽ずば兩三人の口に由て證をなし凡の言を定んが爲に一人
二人を伴ひ往　十七　もし彼等にも聽ずば教會に告よもし教會に聽ずば之を
異邦人かつ稅吏のごとき者とすべし　十八　我まことに爾曹に告ん凡そ爾曹が
地に於て繫ことゝ天に於もつなぎ爾曹が地に於て釋ことゝ天に於も釋べし
十九　我また爾曹に告んもし爾曹のうち二人のもの地に於て心を合せ何事に
ても求ば天に在す吾父ゝ彼等の爲に之を成たまふべし　二十　蓋わが名の爲に
二三人の集れる處にゝ我も其中に在ばなり○　二一　厥時ペテロイエスに來り
て曰けるゝ主よ幾次まで我兄弟の我に罪を犯を赦べきか七次まで乎　二二
イエス彼に曰けるゝ爾に七次とゝ言じ七次を七十倍せよ　二三　是故に天國ゝ
王その臣と會計を調んとするが如し　二四　調べ始しとき千萬金の負債し
たる者を王に曳來りしに　二五　償ひ方なかりければ之に命じて其身その妻孥
とあらゆる所有をみな鬻て償へと曰り　二六　その臣俯伏て拜し曰けるゝ請
われを寬し給ゝゞ皆償ふべし　二七　是にその臣の主憐みて之を釋そ
の負債を免したり　二八　其臣いでゝ己より銀一百の負債したる友に遇
ければゞ之を執へ喉をとり負債を返せと曰　二九　その友足下に俯伏て求ひけ
るゝ我を寬し給ゝゞ皆償ふべし　三十　然るに之を肯ゝずして往その負債を償
ふまで彼を獄に入ぬ　三一　外の友その爲る事を見て甚だ哀み往て此事を皆
その主に告しかば　三二　主かれを召て曰けるゝ惡き臣よ爾われに求しに因て
我その負債を悉く免したり　三三　我あんぢを憐みし如く爾も亦友を憐むべ
きに非ずや　三四　その主いかりて負債をみな償ふまで彼を獄吏に付せり
三五　若おの〳〵其心より兄弟を赦ずば我が天の父も亦あんぢらに此の如

く行給ふべし

第十九章　イエス此等の事を言畢りしときガリラヤを去てヨルダンの外ユ
ダヤの境に至りけるに　二多の人々從ひしかば此處にて彼等を醫し給へり
三パリサイの人きたりてイエスを試みに曰けるは人おのの故に係らず其妻を
出すは宜しか　四答て彼等に曰けるは元始に人を造り給ひし者は之を男女に造
れり　五是故に人父母を離れて其妻に合二人のもの一體となりと云るを未
だ讀ざるか　六然れば彼はもう二には非ず一體なり神の合せ給へる者は人これを離
すべからず　七イエスに曰けるは然れば離縁狀を予て妻を出せとモーセが命
ぜしは何ぞや　八彼等に曰けるはモーセは爾曹の心の不情に因て妻を出すこと
を容したる也されど元始は如此あらざりき　九我なんぢらに告んもし姦淫の
故ならで其妻を出し他の婦を娶る者は姦淫を行ふなり又いだされたる婦を
娶る者も姦淫を行ふなり　十弟子等イエスに曰けるは若し人妻に於て此の如
くば娶らざるに若ず　十一彼等に曰けるは此言は人みな受納ることを能はず唯

賦られたる者のみ之を爲うべし　十二それ母の腹より生來たる寺人あり又人
にせられたる寺人あり又天國の爲に自らなれる寺人あり之を受納ることを
得るものは受納べし○十三其とき人々イエスの手を按て祈らんことを求ひ嬰
兒を彼に携來りければ弟子是を阻たり　十四イエス曰けるは嬰兒を容せ我に
來ることを禁しむる勿れ天國になる者は此の如き者なり　十五卽ち彼等に手
を按て此を去ぬ○十六或人きたりて彼に曰けるは善師よ我かぎりなき生を
得んが爲には何の善事を行べきか　十七彼に曰けるは何故われを善と稱や一
人の外に善者はなし卽ち神なり若し生命に入んと欲ふ誡を守るべし　十八
彼こたへけるは何かイエス曰けるは殺す勿れ姦淫する勿れ盜む勿れ妄りの
證を立る勿れ　十九爾の父と母を敬へ又己の如く爾の隣を愛すべし　二十少
者かれに曰けるは是みな我いとけなきより守れるものなり何の虧たるところ
ぞ我にあるや　二十一イエス彼に曰けるは全からんと欲ふ往て爾が所有を
售て貧者に施せ然れば天に於て財あらん而して來り我に從へ　二十二少者

この言を聞て憂へ去ぬ彼の產業おほいありければ也○ 二三 イエスその弟子に曰けるハ誠に爾曹に告ん富者ハ天國に入こと難し 二四 また爾曹に告ん富者の神の國に入よりハ駱駝の針の孔を穿ハ却て易し 二五 弟子之を聞て甚く驚き曰けるハ然ば誰か救を受べき乎 二六 イエス彼等を見て曰けるハ是人に能ハざる所あり然ど神にハ能ハざる所なし○ 二七 此ときペテロ答てイエスに曰けるハ我儕一切を棄て爾に從へり然ば何を得べき乎 二八 イエス彼等に曰けるハ我まことに爾曹に告ん我に從へる爾曹ハ世あらたまり人の子榮光の位に坐する時あんぢらも十二の位に坐してイスラエルの十二の支派を鞫べし 二九 凡て我名の爲に家宅あるひハ兄弟あるひハ姉妹あるひハ父あるひハ母あるひハ妻あるひハ子あるひハ田畠を棄る者ハ百倍を受かつ窮き生を嗣ん 三十 多の先なる者は後になり後なる者ハ先になるべし

第二十章

工人にハ一日に銀一枚を予んと約束をなし彼等を葡萄園に遣せり 三 それ天國ハ朝はやく出て葡萄園に工人を雇ふ主人の如し 二 また九時ごろ出て街に徒く立る者を見て 四 爾曹も葡萄園にゆけ相當の價を予へしと彼等に曰ければ則ち往り 五 また十二時と三時ごろ出て前の如く行り 六 五時ごろ出て又ほかの立る者に遇て曰けるハ何ゆゑ終日こゝに徒く立や 七 之に答て曰けるハ我儕を雇ふ者なきに因てなり彼等に曰けるハ爾曹も葡萄園にゆけ相當の價を得べし 八 日暮るとき葡萄園の主人その家宰に曰けるハ勞力たる者等を呼て後に雇へる者を始とし先の者にまで價を給へよ 九 五時ごろに雇ハれし者ども來りて銀一枚づゝを受たり 十 先の者ども來りて我儕ハ多く受るならんと意ひしに亦銀一枚づゝを受 十一 れを受て主人を怨つぶやきけるハ 十二 この後至者の勞力たるハ一時ばかりなるに終日くるしみを任あつさに當る我儕と均しく之をなせり 十三 主人その一人に答て曰けるハ友よ我なんぢに不義をせず爾と銀一枚の約束をなしたるに非ずや 十四 爾のものを取て往われ亦この後至者にも爾の如く予ふべし 十五 我物を以て我おもふ如く行ハ宜らず乎わが善に因て爾の目あしき乎 十六 此の如く

後の者ハ先に先の者ハ後にあるべし夫よばるゝ者は多しと雖も選るゝ者ハ少なし○十七イエスエルサレムに上るとき途間にて人を離れ十二弟子を伴ひて彼等に曰けるハ十八我等エルサレムに上り人の子ハ祭司の長と學者等に賣されん彼等これを死罪に定め十九また凌辱鞭ち十字架に釘んため異邦人に解すべし又第三日に甦へるべし○二十其時ゼベダイの子等の母その子と偕にイエスに來り拜して彼に求ること有けれバ二一之に曰けるは何を欲ふかイエスに曰けるハ此二人の我子を爾の國に於て一人ハ爾の右一人ハ爾の左に坐ることを命ぜよ二二イエス答て曰けるハ爾曹は求ところを知ず爾曹ハ我が飲んとする杯をのみ又わが受んとするバプテスマを受得るや彼等いひけるハ能すべし二三イエス彼等に曰けるは誠に爾曹ハ我が杯を飲また我うくるバプテスマを受べし然ど我右左に坐ることハ我賜べきに非ず只わが父に備られたる者ハ賜らるべし二四十人の弟子これを聞て二人の兄弟を憤れり二五イエス彼等を召て曰けるハ異邦の領主ハその民を主どり大人どもハ彼等の上に權を操これ爾曹が知ところ也二六然ど爾曹の中にてハ然すべからず爾曹のうち大あらんと欲ふ者ハ爾曹に役るゝ者となるべし二七また爾曹のうち首たらんと欲ふ者ハ爾曹の僕となるべし二八此の如く人の子の來るも人を役ふ爲には非ず反て人に役ハれ又おほくの人に代て生命を予その贖とならん爲なり○二九彼等エリコを出し時おほくの人々イエスに從へり三十二人の瞽者路の旁に坐りしがイエスの過ると聞て呼叫いひけるハダビデの裔主よ我儕を憫み給へ三一衆人これに默れと戒むれども愈さけび曰けるハダビデの裔主よ我儕を憫みたまへ三二イエス立て之を呼ひけるハ爾曹われに何を爲られんと願ふや三三イエスに曰けるハ主よ我儕目の啓んことを願ふ三四イエス憫みて其目に手を按けれバ直に見ることを得イエスに從へり

第二十一章

かれら橄欖山のベテパゲに至りエルサレムに近ける時イエス二人の弟子を遣さんとして二彼等に曰けるハ爾曹むかふの村に往やがて繫

たる驢馬の其子と偕にあるに遇んヲ夫を解て我に牽きたれ　三若あんぢらに何とか言ものあらば主の用ありと曰さらば直に之を遣すべし　四預言者の言に視よ爾の王は柔和にして驢馬すあいち驢馬の子に乘あんぢに來るとシヲンの女に告よと　五云るに應せん爲に如此あせる也　六弟子ゆきてイエスの命ぜし如くあし　七驢馬と其子を牽きたり己の衣をその上に置けれバイエスこれに乘り　八衆人おほくハ其衣を途に布あるひハ樹枝を伐て途に布ぬ　九かつ前にゆき後に從ふ人々呼いひけるハダビデの裔ホザナよ主の名に託て來る者ハ福あり至上處にホザナよ　十イエスエルサレムに至れるさき都城こぞりて竦動ひけるハ是誰ぞや　十一衆人いひけるハ此ハガリラヤのナザレより出たる預言者イエスあり　十二イエス神の殿に入て其中なる凡の賣買する者を逐出し兌銀者の案鴿をうる者の椅子を倒し　十三彼等に曰けるハ我家ハ祈禱の家と稱らるべしと錄さる然るに爾曹これを盜賊の巢とおせり　十四瞽者跛者の人々殿に入てイエスに來りけれバ之を醫しぬ

十五祭司の長と學者たち其行たまへる奇事を見また兒童輩の殿にて呼ハりダビデの裔ホザナよと云を聞て怒を含　十六イエスに曰けるハ彼等が言ことを聞やイエス答て曰けるハ然り嬰兒乳哺者の口に讃美を備たりと錄されしを未だ讀ざる乎　十七遂に彼等を離れ都城を出てベタニヤに往そこに宿れり　十八翌あさ都城へ返るとき飢けれバ　十九路の旁にあるの無花果の樹を見て其處に來りしに葉の他に何も見ざりしかば今よりのち永久も果を結ぶことを得ざれと之に曰たまひけれバ無花果立刻に枯ぬ　二十弟子これを見て奇み曰けるハ無花果の枯ることは何に速や　二一イエス答て彼等に曰けるハ我まことに爾曹に告んもし信仰ありて疑ハずバ此無花果に於るが如耳あらず此山に命じ此より移されて海に入よと云とも亦成ん　二二且あんぢら信じて祈らば求ふ所ことごとく得べし　二三イエス殿に入て教たるとき祭司の長および民の長老たち來り曰けるハ何の權威を以て此事をなすや誰この權威を爾に予しや　二四イエス答て彼等に曰けるハ我も一言あんぢ

らに問ん我にその事を告おゞ我も何の權威をもて之を行さいふことをあんぢらに曰べし　二五　ヨハネの バプテスマハ何處よりぞ天よりか人よりか彼等たがひに論じ曰けるハ若し天より云ゞ然ゞ何ゆゑ信ぜざるかと云ん　二六　もし人より云ゞ我儕民を畏る蓋みなヨハネを預言者と爲ゞなり　二七　遂に答て知ずと曰イエス彼等に曰けるハ我も何の權威を以て之を行か爾曹に語らじ　二八　爾曹いかに意ふや或人二人の子ありしが長子に來りて曰けるハ子よ今日わが葡萄園に往て働け　二九　答て否と曰しがのち悔て往たり　三十　また次子にも前の如く曰けるに答て君よ我往べしと曰しが遂に往ざりき　三一　此二人のもの孰か父の旨に遵ひし彼等いひけるハ長子なりイエス彼等に曰けるハ誠に爾曹に告ん　稅吏および娼妓ハ　爾曹より先に神の國に入べし　三二　夫ヨハネ義道をもて來りしに爾曹これを信じたり爾曹これを見てなほ悔改めず彼を信ぜざりき○　三三　また一の譬を聞ある家の主人葡萄園を樹りを環らし其中に酒搾をほり塔をたて農夫に貸て他の國へ往しが　三四　果期ちかづきければ其果を收ん爲に僕を農夫のもとに遣せり　三五　農夫ども其僕等を執へ一人を鞭ち一人を殺し一人を石にて擊り　三六　また他の僕を前よりも多く遣しけるに之にも前の如くなせり　三七　我子ハ敬ふならんと謂て終に其子を遣しるに　三八　農夫等その子を見て互に曰けるハ此ハ嗣子なり率これを殺して其產業をも奪べしと　三九　即ち之を執へ葡萄園より逐出して殺せり　四十　然ゞ葡萄園の主人きたらん時にこの農夫に何を爲べき乎　四一　彼等イエスに曰けるハ此等の惡人を甚く討滅し期に及てその果を納る他の農夫に葡萄園を貸予ふべし　四二　イエス彼等に曰けるハ聖書に工匠の棄たる石は家の隅の首石となれり是主の行給ることにして我儕の目に奇とする所なりと錄されしを未だ讀ざる乎　四三　是故に我なんぢらに告ん神の國を爾曹より奪その果を結ぶ民に予らるべし　四四　この石の上に墜るものハ壞この石上に墜れゞ其もの碎かるべし　四五　祭司の長等およびパリサイの人かれの譬を聞おのれらを指て言る

を識四六イエスを執へんと欲ひ謀しかど唯民を畏たり蓋人々かれを預言者とすれば也

第二十二章

イエス彼等に答てまた譬を語りけるハ二天國ハ或王その子の爲に婚筵を設るが如し三婚筵に請おけるものを迎ん爲に僕たちを遣しるかど彼等きたることを好まず四又ほかの僕を遣さんとして曰けるハ我が筵すでに備れり我が牛また肥畜をも宰りて盡く備りたれば婚筵に來れと請たる者に言五然ども彼等かへりみずして去ぬ其一人ハ己の田にゆき一人ハ己の貿易に往り六他の物等へその僕を執へ辱しめて殺せり七王これを聞て怒り軍勢を遣して其殺せる者を亡し又その邑を燒たり八是に於てその僕等に曰けるハ婚筵すでに備れども請たる者は客となるに堪ざる者なれば九衢に往て遇ほどの者を婚筵に請け十その僕途に出て善者をも惡者をも遇ほどの者を悉く集れば婚筵の客充滿す十一王客を見んとて來りけるに茲に一人の禮服を着ざる者あるを見て十二之に曰けるハ友よ如何なれば禮服を着ずして此處に來る乎かれ默然たり十三遂に王僕に曰けるハ彼の手足を縛りて外の幽暗に投いだせ其處にて哀哭また切齒することあらん十四それ召るゝ者ハ多しと雖も選るゝ者ハ少なし○十五此時パリサイの人いでゝ如何してか彼を言誤らせんと相謀り十六その弟子とヘロデの黨を遣して云せけるハ師よ爾ハ眞なる者なり眞をもて神の道を教また誰にも偏らざることを我儕ハ知そハ貌に由て人を取ざれば也十七然れば貢をカイザルに納るハ善や惡や爾いかに意ふか我儕に告よ十八イエスその惡を知て曰けるハ僞善者よ何ぞ我を試むるや十九貢の銀錢を我に見せよ彼等デナリ一をイエスに携來りしに二十之に曰けるハ此像と號は誰か二一答てカイザル也といふ是に於てイエス彼等に曰けるハ然ればカイザルの物ハカイザルに歸しまた神の物ハ神に歸べし二二彼等之をきゝ奇としてイエスを去ゆけり○二三復生なしと言なせるサドカイの人この日イエスにきたり問て二四曰けるハ師よモーセの云るに人もし子なくして死ば兄弟その妻を娶りて

子をうみ兄弟の後を嗣すべしと 二五 茲に我儕の中に兄弟七人ありしが兄めとりて死子なきが故に其妻を次子に遺れり 二六 その二その三その七まで皆然す 二七 後つひに婦もまた死たり 二八 甦るときハ此婦七人のうち誰の妻と爲べきか是みな彼を娶し者なれバ也 二九 イエス答て彼等に曰けるハ爾曹聖書をも神の能力をも知ざるに由て謬れり 三十 それ甦るときハ娶らず嫁ず天にある神の使等の如し 三一 死し者の甦ることに就てハ爾曹に神の告たまひし言に 三二 我ハアブラハムの神イサクの神ヤコブの神なりとあるを未だ讀ざる乎そも〳〵神ハ死し者の神に非ず生る者の神なり 三三 人々これを聞て其訓を驚けり○ 三四 イエスサドカイの人を黙して口を塞がしめたりと聞てパリサイの人一處に集りけるが 三五 その中なる一人の教法師イエスを試みん爲に問て曰けるハ 三六 師よ律法のうち何の誡か大なる 三七 イエス答けるハ爾心を盡し精神を盡し意を盡し主なる爾の神を愛すべし 三八 これ第一にして大なる誡なり 三九 第二も亦これに同じ己の如く爾の隣を愛すべし 四十 凡の律法と預言者ハ此二の誡に因り○ 四一 パリサイの人の集れる時イエス彼等に問て曰けるハ 四二 爾曹キリストについて如何おもふ乎これ誰の子なるか彼等イエスに曰けるハダビデの裔なり 四三 彼等に曰けるハ然ばダビデ靈に感じて何故これを主と稱へし乎ダビデ言 四四 主わが主に曰けるハ我なんぢの敵を爾の足凳とおすまで我みぎに坐すべしと 四五 然ばダビデ既に之を主と稱たれバ如何その子ならん乎 四六 誰一言これに答ることを能はず此日より敢て又とふ者なかりき

第二十三章

厭時イエス人々と弟子とに告て曰けるハ 二 學者とパリサイの人はモーセの位に坐す 三 故に凡て彼等が爾曹に言ところを守て行ふべしの然ど彼等が行ふ所を爲を勿れ蓋かれらハ言のみにして行ハざれバ也 四 また彼等ハ重かつ負がたき荷を括て人の肩に負せ己ハ一の指をもて之を動すことすら好ず 五 彼等の行ハ凡て人に見れんが爲にする也その佩經を幅濶し其衣の裾を大にし 六 また筵席の上座會堂の高座 七 市上の問安人々

よりラビ、ラビと稱られんとを好む　八爾曹はラビの稱を受ること勿れ蓋なんぢらの師は一人すなはちキリストなり爾曹はみな兄弟なり　九また地にある者を父と稱ることなかれ爾曹の父は一人すなはち天に在す者なり　十また導師の稱を受ることなかれ蓋なんぢらの導師は一人すなはちキリストなり　十一爾曹のうち大なる者は爾曹の僕となるべし　十二凡そ自己を高する者は卑せられ自己を卑する者は高せられん○　十三噫なんぢら禍なるかな僞善なる學者とパリサイの人よ蓋なんぢら天國を人の前に閉て自ら入ず且いらんとする者の入をも許さざれば也　十四噫なんぢら禍なるかな僞善なる學者とパリサイの人よ蓋なんぢら嫠婦の家を呑いつはりて長き祈をなす之に由て爾曹最も重審判を受べければ也　十五あゝ禍なるかな僞善なる學者とパリサイの人よ蓋なんぢら徧く水陸を歷巡り一人をも己が宗旨に引入んとす既に引入れば之を爾曹よりも倍したる地獄の子と爲り　十六噫なんぢら禍なるかな瞽者なる相よ爾曹はいふ人もし殿を指て誓へば何事なし殿の金を指て誓へば背べからずと　十七愚にして瞽なるものよ金と金を聖がらしむる殿とは孰か尊き　十八又いふ人もし祭の壇を指て誓へば何事なし其上の禮物を指て誓へば背べからずと　十九愚にして瞽なる者よ禮物と禮物を聖がらしむる祭の壇とは孰か尊き　二十それ祭の壇を指て誓ふ者は祭の壇および其上の凡の物を指て誓ふなり　二一また殿を指て誓ふ者は殿および其中に在す者を指て誓ふなり　二二また天を指て誓ふ者は神の寶座および其上に坐する者を指て誓ふなり○　二三噫なんぢら禍なるかな僞善なる學者とパリサイの人よ蓋なんぢら薄荷、茴香、馬芹の十分の一を取納て律法の最も重き義と仁と信とを爾曹は廢これ行ふ可もの也かれも亦廢べからざる者なり　二四瞽者なる相者よ爾曹は蝨を濾出して駱駝を呑もの也　二五あゝ禍なる哉僞善なる學者とパリサイの人よ爾曹杯と盤の外を潔して內には貪欲と淫欲とを充せり　二六瞽者なるパリサイの人よ爾曹まづ杯と盤の內を潔せよ然ばその外も亦きよまるべし○　二七噫なんぢら禍なる哉僞善なる

る學者とパリサイの人よ爾曹ハ白く塗たる墓に似たり外ハ美しく見れども
内ハ骸骨と諸の汚穢にて充 二八 此の如く爾曹もまた外ハ義く人に見れど
も内ハ偽善と不法にて充 二九 噫あんぢら禍あるかな偽善なる學者とパリ
サイの人よ爾曹預言者の墓をたて義人の碑を飾れり 三十 又いふ我儕もし
先祖の時にあらバ預言者の血を流すことに與せざりしなと 三一 然バ爾曹ハ
預言者を殺し者の裔なることを自ら證す 三二 なんぢら先祖の量を充せ 三三
蛇蝮の類よ爾曹いかで地獄の刑罰を免れんや 三四 是故に我爾曹に預言
者と智者と學者を遣さんに或ハ之を殺し又十字架に釘 或ハ其會堂にて
之を鞭ち或ハ邑より邑へ逐苦めん 三五 そは義なるアベルの血より殿と祭
の壇の間にて爾曹が殺しバラキアの子ザカリアの血に至るまで地に流した
る義人の血ハ凡て爾曹に報來らんが爲なり 三六 われ誠に爾曹に告ん此事
みな此代に報來るべし 三七 噫エルサレムよエルサレムよ預言者を殺し爾
に遣さるゝ者を石にて擊ものよ母雞の雛を翼の下に集る如く我なんぢの赤
子を集んとせしこと幾次ぞや然ど爾曹ハ好ざりき 三八 視よ爾曹の家ハ荒地
となりて遺れん 三九 われ爾曹に告ん主の名に託て來る者ハ福なりと爾曹
の云んとき至るまでハ今より我を見ざるべし

第廿四章

イエス殿より出けれバ其弟子すゝみて殿の構造を彼に觀せん
としたりしに 二 イエス彼等に曰けるハ何の時このこと有や又
に爾曹に告ん此處に一の石も石の上に圮れずしてハ遺らじ 三 イエス橄
欖山に坐し給へるとき弟子ひそかに來りて曰けるハ何の時このこと有や又
爾の來る兆と世の末の兆ハ如何なるぞや我儕に告たまへ 四 イエス答て彼等
に曰けるハ爾曹人に欺かれざるやう慎よ 五 蓋おほくの人わが名を冒き
たり我ハキリストなりと云て多の人を欺くべし 六 又なんぢら戰と戰の風聲
をきかん然ど慎て懼るゝ勿れ此等の事ハ皆ある可なり然ども末期ハ未だ
至らず 七 民おこりて民をせめ國ハ國をせめ饑饉、疫病、地震とこころ〳〵に
有ならん 八 是みな禍の始なり 九 其とき人なんぢらを患難に付し爾曹を殺

すべし又なんぢら我名の爲に萬民に憎まれん十此とき許多のもの躓かつ互に付し互に憾むべし十一また僞預言者おほく起て多の人を欺かん十二また不法みつるに因て多の人の愛情ひやうかに爲べし十三然ど終まで忍ぶ者ハ救るゝことを得ん十四また天國の此福音を萬民に證せん爲に普く天下に宣傳られん然るのち末期いたるべし十五是故に預言者ダニエルに託て言れたる所の殘暴にくむべきもの聖處に立を見バ（讀者よく思ふべし）十六厥時ユダヤにたる者ハ山に遁れよ十七屋上に在ものハ其家の物を取んとて下る勿れ十八田にたる者ハ其衣を取んとて歸る勿れ十九其日にハ孕める者と乳を飲する婦ハ禍なる哉二十爾曹冬またハ安息日に逃ることを免れん爲に祈れ二一其とき大なる患難ありこの如き患難ハ世の始より今に至るまで有ざりき又後にも有じ二二若その日を少くせられずバ一人だに救るゝ者なからん然ど選れし者の爲に其日ハ少くせらるべし二三其時もしキリスト此處にあり彼處にありと爾曹にいふ者あるとも信ずる勿れ二四そハ僞

キリスト僞預言者たち起て大なる休徵と異能を行ひ選れたる者をも欺くことを得バ之を欺く可れバ也二五われ預じめ爾曹に之を告二六若キリスト野に在といふ者あるとも出る勿れ室に在と云もの有とも信ずる勿れ二七そハ電の東より出て西にまで閃くが如く人の子も來るべけれバ也二八それ屍のある處にハ鷲あつまらん二九此等の日の患難の後たゞちに日ハ晦く月ハ光を失ひ星ハ空よりおち天の勢ひ震ふべし三十其とき人の子の兆天に現るまた地上にある諸族ハ哭み且人の子の權威と大なる榮光をもて天の雲に乘來るを見ん三一又その使等を遣し筩の大なる聲を出しめて天の此極より彼極まで四方より其選れし者を集むべし○三二夫なんぢら無花果樹に由て譬を學べ其枝すでに柔かにして葉萌めバ夏の近きを知三三此の如く爾曹も凡て此等の事を見バ時ちかく門口に至ると知三四われ誠に爾曹に告ん此等の事ことゝく成まで此民ハ廢ざるべし三五天地ハ廢ん然ど我言ハ廢じ三六その日その時を知ものハ唯わが父のみ天

の使者も誰もしる者なし 三七 ノアの時の如く人の子の來るも亦然らん 三八
それ洪水の前ノア方舟にいる日までハ人々飲食嫁娶などして 三九 洪
水の來り悉く之を滅すまで知ざりき此の如く人の子も亦きたらん 四十 其
ときに二人田に在んに一人ハ取れ一人ハ遺さるべし 四一 二人の婦磨ひき居
んに一人ハとられ一人ハ遺さるべし 四二 是故に爾曹の主いづれの時きたる
かを知ざれバ怠らずして守れ 四三 爾曹これを知もし家の主人ぬすびと何の
時きたるかを知バ其家を守て破らすまじ 四四 然バ爾曹もまた預備せよ意ざ
る時に人の子きたらんと爲バなり 四五 時に及て糧を彼等に予さする爲に主
人がその僕等の上に立たる忠義にして智僕ハ誰なる乎 四六 その主人
の來らん時かくの如く勤るを見るゝ僕ハ福なり 四七 我まことに爾曹に告
ん其所有をみな彼に督らすべし 四八 若その惡僕おのが心に我が主人
の來るハ遲らんと意ひ 四九 その朋輩を打撻きて酒に醉たる者ども共に飲
食し始なバ 五十 その僕の主人おもハざるの日しらざるの時に來りて 五一 之
を斬殺し其報を僞善者と同うすべし其處にて哀哭切齒すること有ん

第二十五章

其とき天國ハ燈を執て新郎を迎に出る十人の童女に比ふ
べし 二 その中の五人ハ智く五人ハ愚なり 三 愚なる者ハ其燈をとるに油を
携へざりしが 四 智き者ハ其燈と兼に油を器に携へたり 五 新郎おそかり
ければ皆假寢して眠れり 六 夜半バに叫びて新郎きたりぬ出て迎よと呼聲あ
りければ 七 この童女ども皆おきて其燈を整へたるに 八 愚なるもの智き
者に曰けるハ我儕の燈熄んとす願くハ爾曹の油を我儕に分予よ 九 智き
もの答て曰けるハ我儕と爾曹とに恐くハ足まじ爾曹賣者に往て己が爲に買
十 かれら買んとて往しとき新郎きたりけれバ既に備たる者ハ之と偕に婚筵
に入しかバ門ハ閉られたり 十一 斯て後その餘の童女きたりて曰けるハ主よ
主よ我儕の爲に開たまへ 十二 答て我まことに爾曹に告ん我ハ爾曹を知ずと
曰り 十三 然バ怠らずして守れ爾曹ゥの日その時を知ざれバ也○ 十四 また天
國ハ或人の旅行せんとして其僕をよび所有を彼等に預るが如し 十五 各人

の智慧に從ひて或者には銀五千或者には二千或者には一千を予おき直に旅行せり　十六　五千の銀を受し者は往て之を貿易し他に五千を得たり　十七　二千を受し者もまた他に二千を得たり　十八　然るに一千を受し者は往て地を堀その主の金を藏せり　十九　歷久て後その僕等の主かへりて彼等と會計せしに二十　五千の銀を受し者その他に五千の銀を携來りて主よ我に五千の銀を預しが他に五千の銀を儲たりと曰ければ　二一　主かれに曰けるはあゝ善かつ忠なる僕ぞ　爾寡なる事に忠なり我なんぢに多ものを督らせん爾の主人の歡樂に入よ　二二　二千の銀を受し者きたりて主よ我に二千の銀を預しが他に二千の銀を儲たりと曰ければ　二三　主かれに曰けるはあゝ善かつ忠なる僕ぞ　なんぢ寡なる事に忠なり我なんぢに多ものを督らせん爾の主人の歡樂に入よ　二四　また一千の銀を受し者きたりて曰けるは主よ爾は嚴人にて播ざる處より穫ちらさゞる處より歛る事を我は知　二五　故に我懼てゆき主の一千の銀を地に藏し置り今なんぢ爾の物を得たり　二六　その主こたへて曰けるは

惡かつ惰れる僕ぞ　爾わが播ざる處より刈り散さゞる處より歛ることを知か　二七　然らば我が金を兌換舖に預置べきなり　然ば我が歸たるとき本と利とを受べし　二八　是故に彼の一千の銀を取て十千の銀ある者に予よ　二九　それ有る者は予られて尙あまりあり無有者はその有る物をも奪るる也　三十　無益なる僕を外の幽暗に逐やれ其處にて哀哭切齒することあらん○三一　人の子おのれの榮光をもて諸の聖使を率來る時はその榮光の位に坐し　三二　萬國の民をその前に集め羊を牧者の綿羊と山羊とを別が如く彼等を別ち　三三　綿羊をその右に山羊をその左に置べし　三四　斯て王その右にある者に云ん吾父に惠るゝ者よ來りて創世より以來なんぢらの爲に備られたる國を嗣　三五　蓋なんぢら我か飢し時われに食せ渴しとき我に飲せ旅せし時われを宿らせ　三六　裸なりし時われに衣せ病しとき我をみまひ獄に在しとき我に就れば　三七　是に於て義者かれに答て云ん主よ何時なんぢの飢たるを見なり　三七　是に於て義者かれに答て云ん主よ何時なんぢの飢たるを見て食せまた渴たるに飲しゝ乎　三八　何時主の旅したるを見て宿らせ又裸なる

に衣しや 三九 何時主の病また獄に在を見て爾に至りし乎 四十 王こたへて彼等に曰ん我まことに爾曹に告ん既に爾曹わが此兄弟の最微者の一人に行へそは卽ち我に行しなり 四一 遂にまた左になる者に曰ん罰せらるべき者よ我を離れて惡魔と其使者の爲に備たる熄ざる火に入よ 四二 蓋なんぢら我が飢し時われに食せず渴しとき我に飲せず 四三 旅せし時われを宿らせず裸なりし時われに衣ず病また獄に在し時われを顧ざれば也 四四 是に於て彼等また答て曰ん主よ何時なんぢの飢また渴また旅し又裸また病また獄に在を見て主に事ざりし乎 四五 其とき王こたへて彼等にいへん我まことに爾曹に告ん此最微者の一人に行はざるは即ち我に行はざりし也 四六 此等の者は窮なき刑罰にいり義者は窮なき生命に入べし

第二十六章

偖イエスこの諸の言を言竟りて其弟子に曰けるは 二 二日ののち逾越節なるは爾曹が知ところ也それ人の子は十字架に釘られん爲に付さるべし 三 此とき祭司の長および民の長老等カヤパと云る祭司の長の邸の庭に集り 四 詭計をもてイエスを執へ殺さんと共々に謀いひけるは 五 祭の日には行べからず恐くは民の中に亂おこらん○ 六 イエスベタニヤの癩病人シモンの家に居たまへる時 七 ある婦 巖石の器物に價たかき香膏を盛てイエスの食する所に携來り其首に斟しかば 八 弟子等之を見て怒を含曰けるは此糜費のことを爲は何故ぞや 九 若之を賣ば多の金を得て貧者に施すことを得ん 十 イエス知て彼等に曰けるは何ぞ此婦を惱すや彼は我に善事を行へる也 十一 貧者は常に爾曹と偕にあれど我は常に爾曹と偕に在ず 十二 彼がこの香膏を我體に斟しは我の葬の爲に行る也 十三 われ誠に爾曹に告ん天の下いづくにても此福音の宣傳らるゝ處には此婦の行し事もその記念の爲に言傳らるべし○ 十四 其とき十二弟子の一人あるイスカリオテのユダと云るもの祭司の長等の所に往て曰けるは 十五 我なんぢらに彼を賣さば幾何を與るか遂に銀三十にて約したり 十六 此時よりイエスを賣さん機を窺ひぬ○ 十七 除酵節の首の日弟子イエスに來り曰けるは我

儲すぎこしの食を爾の爲に何處に備ふべき平　十八　イエス曰けるは京城にいり某に至ていへ師いふ我が時近きければ我弟子と偕に逾越の節筵を爾が家に行べしと　十九　弟子イエスに命ぜられし如して逾越の食を備ふ　二十　日くるゝ時イエス十二弟子と偕に席に就　二一　食する時いひけるは我まことに爾曹に告ん爾曹のうち一人われを賣なり　二二　彼等いたく憂て各イエスに曰出けるは主よ我なる乎　二三　答て曰けるは我と偕に手を盂に着る者は卽ち我を賣す者なり　二四　人の子は己について錄されたる如く逝ん然ど人の子を賣す者は禍ある哉その人生れざりしならば反て幸なりしならん　二五　彼を賣すユダ答て曰けるはラビ我なるや之に曰けるは爾の言る如し　二六　かれら食する時イエスパンを取て祝し之をさき弟子に與て曰けるは取て食これは我身なり　二七　また杯を取て謝し彼等に與て曰けるは爾曹みな此杯より飲　二八　これ新約の我血にして罪を赦さんとて衆の人の爲に流所のもの也　二九　われ爾曹に告ん今より後あんぢらと偕に新しき物を吾父の國に飲ん日までは再び此葡萄にて造れる物を飲じ○　三十　かれら歌を謳てのち橄欖山に往り　三一　其時イエス彼等に曰けるは今夜なんぢら皆われに就て礙かん蓋われ牧者を擊ば群の綿羊ちらんと錄されたれば也　三二　然ど我甦りて後なんぢらに先ちがりラヤに往べし　三三　ペテロ答てイエスに曰けるは皆なんぢに就て礙くとも我は終に礙かじ　三四　イエス彼に曰けるは我まことに爾につげん今夜鷄なかざる前に爾三次われを知ずと言ん　三五　ペテロ彼に曰けるは我は主と偕に死るとも爾を知ずと言じ弟子みな如此いへり○　三六　厥時イエス彼等と偕にゲツセマ子といふ處に至て弟子等に曰けるは爾曹こゝに坐われ彼處に往て祈らん　三七　ペテロ及ゼベダイの二人の子を携へ憂へ哀みを催し　三八　彼等に曰けるは我心いたく憂て死るばかり也こゝに待て我と偕に目を醒しをれ　三九　少し進往てひれふし祈いひけるは吾父よ若かなはゞ此杯を我より離ち給へ然ど我心の從を成んとするに非ず聖旨に任せ給へ　四十　而して弟子に來り其寢たるを見てペテロに曰けるは如此一時も我と偕に目を醒

をること能へざる乎 四一 惑に入ぬやう目を醒かつ祈その靈には願ふなれど肉體よわきなり 四二 二次ゆきて復いのり曰けるへ吾父よ若われに此杯を飲さで離つこと能ずば聖旨に任せ給へ 四三 來りて又かれらの寢たるを見これ彼等の目疲たる也 四四 彼等を離れて又ゆき第三次も同言をもて祈れり 四五 遂に其弟子に來りて曰けるへ今へ寢て休め時へ近し人の子罪人の手に付されん 四六 起よ我儕往べし我を賣す者近きたり○ 四七 如此いへるとき十二の一人なるユダ劔と棒とを持たる多の人々と偕に祭司の長と民の長老の所より來る 四八 イエスを賣す者かれらに號をなして曰けるへ我が接吻する者へ夫なり之を執へよ 四九 直にイエスに來りラビ安かと曰て彼に接吻す 五十 イエス彼に曰けるは友よ何の爲に來るや遂に彼等すゝみ來り手をイエスに措て執へぬ 五一 イエスと偕に在し者の一手をのべ劔を拔て祭司の長の僕を擊その耳を削おとせり 五二 イエス彼に曰けるは爾の劔を故處に收よ凡て劔をとる者は劔にて亡ぶべし 五三 我いま十二軍餘の天使を吾父に請て受ること能はずと爾曹おもふ乎 五四 もし然せば如此あるべき事を錄し聖書に如何で應はん乎○ 五五 此時イエス人々に曰けるは劔と棒とを持て盜賊を執ふる如して我を執にきたる乎われ日々爾曹と偕に殿に坐して誨しに爾曹われを執ざりし 五六 然ど此の如なるは皆預言者の錄たる所に應成せん爲なり遂に弟子等みなイエスを離れて逃去ぬ○ 五七 イエスを執たる者これを曳て學者と長老の集れる所の祭司の長カヤパに携ゆく 五八 ペテロ遠く離れてイエスに從ひ祭司の長の庭にまで至その結局を見んとて內にいり僕と偕に坐せり 五九 祭司の長等および長老すべての議員ともにイエスを殺さんとして妄證を求れども得ず 六十 多の妄りの證者きたれども亦えず後また妄りの證者二人きたりて曰けるは 六一 この人曩に言ることあり我よく神の殿を毀ちて三日の內に之を建うべしと 六二 祭司の長たちてイエスに曰けるは爾こたふる言なき乎この人々の爾に立る證據は如何 六三 イエス默然たり祭司の長こたへて彼に曰けるは爾キリスト神の子なるか我なんぢを

活神に誓せて之を告しめん　六四　イエス彼に曰けるは爾が言る如し且われ爾曹に告ん此のち人の子大權の右に坐し天の雲に乘て來るを爾曹みるべし　六五　是に於て祭司の長その衣を裂て曰けるは此人は褻瀆ことを言り何ぞ外に證據を求んや爾曹も今その褻瀆たるを聞　六六　なんぢら如何におもふ乎かれら答て曰けるは彼は死に當れり　六七　是に於て彼等その面に唾し且拳にて擊りまた或人かれを批いひけるは　六八　キリストよ爾を擊者は誰か我儕に預言せよ○　六九　ペテロ庭に坐ねけるに或婢きたりて爾もガリラヤのイエスと偕なりと曰ければ　七十　ペテロ凡の人の前に此言を肯はずして我なんぢが言ところを知ずと曰り　七一　出て門口に至れる時また他の婢これを見て其處にをる者に曰けるは此人もナザレのイエスと偕に在し　七二　ペテロまた肯はずして誓ふ我この人を知ずと　七三　暫くありて旁らに立たる者すゝみ近てペテロに曰けるは誠に爾もその黨の一人なり蓋なんぢの方言なんぢを顯せり　七四　此に於てペテロ詛り且誓て我その人を知ずと曰しが頓て鷄鳴ぬ　七五　ペテロイエスの鷄なかざる前なんぢ三次われを知ずといはんと云たまへる言を憶起し外に出て悲み哭けり

第二十七章

平旦になりて凡の祭司の長と民の長老ともに謀てイエスを殺さんとし　二　既に彼を縛ひきゆきて方伯のポンテオピラトに解せり○　三　是に於てイエスを賣しゝユダ彼の死に定られしを見て悔その銀三十を祭司の長老等に返して　四　曰けるは無辜の血を付し我は罪を犯しぬ彼等いひけるは我儕に於て何ぞ與らんや爾みづから當べし　五　ユダその銀を殿に投棄て其處を去ゆきて自ら縊たり　六　祭司の長等この銀を取て曰けるは此は血の價なれば賽錢の箱に入べからずとて　七　共に謀この銀をもて旅客を葬る爲に陶工の田を買り　八　故に其田は今に至るまで血田と稱らる　九　是に於て預言者エレミヤに託いはれたる言にイスラエルの民に估られ估られし者の價の銀三十を取　十　主の我に命ぜし如く陶工の田を買ぬと有に應へり○　十一　偖イエス方伯の前にたつ方伯イエスに問て曰けるは爾はユダヤ人の王

なるかイエス之に曰けるは爾が言る如し十二祭司の長長老たち彼を訴ふれども何の答もせず十三是に於てピラト彼に曰けるは此人々なんぢに立る證のかく大なるを爾きかざる乎十四方伯の甚奇とするまでにイエス一言も答せざりき十五この祭の日にハ方伯より民の願に任せて一人の囚人を釋の例あり十六時にバラバと云る一人の名高き囚人ありけれバ十七ピラト民の集りしとき彼等に曰けるはバラバか又はキリストと稱ふるイエスなる乎なんぢら誰を釋さんと欲ふや十八これ娼嫉に由てイエスを解したりと知バなり○十九方伯審判の座に坐りたる時その妻いひ遣しけるは此義人に爾干ること勿れ蓋われ今日夢の中に彼につきて多く憂たり二十祭司の長長老たちバラバを釋しイエスを殺さんことを求と民に唆む二一方伯こたへて彼等に曰けるは二人のうち孰を我なんぢらに釋さんことを望むや彼等バラバと答ふ二二ピラト曰けるは然バキリストと稱ふるイエスに我なにを處べきか衆いふ十字架に釘よと二三方伯いひけるは彼なにの惡事を行しや彼等ます〳〵喊叫て十字架に釘よと曰二四ピラトその言の益なくして唯亂の起んとするを見り水を取て人々の前に手をあらひ曰けるは此義者の血に我は罪なし爾曹みづから之に當れ二五民みな答て曰けるは其血は我儕と我儕の子孫に係るべし二六是に於てバラバを彼等に釋しイエスを鞭ちて之を十字架に釘んが爲に付したり二七方伯の兵卒イエスを携へ公廳に至り全營を其もとに集め二八彼の衣を脱て絳色の袍を着せ二九棘にて冕を編その首に冠しめ又葦を右手に持せ且その前に跪づき嘲弄して曰けるはユダヤ人の王安かれ三十また彼に唾し其葦を取て其首を擊り三一嘲弄し畢りて其袍をはぎ故衣をきせ十字架に釘んとて彼を曳ゆく三二その出し時クレネ人のシモンといふ者に遇ければ強て之に其十字架を負せたり○三三彼等ゴルゴダ譯バ即ち髑髏と云る處に來り三四醋に膽を和せてイエスに飲せんと爲たりしに嘗て飲ことをせざりき三五斯てイエスを十字架に釘しのち鬮を拈て其衣を分これ預言者の言に彼等互に我が衣を分わが裏衣を鬮

にすと云しに應へり 三六 兵卒こゝに坐してイエスを守れり 三七 また罪標に
此はユダヤ人の王イエスなりと書して其首の上に置り 三八 其とき二人の
盜賊イエスと偕に一人は其右一人は其左に十字架に釘らる○ 三九 往來
の者イエスを詈り首を搖て曰けるは 四十 殿を毀ちて三日に之を建る者よ自
己を救へ爾もし神の子ならバ十字架より下よ 四一 祭司の長學者長老等
も亦おなじく嘲弄して曰けるは 四二 人を救て己が身を救あたはず若イスラ
エルの王たらば今十字架より下るべし然ば我儕かれを信ぜん 四三 彼は神に
依賴めり神もし彼を愛しまバ今救ふべし蓋かれ我は神の子なりと云し也
四四 同に十字架に釘られたる盜賊も同くイエスを詈れり○ 四五 晝の十二時
より三時に至るまで其地あまねく黑暗となる 四六 三時ごろイエス大聲にエ
リ、エリ、ラマサバクタニと呼りぬ之を譯せば吾神わが神なんぞ我を遺たまふ
平と云る也 四七 旁らに立たる者のうち或人これを聞て彼はエリヤを呼る也
と曰 四八 その中の一人直に走り行て海絨をとり醋を含せ之を葦につけて
イエスに飲しむ 四九 餘人曰けるは俟エリヤ來りて彼を救ふや否試べ
し○ 五十 イエスまた大聲に呼りて氣絶たり 五一 殿の幔上より下まで裂て二
となり又地ふるひ磐さけ 五二 墓ひらけて既に寢たる聖徒の身おほく甦へり
イエスの甦れる後 五三 墓を出て聖城に入おほくの人に現れたり○ 五四 百
夫の長と偕にイエスを守たるもの地震および其有し事を見て甚く懼れ此は
誠に神の子なりと曰り○ 五五 此處に遙に望ゐたる多の婦ありし彼等はガ
リラヤよりイエスに從ひ事し者等なり 五六 其中に居し者はマグダラのマリ
アとヤコブヨセの母なるマリアとゼベダイの子等の母と也○ 五七 日くれて
イエスの弟子なるヨセフと云るアリマタヤの富人きたりてピラトに往イ
エスの屍を請しかば 五八 ピラトその屍を付せと命ず 五九 ヨセフ屍を
取て潔き亲布に裹み 六十 之を磐に鑿たる己が新しき墓におき大なる石を墓
の門に轉して去 六一 マグダラのマリアと他のマリアと墓に對て坐し其處に
居り○ 六二 預備日の翌日祭司の長とパリサイの人等ピラトの所に集來り曰

けるは 六三 主よ我儕憶起せり彼の僞者いきて在しとき三日のうち 甦らんと言し 六四 是故に命じて三日に至まで墓を固守しめよ恐くは其弟子夜きたりて之を竊み死より甦りたりと民に言ん然ば後の惑は先よりも愈勝るべし 六五 ピラト彼等に曰けるは守兵は爾曹にあり往て意のまゝに固守しめよ 六六 是に於て彼等ゆきて石に封印し守兵をして墓を固守しめたり

第二十八章

安息日終てのち七日の首の日黎明にマグダラのマリア及び他のマリアその墓を觀んとて來りしに 二 大なる地震ありて主の使者天より降り墓の門より石を轉し其上に坐す 三 その容貌ゝ閃電のごとく其衣服は雪のごとく白し 四 守兵かれを懼れ戰き死たる者の如くなりぬ 五 天使こたへて婦に曰けるは爾曹おそるゝ勿れ我なんぢらが十字架に釘られしイエスを尋ることを知 六 彼は此に在ず其言る如く甦りたり爾曹きたりて主の置れし處を見よ 七 且ゆきて其弟子に告よ彼は死より甦り爾曹に先ちてガリラヤに往り彼處に於て爾曹かれを見べし我これを爾曹に告 八 婦懼

ながらも甚く喜びて急墓をさり其弟子に告んと走り往り 九 弟子に告んとて往ときイエス彼等に遇て安かれと曰給ひければ婦すゝみ其足を抱て拜しぬ 十 イエス彼等に曰けるゝ懼るゝ勿れ去て我が兄弟にガリラヤに往と告よ彼處にて我を見べし○十一 婦の去しのち守兵のうち或者ども城に至り凡て有し事を祭司の長等に告しかば 十二 彼等と長老あつまりて共に議おほくの銀子を兵卒に給て曰けるは 十三 爾曹いへ我儕が寢たる時その弟子夜きたりて彼を竊りと 十四 此事もし方伯に聞るとも我儕かれに勸て爾曹に憂慮なからしめん 十五 かれら銀子を取て囑められたる如したりし是に於て此の如き話今日に至るまでユダヤ人の中に傳播られたり○十六 十一の弟子ガリラヤに往てイエスの彼等に命じ給ふ所の山に至り 十七 イエスを見て拜せり然ど疑へる者もありき 十八 イエス進て彼等に語いひけるゝ天のうち地の上の凡の權を我に賜れり 十九 是故に爾曹ゆきて萬國の民にバプテスマを施し之を父と子と聖靈の名に入て弟子とし 二十 且わが凡て爾曹に命ぜし言

を守れと彼等に教よ夫われハ世の末まで常に爾曹と偕に在なりアメン

新約全書馬太傳福音書　終

新約全書馬可傳福音書

第一章　これ神の子イエスキリストの福音の始なり　二預言者の錄して視
よ我なんぢの面前に我使を遣さん彼なんぢの前に其道を設くべし　三野
に呼る人の聲あり云く主の道を備へ其徑すぢを直せよと有が如く　四ヨハ子
野に於てバプテスマを施し罪の赦を得させんが爲に悔改のバプテスマを
宣傳たり　五ユダヤの全國およびエルサレムの人々かれに來りて各々そ
の罪を認へしヨルダンといふ河にてバプテスマを受　六ヨハ子ハ駱駝の毛
衣を着腰に皮帶をつかれ蝗蟲と野蜜を食へり　七かれ宣傳けるハ我より勝
れる者わが後に來らん我ハ屈て其履の紐を解にも足ず　八我ハ水をもて爾曹
にバプテスマを施しろが彼ハ聖靈をもて爾曹にバプテスマを施すべし　九當
時イエスガリラヤのナザレより來りヨルダンにてヨハ子よりバプテスマを
受十頓て水より上れるとき天開れ靈鴿の如く其上に降るを見たり　十一又
天より聲ありて云なんぢハ我が愛子わが悅ぶ所の者なりと　十二斯て靈た

だちにイエスを野に往しむ十三かれ四十日野に在てサタンに試られ獣と
共にをれり天の使等これに事ぬ○十四ヨハ子の囚れし後イエスガリラヤ
に至り神の國の福音を傳いひけるハ十五期ハ滿り神の國ハ近けり爾曹悔
改めて福音を信ぜよ○十六イエスガリラヤの湖の邊を歩る時シモンと其
兄弟アンデレの湖に網うてるを見る彼等ハ漁者なり十七イエス彼等に
曰けるハ我に從へ我爾曹を人を漁る者とせん十八彼等たゞちに其網を棄
て之に從へり十九此より少し進行ぜべダイの子ヤコブとその兄弟ヨハ
子の舟に在て網つくろふを見て二十直に彼等を召給ひしかば其父ゼベダイ
を傭人と共に舟に遺て彼に從へり○二一彼等カペナウムに至るイエス即ち
安息日に會堂に入て教を爲しに三人々その教を駭き合り蓋學者の
如ならず權威を有る者の如く教たまへば也二三其會堂に汚たる鬼に憑た
る人ありて二四喊叫いひけるハ唉ナザレのイエスよ我儕ハ爾と何の與り有
んや爾きたりて我儕を滅すか我なんぢハ誰なる乎を知すなハち神の聖なる
者なり二五イエス之を責て曰けるハ聲を發すこと勿れ其處を出よ二六汚た
る鬼その人を拘攣させ大聲に叫びて彼を出たり二七衆人みな驚き相問て曰
けるハ是何事ぞや是いかなる新しき教ぞや汚たる鬼さへ權威をもて命じけ
れば從へり二八是に於てイエスの聲名徧くガリラヤの四方に播りぬ○二九
彼等やがて會堂を出ヤコブ及ヨハ子と共にシモンアンデレの家に至し
に三十シモンの岳母熱を病て臥ぬければ或人たゞちに之をイエスに告三一
イエス往て其手をとり彼を起しければ熱たちまち去ぬ斯て其婦かれらに
供事たり三二夕かた日の落さき人々すべての病を患へるもの鬼に憑たる者
をイエスに携へ來る三三その邑こぞりて門に集れり三四イエス各樣の病を
患へる多の人々を醫し又多の鬼を逐出し鬼の言ふ事を許さゞりき蓋鬼か
れを識たるに因てなり○三五昧爽にイエス早く起人なき所にゆき其處に
て祈禱せり三六シモンおよび彼と共に在し者等その跡を慕ゆき三七彼に遇
て曰けるハ衆人みな爾を尋ぬ三八イエス彼等に曰けるハ我ハ教を宣傳ふ

爲に爾曹と偕に附近の鄕村へ往んと我これが爲に來れゝ也 三九 イエス徧く
ガリラヤの國を經めぐり其會堂にて教を宣且鬼を逐出せり○ 四十 癩病
のもの一人かれに來りて跪き求ひ曰けるハ爾もし聖意に適ときハ我を潔
く爲得べし 四一 イエス憫みて手をのべ彼に按て我意に適へり潔なれと
四二 言やいな直に癩病はなれ其人きよまれり 四三 四四 イエス嚴く之を戒め
つゝし慎みて何をも人に告る勿れ但ゆきて己が身を祭司に見せ其潔られし爲に
モーセが命ぜし所の物を獻て彼等に證據をなせと言て去しめたり 四五 然ご
も彼いでゝ先この事を大に言つたへ語り廣めけれゝイエス此後あらハに城
に入がたく獨人なき所に居給ひしが人々四方より彼に來れり

第二章　數日の後イエス復カペナウムに來しに 二 彼の室に居こと聞えけ
れば直に多の人々集きたり門に立べき場處さへもなき程なりきイエス彼
等に教を宣 三 此に癱病を病たる者を四人に舁せイエスに來れる者ありしが
四 群集によりて近づき離かりけれゝ彼の居ところの屋蓋を取除き癱瘋の人

を床のまゝ縋下せり 五 イエス其信仰を見て癱瘋の人に曰けるハ子よ爾の罪
赦されたり 六 數人の學者こゝに坐し居しが心中に謂けるハ 七 斯人ハ何故
かく惡口を言か神にあらずして誰か罪を赦すことを得ん 八 イエス直に彼等
が心中に斯の如き事を論ずるを自ら其心に知て彼等に曰けるハ爾曹なぜ
んぞ心中に斯る事を論ずる乎 九 癱瘋の人に爾の罪ハ赦されたりと言と起
て爾の床を取て行と言と孰れ易や 十 それ人の子地にて罪を赦すの權威あ
ることを爾曹に知せんとて遂に癱瘋の人に 十一 我なんぢに告おきて床を取な
んぢの家に歸れと曰けれゝ 十二 その人たゞちに起て床をとり衆人の前にい
づ衆人みな駭き神を崇めて曰けるハ我儕いまだ斯の如ことを見しことなし
○ 十三 イエスまた海邊に往しに人々みな彼に來けれゝ是等を教ふ 十四 此よ
り進てアルパヨの子レビといふ者の稅吏の役所に坐し居けるを見て我に
從へと曰けれゝ彼たちて從へり○ 十五 斯てイエスその家にて食する時おほ
くの稅吏罪ある人々イエス及び弟子と共に坐せり是等の者許多ありてイ

エスに從ひぬ　十六學者とパリサイの人かれが稅吏および罪ある人と共に食するを見て其弟子に曰けるハ何ゆゑ稅吏罪ある人と共に食飲する乎　十七イエス聞て彼等に曰けるハ康强なる者ハ醫者の助を需ず唯病ある者これを需わが來しハ義人を召ために非ず罪ある人を召て悔改させんが爲なり○　十八ヨハ子の弟子およびパリサイの人つれに斷食する事ありけれバ彼等イエスに來いひけるハヨハ子の弟子とパリサイの弟子は斷食するに爾の弟子は何ゆゑ斷食せざる乎　十九イエス彼等に曰けるハ新郎の朋友その新郎と共にをる間に斷食することを得べき乎かれら新郎と共にをる間は斷食することを得じ　二十將來かれら新郎をとらるゝ日きたらん其日にハ斷食すべき也　二一新しき布を舊衣に縫つくる者あらじ若し然せバ其新に補へるもの舊を綻バして其破かへつて惡なるべし　二二亦あたらしき酒を舊き革囊にいるゝ者あらじ若し然せバ新酒ハ其囊を破裂て酒もれいで革囊も亦壞るべし新酒ハ新しき革囊に盛べきもの也○　二三偖イエス安息日に麥の畠を過りしに其弟子あゆみつゝ麥の穗を摘はじめけれバ　二四パリサイの人彼に曰けるハ彼等安息日に爲まじき事をするハ何故ぞ　二五イエス答けるハダビデ及び從に在し者の乏くして飢しとき行たる事を未だ讀ざる乎　二六卽ち祭司の長アビアタルのとき神殿に入て唯祭司の外ハ食まじき供物のパンを食かつ從に在し者にも與たり　二七また彼等に曰けるハ安息日ハ人の爲に設られたる者にして人ハ安息日の爲に設られたる者に非ず　二八然バ人の子ハ安息日にも主たる也

第三章　イエスまた會堂に入しに一手枯たる人ありけるが　二衆人イエスを訟んとして彼ハ此人を安息日に醫すや否と窺へり　三イエス手枯たる人に曰けるハ中に立よ　四また衆人に曰けるハ安息日にハ善を行と惡を行と生るを救ると殺すと孰をか爲べき彼等默然たり　五イエス怒を含て環視し彼等が心の頑硬なるを憂へ手枯たる人に爾の手を伸よと曰けれバ彼その手を伸しふに卽ち他の手のごとく愈たり　六パリサイの人いでゝ如何してかイ

エスを殺さんと直にヘロデの黨に相謀りぬ○七イエスその弟子と共に海邊に退しに多の人々ガリラヤより彼に從へり又ユダヤ入エルサレム
イドマヤヨルダンの外またツロとシドンの邊より多の人々イエスの行し事を聞て彼に群り來る九イエス人々の群集に因て擁なやまさるゝ事なからん爲に小舟を我に備おけと其弟子に曰り十是イエス數多の人々を愈しゝに因て凡て疾ある人々手にて彼に捫んとて擁逼しが故なり十一また汚たる鬼かれを見て其前に俯伏さけびて爾は神の子なりと曰しを十二イエス彼等に我を揚すこと勿れと嚴く戒めたり○十三イエス山に登て其意に適ふ所の者を召しかゞ來りて彼に就り十四是に於て十二人を立て己と偕に置また教を宣傳る爲に遣し十五かつ病を醫し鬼を逐出すの權威を授く十六乃ち
シモンをペテロと名け十七ゼベダイの子ヤコブと其兄弟ヨハネこの二人をボアネルゲと名く之を譯が雷の子なり十八又アンデレ ピリポ バルトロマイ マタイ トマス アルパヨの子ヤコブ タッダイ カナンのシモン十九

又イスカリオテのユダ此はイエスを賣しゝ者なり二十此等の者家に入しに多の人々また來り集りければ食する暇もなかりき二その親屬きゝて彼は狂氣せりと言て之を拏んとて來る二一又エルサレムより下れる學者等も彼はベルゼブルに憑れたり且鬼の王に藉て鬼を逐出すなりと曰り二三イエス彼等を召び譬を以て曰けるはサタンは何でサタンを逐出し得んや二四もし國おのれに悖て分爭はゞ其國立べからず二五また家おのれに悖て分爭はゞ其家立べからず二六若サタン己に悖り起て分爭はゞ彼たつべからず反て終るなるべし二七誰にても勇士の家に入て其家具を奪んとせば先勇士を縛らざれば奪ふこと能はじ縛て後その家を奪ふべし二八われ誠に爾曹に告ん人の凡の罪と瀆す所の褻瀆は赦るべけれど二九聖靈を瀆す者は限なく赦さる可からず限なき刑罰に干らん三十斯いへるは人々イエスを惡鬼に憑たりと言しが故也○三一その兄弟と母と來て戸外にたち人を遣してイエスを呼しむ三二多の人々イエスを環て坐したりしが彼に曰

けるゝ視よ爾の母と兄弟戸外に在て爾を尋ぬ 三三 イエス答て曰けるゝ我母わが兄弟ゝ誰ぞや 三四 斯て側に坐する人々を環視して曰けるゝ我母わが兄弟を見よ 三五 それ神の旨に從ふ者ゝ是わが兄弟わが姉妹わが母なり

第四章

イエスまた海濱にて教訓を始しに多の人々かれに集りければ彼舟に乘て坐し凡の人々ゝ海に沿て岸に立りこかれ譬をもて多の事を彼等に教ふ教て曰けるゝ 三 聽よ種播もの播んとて出 四 播るとき或種ゝ路の傍に遺しが空の鳥きたりて之を食へり 五 或種ゝ土うすき磽地に遺しが土深からねば直に萌出たれど 六 日出しかば曝れ根なきが故に枯たり 七 或種ゝ棘の中に遺しが棘そだちて之を蔽ければ實を結ばざりき 八 また或種ゝ沃壤に遺しが其苗はえいでゝ蕃り實を結ること或ゝ三十倍或ゝ六十倍あるひゝ百倍せり 九 また彼等に曰けるは耳ありて聽ゆる者ゝ聽べし○ 十 衆人の居ざりし時イエスの側に在し者と十二弟子と此譬を問しかば 十一 イエス彼等に曰けるゝ神の國の奥義を爾曹にゝ知ことを賜へど他の者にゝ凡て譬を以てす 十二 是かれら視とき視ても見ず聽とき聽ても聽らず心を改めて其罪の赦を得ざらん爲なり 十三 また彼等に曰けるゝ爾曹この譬を知ざるか然ば如何して凡の譬を識ことを得んや 十四 それ播者ゝ教を播なり 十五 道の播れて路の傍に遺しものゝ人道を聽しとき直にサタン來て其心に播れたる道を奪取なり 十六 また磽地に播れたるものゝ人道を聽とき直に喜びて之を受 十七 然ども己に根なきが故たゞ暫時のみ後道の爲に患難あるひゝ迫害に遇ときゝ忽ち礙く者なり 十八 又棘の中に播れたるものゝ人ことばを聽ども 十九 此世の思慮と貨財の惑また各樣の情欲いり來りて道を蔽により終に實を結ざる者なり 二十 沃壤に播れたるものゝ人道を聽て之をうけ或ゝ三十倍あるひゝ六十倍あるひゝ百倍の實を結ぶ者なり○ 二一 また彼等に曰けるゝ燈を持來りて斗の下あるひゝ牀の下に置もの有んや之を燭臺の上に置ならず乎 二二 隱て明瞭にならざるゝなく藏て露れざる

者へなし　二三　耳ありて聽ゆる者へ聽べし　二四　また彼等に曰けるへ聽ところを愼めよ爾曹が度る所の量をもて爾曹も度らるべし聽たる爾曹にへなほ加られん　二五　それ有る者へなほ與られ無有者へ有る者をも取るゝ也○　二六　また曰けるへ神の國へ人種を地に播が如し　二七　日夜起臥する間に種はえいでゝ成長ども其然る故を知ず　二八　それ地へ自から實を結ぶものにして初にへ苗つぎに穗いで穗の中に熟したる穀を結ぶ　二九　既に熟ぬ穫時いたるに因て直に鎌を入さする也○　三十　また曰けるへ神の國へ何に比へ何の譬を以て之を喩ん　三一　一粒の芥種のごとし之を地に播ときへ百樣の種より微けれど　三二　既に播て萌出れば百樣の野菜よりへ大くかつ巨なる枝を出して空の鳥その蔭に棲はごに及なり○　三三　イエス彼等の聽得ところに循ひ多かゝる譬をもて教を彼等に語れり　三四　譬に非ざれば彼等に語らずイエスその弟子と共に居るとき彼等に悉く之を解聽かせり○　三五　偖その日の夕暮イエス彼等に向の岸に濟れと曰ければ　三六　弟子たち衆人を歸らせイエスの舟に在しを其まゝ之と偕に濟れり又他の小舟もともに往り　三七　時に颶風おこり浪うちこみて殆ど舟に滿　三八　イエス艫のかたに枕して寢たりしが弟子かれの目を醒して曰けるへ師よ我儕が溺るゝをも顧み給へざる乎　三九　イエス起て風を斥め且海に靜りて穩かに爲と曰ければ風やみて大に和たり　四十　斯て彼等に曰けるへ何故かく懼るゝや爾曹なんぞ信なき乎　四一　彼等甚しく懼れ互に曰けるへ風と海さへも順ふ是誰なるぞ耶

第五章　かれら海を濟てガダラ人の地に着　二　舟よりイエスの上れるとき惡鬼に憑れたる人たゞちに墓間より出て彼に遇　三　この人へ墓間を居處させり屢次　桎　梏と鏈をもて繫ども鏈をうちきり桎梏を打　碎により之を繫うる者なく亦誰も之を制し得もの無りき　五　夜も晝も恒に山と墓間に於て喊叫また石をもて己が身に傷つけぬ　六　彼はるかにイエスを見て趨より之を拜し　七　大聲に呼りけるへ至上神の子イエスよ我なんぢと何の與り有んや我神に託て求ふ我を苦むること勿れ　八　是イエス惡鬼に人より出よと曰しに因てな

り九イエス彼に爾の名ハ何と問しに答けるハ我儕おほきが故に我名をレギヨンと云十切に此土地より我儕を逐出す勿れとイエスに求たり十一茲に多の豕の群山に草を食ねたりしが十二凡の惡鬼かれに求て我儕を遣て豕に入せよと曰けれバ十三イエス直に彼等に許せり汚たる鬼その人より出て豕に入しかバ約そ二千匹ほどの群はげしく馳くだり山坡より海に落て海に溺ぬ十四牧者ども逃ゆきて此事を邑また鄉村に告けれバ衆人其ありし事を視んとて出十五イエスに來りて惡鬼に憑れたる者すなハちレギヨンを持たりし人の衣服をつけ慥なる心にて坐し居けるを見て懼あへり十六此事を見しに其境を出んことを求ぬ十八イエス舟に登んとせしとき惡鬼に憑たりし者ともに居んことを求けれども十九イエス許ずして彼に曰けるハ爾の家に歸り親屬に往て主の爾に行し大なる事と爾を恤みし事を告よ二十彼ゆきてイエスの己に行たまへる大なる事をデカポリスに言揚しけれバ衆人みな駭きあへり○二一イエス舟に乘て復海の彼岸に濟しに大勢の人々彼に集るイエスハ海に近をれり二二會堂の宰ヤイロといふ人きたりイエスを見て其足下に伏二三切々に求いひけるハ我いとけなき女死る瀕になりぬ之を救ん爲に來りて手を彼に按たまへ然バ女ハ生べし二四イエス彼と共に往とき衆多の人々彼に從ひて擁あへり二五爰に十二年血漏を患たる婦あり二六此婦おほくの醫者の爲に甚だ苦められ其所有をも盡く費しけれども何の益もなく轉て惡かりしが二七イエスの事を聞て群集の中より彼の後に來その衣に捫れり二八是その衣にだに捫らバ愈るべしと曰ハなり二九斯て血の漏ること直にとまり既に疾いえしと其身に覺たり三十イエス自ら能力の己より出たるを知おほぜいの人々を顧みて曰けるハ我衣に捫りし者ハ誰なる乎三一弟子かれに曰けるハ群集の人々の爾に擁あふを見て我に捫りし者ハ誰ぞと曰たまふ乎三二イエスこの事を行る婦を見んと環視しけれバ三三婦おそれ戰慄おのが身にせられし事を知り來て彼の前に俯伏

ことごとく實情を告 三四 イエス彼に曰けるハ女よ爾の信なんぢを救り安
然にして往なんぢの疾いゆべし○ 三五 イエスこの事を言をるうちに會堂
の宰の家より人々來りて曰けるハ爾の女すでに死たり何ぞ師を煩ハす乎
三六 イエス直に其告る所の言をきゝ會堂の宰に曰けるハ懼るゝ勿たゞ
信ぜよ 三七 イエスペテロとヤコブ及その兄弟ヨハネの外ハ誰にも共に
往ことを許さゞりき 三八 既に會堂の宰の家に來りて人々の忙亂いたく哭
泣を見る 三九 入て彼等に曰けるハ何ぞ忙亂かつ哭や女ハ死るに非たゞ寢た
る耳 四十 彼等イエスを哂笑ふイエス凡の人々を出し女の父母とその從へ
る者等を率つれ女の臥たる所に入 四一 女の手を執て之に曰けるハタリタク
ミ之を譯べ女よ我なんぢに命ず起よ 四二 直に女おきて行めり
彼ハ年十二歲なり彼等はなはだ駭きぬ 四三 イエスこの事を人に知する勿れ
と嚴く戒め又女に食物を與へよと命じたり

第六章

イエス此を去て故郷に到しに其弟子も彼に從ひぬ 二 安息日に及
ければ會堂にて教をはじむ衆人これを聞て奇み曰けるハ如何して此人に
斯の如き事あるか誰より此智慧を授られて如此ふしぎなる事をも其手より
行か 三 彼ハ木匠に非やマリアの子ヤコブヨセユダとシモンの兄弟にし
て其姉妹も此に我儕と共に在に非ずや遂に人々かれに礙けり 四 イエス彼等
に曰けるハ預言者ハその故郷その親戚その室家の外に於ハ尊ばれざることな
し 五 イエス彼處にて患者に手を按たゞ數人を醫しゝ外ふしぎなる事を
行こと能ざりき 六 また彼等の信ぜざるを奇み遂に諸鄕を經巡て教をなせり
○ 七 イエス十二の弟子を召て彼等を二人づゝ遣さんとして之に惡鬼を逐出
す權威を授け 八 且かれらに命じけるハ一の杖の外ハ旅の用意に何をも携な
かれ旅袋・糧・食また金をも携ずゥたゞ履をはき二の衣をきる勿れ 十 また
彼等に曰けるハ何處にても人の家に入ばその所を去までハ其處に居 十一 凡
て爾曹を接ずなんぢらに聽ざる者にハ其處を去るとき證のため足下の塵を
拂へ我まことに爾曹に告ん審判の日いたらばソドムとゴモラハ此邑よりも

却て易かるべし　十二　弟子たち出て人々に悔改む可ことを宣傳へ　十三　また多の惡鬼を逐出し又多の病る者に膏を沃て醫しぬ○　十四　イエスの名播りければヘロデ王これを聞て曰けるハバプテスマを施しゝヨハ子死より甦れる故に奇異なる能をなす也　十五　或人ハ之をエリヤなりといひ或ハ往昔の預言者の如き預言者なりと曰　十六　ヘロデ之を聞て曰けるハ是わが首斬し所のヨハ子也かれ死より甦りたる也　十七　曩にヘロデその兄弟ピリポの妻ヘロデヤの事に因て人を遣しヨハ子を捕て獄に繫げり蓋ヘロデが彼の婦を娶しを　十八　ヨハ子諫て爾兄弟の妻を納ハ宜からずと曰るに因て也　十九　ヘロデヤ彼を怨て殺さんと欲しかど能ざりき　二十　ヘロデハヨハ子を義つ善なる人と知て彼を敬ひ彼を保護かれに聞て多の事を行ひ且喜びて彼に聽ことをせり　二一　期てヘロデその誕生の日もろ〳〵の大臣千人の長および加リラヤの尊き人々に享宴をなせる機會の日いたりければ　二二　ヘロデヤの女きたりて舞をなしヘロデと其席に列れる人々を樂ましむ王その女に曰けるハ何にても我に求ヘ爾が望ところの者ハ我なんぢに與ふべし　二三　又彼に凡そ爾が求るものハ我が領分の半に至るとも爾に與んと誓ふ　二四　女いでゝ其母に何を求べき乎と曰ければ母乃ちバプテスマのヨハ子が首と曰り　二五　女たゞちに急ぎ王にきたり求てバプテスマのヨハ子が首を盆に載て即時に我に賜へと曰　二六　王甚だ憂けれども既に誓たると同席の者の故とをもて之を拒むことを欲ず　二七　王たゞちにヨハ子の首を携來れと命じて兵卒を遣しければ彼ゆきて獄に於て之を斬　二八　其首を盆にのせ携來りて女に與ふ女ハ之を其母に與たり　二九　ヨハ子の弟子等この事を聞て來り其屍を取て墓に葬りぬ○　三十　使徒等イエスに集りて行へる事と教し事とを悉く彼に告　三一　イエス彼等に曰けるハ爾衆を避て我と偕に暫く寂寞ところに往て休むべし是往來のもの多くして食する暇も無りしが故なり　三二　かれら人を避舟にて寂寞ところに往り　三三　其往を見て衆人おほくイエスを志り諸邑より步行にて趨り彼等の往んとする所へ先ち往てイエ

スに集れり○三四イエス出て多の人を見に彼等へ牧者なき羊の如き者なるに因て之を憫み許多の事を教はじめぬ三五時すでに暮景になりければ其弟子かれに來いひけるへ此へ寂寞ところにして時も既晩し三六衆人の食ふべき物なきが故に其自ら四周の鄕村に往てパンを市んが爲に彼等を去しめ給へ三七イエス答けるへ爾曹これに食を與よ弟子かれに曰けるへ我儕ゆきて銀二百のパンを市かれらに與て食しむ可か三八イエス彼等に曰けるへパンは幾何ある往て視よ彼等みて其數をしり五のパンと二の魚ありと答ふ三九イエス衆の人を組々にして靑草の上に坐しめよと命じければ四十或へ百人或へ五十人づゝ列坐せり四一イエスその五のパンと二の魚をとり天を仰ぎ謝してパンをわり弟子に與て人々の前に陳しむ又二の魚を毎人に分與ぬ四二衆人みな食て飽四三そのパンと魚の餘屑を拾しに十二の筐に盈たり四四パンを食たる男おほよそ五千人なりき○四五直にイエスその弟子を强て舟に乘むかふの岸なるベテサイダへ先わたらしめ己へ衆人を歸しむ四六衆人を歸しゝのち祈禱の爲に山に往り四七日暮て舟へ海の中に在イエスへ獨り陸に居り四八風逆ふに因て弟子等の舟を掉に勞たるを見て曉の四時ごろイエス海の上を履きたり彼等を過んとせしに四九弟子その海を履るを見て變化の物ならんと意ひ叫びたり五十蓋弟子みな之を見て懼しが故なりイエス直に彼等に語りて曰けるへ心安かれ我なり懼るゝこと勿れ五一遂に舟に登しかゝ風やみぬ彼等心の中に駭き異めること甚だし五二是その心の愚頑に因てパンの奇跡をも覺ざりし也○五三既に濟ゲ

子サレといふ地に到て舟泊せり五四彼等舟より出しに頓て人々イエスを知て五五徧く其四方の地へ馳ゆき病る者を床の儘にて皐ひイエスの在す處々を聞出して之に就り五六凡そイエスの至るところ或へ鄕あるひへ邑あるひへ村その街市に病る者を置て彼に其衣の裾にだに捫らせ給へと求り乃ち捫るほどの者へみな愈たり

第七章　パリサイの人と或學者たちエルサレムより來りてイエスの前に

集り　二彼の弟子の中に潔らざる手即ち盥ざる手にてパンを食する者ありしを見て之を責めたり　三蓋パリサイの人とユダヤの人々はみな古の人の遺傳を守りて其手を潔あらはざれば食せず　四市より歸きたりて盥ざれば亦食せず此ほか杯椀鍋および牀を洗なご多端の遺傳を受守れり　五是に於てパリサイの人と學者等イエスに問けるは爾の弟子は何ゆゑ古の人の遺傳に遵はずして盥ざる手を以てパンを食するや乎　六イエス答て彼等に曰けるはイザヤは僞善者なる爾曹を指てよく預言せり其錄しるす言に此民は唇にて我を敬へども其心は我に遠かり　七人の誡を教と爲て徒らに我を拜すと曰り　八夫なんぢらは神の誡を棄て人の遺傳を守れり　即ち鍋杯を洗おほく此の如き事を行ふ　九また彼等に曰けるは爾曹は實に己の遺傳を守んとて能も神の誡を棄る者なり　十モーセ曰けるは爾の父母を敬へ又父あるひは母を詈る者は殺べしと　十一然ど爾曹は曰もし人父あるひは母に對て爾を養ふべき物はコルバン即ち禮物なりと曰ば事すとも可と　十二

而して人の其父あるひは母の爲に何なにも行事を爾曹許す　十三斯なんぢらは其教ふる所の遺傳をもて神の道を廢うす又おほく此類の事を行ふ○　十四イエスまた衆庶を召て彼等に曰けるは爾曹みな我言を聞て悟れ　十五外より人に入るものは人を汚すこと能はず然ど人より出るものは人を汚す也　十六衆庶を離れて室に入しに其弟子たちへの意を問ければ　十七イエス彼等に曰けるは爾曹もなほ悟ざるか凡そ外より人に入るものは人を汚し能はざる事を知ざる乎　十八蓋その心に入ず腹に入て厠に遺すなれば食ふ所のもの潔れり　十九又曰けるは人より出るものは是人を汚す　二十二人の心より出るものは惡念姦淫荷合兇殺　二一盜竊貪婪惡慝詭譎好色嫉妬誘謗驕傲狂妄なり　二二是等の惡行はみな內より出て人を汚すもの也○　二三イエス此を去てツロとシドンの境にゆき家に入て人に知れざらん事を欲しが隱れ得ざりき　二四そは惡鬼に憑たる幼き女を有る婦イエスの事を聞て來り其足下に伏たるに因てなり　二六

この婦ハサイロピニケに生れしギリシヤの者なりしが惡鬼を其女より逐
出し給ハん事をイエスに求り　二七　イエス彼に曰けるハ先兒女に飽しむべし
兒女のパンを取て犬に投るハ善らず　二八　婦こたへて曰けるハ主よ然されど
犬も案の下に在て兒女の遺屑を食ふ也　二九　イエス婦に曰けるハ此言に
因て歸れ惡鬼ハ爾の女より出たり　三十　婦その家に歸しに惡鬼既に出て牀に
女の臥たるを見る○　三一　イエスツロとシドンの地を去てデカポリスの地を
過ガリラヤの海に至れり　三二　人々聾の訥る者をイエスに携來りて手を按
給ハん事を求けれバ　三三　イエス衆人を離れ之を外へ携ゆき指を其耳にさし
いれ又唾して其舌に捫り　三四　且天を仰て歎じ其人に對てエツパタと曰こ
れを譯バ啓よとの義なり　三五　直に其耳ひらけ舌の絡ゆるみて正く言へり
三六　イエス之を人に告る勿れと彼等を戒むれバ戒むるほど益言揚しぬ
三七　衆人はなハだしく駭きて曰けるハ此人の行し所ことゴとく善あるひハ
聾を聽えさせ或ハ啞者を言ハしめたり

第八章

當時あつまれる人々甚だ多りしが何の食物も有ざりけれバイ
エス其弟子を召て曰けるハ　二我この多の人々を憐む既に三日われと共に居
しゆゑ今なにも食物なし　三もし飢しまゝ其家に歸さバ途間にて憊ん其中
に遠處より來れる者あれバなり　四その弟子かれに答けるハ此野にて何處よ
りパンを得この人々を飽しめん乎　五イエス彼等に問けるハパン幾何あるや
七さ答ふ　六イエス人々に命じて地に坐せしめ七のパンを取て謝し之をわり
人々の前に陳しめんが爲その弟子に與ければ即ち人々の前に陳り　七また小
き魚を些須もてり之をも祝して人々の前に陳さ曰　八人々これを食て飽
その餘屑を七の籃に拾り　九之を食る者凡そ四千人なり乃ちイエス之を
歸しわ○　十イエス直に其弟子と共に舟に乘てダルマヌタの方に往しに
十一　パリサイの人いでゝ彼を試んがため天よりの休徵を求めて詰はじむ
十二　イエス心の中に深く歎息して曰けるハ此世の人なんぞ休徵を求るや
誠に我なんぢらに告ん休徵ハ此世の人に必ず與られじ　十三　イエス彼等を離

れて復舟に乘むかふの岸に濟れり○十四さて弟子パンを携ふることを忘たゝ一のパンのみ舟に有き十五イエス彼等を戒めて曰けるハ戒心してパリサイの人の麪酵とヘロデの麪酵を慎めよ十六弟子たがひに論じて曰けるハ是パンを携へざりし故ならん十七イエス之を知て彼等に曰けるハ何ぞ互にパンを携へざりし事を論ずるや未だ悟さるか爾曹の心なほ頑か十八目ありて視ざるか耳ありて聽えざる乎また覺ざる乎十九我五千人に五のパンを擘あたへし時その餘屑を幾筐ひろひしや答けるハ十二なり二十又四千人に七のパンを擘あたへし時その餘屑を幾筐ひろひしや答けるハ七なり二一イエス彼等に曰けるハ何ぞ悟ざる乎○二二イエスベテサイダに至れば人々瞽者を携來りて之に手を按たまハん事を求り二三イエス瞽者の手を執て村の外へ携出その目に唾して手を彼に按さひけるハ何か視るや二四瞽者目を擧て曰けるハ我この人々の歩行を見に樹の如し二五遂にイエスまた兩手を彼の目に按その目を擧させれば乃ち愈て庶物あきらかに視たり二六イエス彼を其家に歸らせ曰けるは此村に入なかれ且この村人にも告る勿れ○二七イエスその弟子と共にカイザリヤピリピの諸村へゆく途間にて其弟子に問て曰けるハ衆人ハ我を曰て誰とする乎二八答けるハ或人ハバプテスマのヨハネ或人ハエリヤ或人ハ預言者の一人なりと曰り二九イエス彼等に曰けるハ爾曹ハ我を曰て誰とする乎ペテロ答けるハ爾ハキリストなり三十イエス彼等を戒めて我事を誰にも告る勿れと命じたり○三一また人の子の必ず多の苦難をうけ長老祭司の長學者どもに棄られ且殺されて三日の後に甦ることを彼等に示し始たまへり三二明に之を示し給しかばペテロイエスを援て諫んとせしに三三イエス回顧その弟子を見てペテロを戒め曰けるハサタンよ我後に退け爾ハ神の情を思ず反て人の情を思ふ○三四衆人と其弟子を共に召て彼等に曰けるハ若し我に從ハんと欲ふ者ハ己を棄その十字架を負て我に從へ三五そハ生命を全うせんとする者ハ之を喪ひ我ため且福音の爲に生命を喪ふ者ハ之を得べければ也三六もし人

全世界を得とも其生命を喪へゝ何の益あらん乎 三七 また人何をもて其生命に易んや 三八 姦惡なる此世に於て我と我道を耻る者なゞ人の子も亦聖使と共に父の榮光をもて來る時之を耻べし

第九章 イエスまた彼等に曰けるゝ我まことに爾曹に告ん此に立ものゝ中に神の國の權威をもて來るを見までゝ死ざる者あり○ 二 さて六日の後イエス ペテロヤコブヨハ子を伴ひ人を避て高山に登り給ひしが彼等の前にて其容貌かゝり 三 其衣かゞやき白こと甚だしくして雪のごとく世上の布漂も斯しろくゝ爲能ゝざるべし 四 エリヤとモーセと共に彼等に現れてイエスと語れり 五 ペテロ答てイエスに曰けるゝラビ我儕こゝに居ゝ善われらに三の廬を建て給へ一ゝ主のため一ゝモーセのため一ゝエリヤの爲にせん 六 此ゝ其謂ところを知ざりしなり彼等いたく懼しに因て斯て雲彼等を蔽ひ聲雲より出て曰けるゝ此ゝ我が愛子なり之に聽べし 八 頓て弟子環視ければイエスと己の外ゝ一人をも見ざりき○ 九 山を下る時にイエス彼等に命て人の子の死より甦る迄ゝ爾曹の見し事を人に告る勿れと曰り 十 弟子等この言を守つ互に論じ曰けるゝ死より甦ると云ゝ何の事か 十一 彼等イエスに問て曰けるゝ實にエリヤゝ前に來るべしと學者の曰るゝ何ぞや 十二 イエス答て曰けるゝ實にエリヤゝ前に來りて萬事を復振また人の子に就てゝ其各樣の苦難を受つ輕慢らるゝ事を書しるされたり 十三 然ど我なんぢらに告んエリヤ既に來しに彼に就て錄されたりし如く人々意の任に之を待へり

○ 十四 イエス弟子等の所にきたり多の人々の彼等を環圍ると學者たちの彼等と論じたりしを見たり 十五 衆人たゞちに彼を見て駭き趨よりて禮をなせり 十六 イエス學者に問けるゝ何事を論ずる乎 十七 衆人のうち一人こたへけるゝ師よ我もの いゝぬ惡鬼に憑れたる我子を爾に携來れり 十八 惡鬼の憑時ゝ彼傾跌され沫をふき齒を切て疲勞はつる也これを逐出さんことを我なんぢの弟子に請しかど彼等能ざりき 十九 イエス彼等に答て曰けるゝ噫信なき世なる哉いつまで我なんぢらと共に在んや何時まで我なんぢ

らを忍んや彼を我に携來れ　二十　彼等その子を携來りしに惡鬼イエスを見て忽ち彼を拘攣しむ彼地に仆れ輾轉て沫を出ぬ　二一　イエスその父に問けるハ幾何時より如此なりしや父いひけるハ少時より也　二二　惡鬼ときハ之を火の中あるひハ水の中に投入て殺んとせり爾もし爲ことを得バ我儕を憫みて助よ　二三　イエス彼に曰けるハ爾もし信ずる事を得バ信ずる者に於て爲あたハざる事なし　二四　其子の父たゞちに聲をあげ涙を流して曰けるハ主よ我信ず我が信なきを助たまへ　二五　イエス衆人の趨集るを見て惡鬼を叱いひけるハ啞にして聾なる惡鬼よ我なんぢに命ず出て再び之に入なかれ　二六　惡鬼さけびて大に彼を拘攣しめて出しかバ彼死たる者の如なりぬ人々これを已に死りと云　二七　イエスその手を執て扶けれバ彼たてり○　二八　イエス家に入しに其弟子ひそかに問けるハ我儕これを逐出こと能ざりしハ何故ぞ　二九　イエス彼等に曰けるハ此族ハ祈禱と斷食に非れバ逐出こと能ざる也○　三十　彼等こゝを去てガリラヤを過この事をイエス人の知を欲ざりき　三一　蓋その弟子に教て人の子ハ人の手に付され彼等に殺され殺されてのち第三日に甦るべしと曰たまふが故なり　三二　其とき弟子等この言を曉ちず亦問こと能を恐たり○　三三　偖イエスカペナウンに至り室に居て弟子に問けるハ爾曹途間にて何を互に論ぜし乎　三四　弟子默然たり是途間にて互に論じ誰か大ならんとの爭ありけれバ也　三五　イエス坐して其十二を召かれらに曰けるハ若し首たらんと欲ふ者ハ凡べての人の使役となならん　三六　また孩提を取て彼等の中に立て之を抱き彼等に曰けるハ　三七　凡そ我名の爲に斯のごとき孩提の一人を接る者ハ即ち我を接るに非ず我を遣しゝ者を接るなり○　三八　ヨハネ彼に答て曰けるハ師よ我儕に從ハざる者の爾の名に托て惡鬼を逐出せるを見しが我儕に從ハざる故これを禁たり　三九　イエス曰けるハ其人を禁る勿れ蓋わが名により異なる能を行ひて輕易しく我を誹得る者ハあらじ　四十　我儕に敵ハざる者ハ我儕に屬者なり　四一　爾曹をキリストに屬者として我名の爲に

一杯の水にても爾曹に飲する者ハ我まことに爾曹に告ん其人ハ賞を失ハざる也 四二 また凡そ我を信ずる小子の一人を礙する者ハその首に磨を懸られて海に投入られん方その人の爲になほ善るべし 四三 若し爾の一手なんぢを礙かさバ之を斷され兩手ありて地獄すなはち滅ざる火に往んよりハ殘缺にて永生に入ハ爾の爲に善こと也 四四 彼處に入もの〻蟲つきず火きえず 四五 若あんぢの一足なんぢを礙かさば之を斷され兩足ありて地獄すなはち滅ざる火に投入られんよりは跛にて永生に入ハ爾の爲に善なり 四六 彼處に入もの〻蟲つきず火きえず 四七 もし爾の一眼なんぢを礙かさば之を抉いだせ兩眼ありて地獄の火に投入られんよりハ一眼にて神の國に入ハ爾の爲に善なり 四八 彼處に入もの〻蟲つきず火きえず 四九 蓋すべての人ハ鹽をつくる如く火を以せられ凡の祭物ハ鹽をもて鹽つけらる 五十 鹽ハ善ものなり然ど鹽もし其味を失ハゞ何をもて之に味を加んや爾曹心の中に鹽を有て又たがひに睦み和ぐべし

第十章

イエス此を去ヨルダンの外を經てユダヤの境の内に來しに多の人ゃまた彼に集りければ恒の如く彼等に教誨を爲たまへり 二 パリサイの人來て彼を試み問けるハ人その妻を出すハ可か 三 答て曰けるハモーセハ爾曹に何と命ぜし乎 四 彼等曰けるはモーセハ離緣狀を書與へて之を出すことを許せり 五 イエス答て彼等に曰けるはモーセ爾曹の心つれなきに因て此命を爲たる也 六 然ど開闢のはじめ神人を男女に造り給へり 七 是故に人ハその父母を離その妻に合て 八 二人のもの一體と成べし然ば二には非ず一體なり 九 是故に神の調せ給へる者は人これを離すべからず○ 十 室に在て弟子等また此事を問ければ 十一 イエス彼等に曰けるは凡そ其妻を出して他の婦を娶る者ハ其妻に對して姦淫を行ふなり 十二 また婦もし其夫を出して他に嫁がば此婦も姦淫を行ふなり○ 十三 イエスに撫れんがため人ゃ孩提を携來ければ弟子等その携來れる者を責めたり 十四 イエス之を見て怒を含かれらに曰けるハ孩提を我に來せよ彼等を禁る勿れ神の國に居もの

ゝ斯の如き者なり　十五　誠に我なんぢらに告ん凡そ孩提の如くに神の國を承ざる者ゝ之に入ことを得ざる也　十六　卽ち彼等を抱て手をその上に按これを祝せり○　十七　イエス途に出けるに一人はしり來りて　跪き問けるゝ善師よ我かぎりなき生命を嗣ために何を行べき乎　十八　イエス彼に曰けるゝ何ぞ我を善と稱するか一人の外に善者ゝなし卽ち神なり　十九　誠ゝ爾が識ところなり姦淫する勿れ殺なかれ盜なかれ妄の證を立る勿れ　拐騙なかれ爾の父と母を敬へ　二十　答て曰けるゝ師よ是みな我が幼きより守れるもの也　二一　イエス彼を見て愛み曰けるゝ爾なほ一を虧ゆきて其所有をうり貧者に施せ然ば天に於て財あらん而して來り十字架を操て我に從へ　二二　彼この言に因て哀み憂て去ぬ彼ゝ大なる產業を有る者なれば　二三　イエス環視てその弟子に曰けるゝ財を有る者の神の國に入ゝ如何に難かな　二四　弟子この言を駭けり　イエス復こたへて彼等に曰けるゝ小子よ財を恃む者の神の國に入ゝ如何に難かな　二五　富者の神の國に入よりゝ駱駝の針の孔を穿るゝ却て易し　二六　弟子たち甚く駭き互に曰けるゝ然ば誰か救を受べき乎　二七　イエス彼等を見て曰けるゝ是人にゝ能ざる所なれど神に於は然らず神は能ざる所なければ也　二八　是に於てペテロ彼に曰けるゝ我儕一切を舍て爾に從へり　二九　イエス答て曰けるゝ誠に爾曹に告ん我と福音の爲に家宅あるひゝ兄弟あるひゝ姉妹あるひゝ父あるひゝ母あるひゝ妻あるひゝ兒女あるひゝ田疇を舍る者ゝ　三十　この世にて百倍を受ざる者なし卽ち家宅兄弟、姉妹、母、兒女、田疇を迫害と共に受また後の世にゝ窮なき生を受ん　三一　然ど多の先なる者ゝ後になり後なる者ゝ先になるべし○　三二　さて彼等エルサレムに上る途間イエス弟子に先ち行ければ彼等おどろき且おそれて從へりイエス十二を伴ひて將に己に及んとする事を彼等に告給ひけるゝ　三三　我儕エルサレムに上り人の子ゝ祭司の長と學者等に付れん彼等これを死罪に定め異邦人に付し　三四　又これを嘲弄し鞭ち唾し且これを殺んこれを死罪に定め異邦人に付し　三四　又これを嘲弄し鞭ち唾し且これを殺んこれを死罪に定め異邦人に付し　三四　又これを嘲弄し鞭ち唾し且これを殺ん斯て第三日に甦るべし○　三五　ゼベダイの子ヤコブとヨハネイエスに來て

曰けるゝ師よ我儕が求る事を願くゝ我儕に成たまへ 三六 彼等に曰けるゝ爾
曹に我が何を成ん事を欲ふや 三七 彼等いひけるゝ爾榮を得んとき我儕
の一人を其右に一人を其左に坐せしめよ 三八 イエス彼等に曰けるゝ爾曹
ゝ求ふ所を知ず爾曹わが飲ところの杯を飲わが受る所のバプテスマを受
得や 三九 彼等いひけるゝ能すべしイエス彼等に曰けるゝ爾曹ゝ實に我が飲
ところの杯を飲また我が受る所のバプテスマを受べし 四十 然ど我が右左
に坐する事ゝ我が予ふべきに非たゞ備られたる者ゝ予らるべし 四一 十人の
弟子これを聞てヤコブとヨハネを憤れり 四二 イエス彼等を召て曰けるゝ
異邦人の君と見る者ゝ其民を治また大なる者どもゝ彼等の上に權を執これ
爾曹が知ところ也 四三 然ど爾曹の中にてゝ然す可らず爾曹のうち大ならん
と欲ふ者は爾曹に役るゝ者とならん 四四 また爾曹のうち首たらんと欲ふ者
ゝ凡の人の僕とならん 四五 蓋人の子の來るも人を役ふ爲に非ず反て人に役
ゝれ且おほくの人に代その命を予て贖とならん爲なり○ 四六 斯て彼等

エリコに至りイエスその弟子と大なる群集の人々と共にエリコを出る時
テマイの子なるバルテマイといふ瞽者路の旁に坐して乞ぬけるが 四七 ナ
ザレのイエスなりと聞て呼り曰けるゝダビデの裔イエスよ我を恤み給へ
四八 多の人々これに緘默と戒めけれども益よゝゝりてダビデの裔よ我を
恤み給へと曰けれゝ 四九 イエス立止りて彼を召と命じけれゝ人々瞽者
を召て彼に曰けるゝ心を安んぜよ起イエス爾を召 五十 瞽者その表衣を棄
たちてイエスに來れり 五一 イエス答て彼に曰けるゝ爾われに何を爲れん
と欲ふや瞽者いひけるゝ主よ見なん事を欲ふ 五二 イエス彼に曰けるゝ往な
んぢの信仰なんぢを救へり直に彼みゆることを得イエスに從ひて路を行り

第十一章　かれら橄欖山のべテパゲとベタニヤに至りエルサレムに近け
る時イエス二人の弟子を遣さんとして 二 彼等に曰けるゝ爾曹對面の村に往
かしこに入ゝ頓て人の未だ乘ざる所の繫げる驢馬の子を見べし其を解て牽
來れ 三 もし誰か爾曹に何ゆゑ然する乎といふ者あらゝ主の用なりと曰さら

ゞ直に其を此に遣るべし　四彼等ゆきて門の外の岐路に繋げる驢馬の子を見て之を解けれゞ　五其處に立る人々のうち或人かれらに曰けるハ此驢馬の子を解て如何する乎　六弟子イエスの命ぜし如く曰しかゞ遂に許たり　七弟子驢馬の子をイエスに牽きたりて己が衣を其上に置けれゞイエスこれに乗り　八人々おほくハ其衣を路上に布あるひハ樹の枝を伐て路上に布　九かつ前にゆき後に從ふ人々呼り曰けるハホザナよ主の名に託て來る者ハ福なり　十主の名に託て來る我儕の父なるダビデの國ハ福なり至上處にホザナ

○十一イエスエルサレムに至り聖殿に入て悉くみまわし時すでに暮に及けれゞ十二と偕にベタニヤに出往り○十二明日かれらベタニヤより出し時イエス饑たり　十三遙に葉ある無花果の樹を見てその樹に何か有んとて來しに葉の他なにも見ざりき是無花果樹の時に非れゞ也　十四イエスこの樹に對て今よりのち永久も爾の果を食ふ人あらざれといふ弟子これを聞り○十五彼等エルサレムに至りイエス殿に入てその中にをる賣買する者を殿より逐出し兌銀者の案、鴿を鬻者の椅子を倒し　十六かつ器具を以て殿を過ることを許さず　十七また彼等に諭て曰けるハ我室ハ萬國の人の祈禱の室と稱らるべしと錄されたるに非や然るに爾曹ハ之を盜賊の巣となせり　十八學者と祭司の長これを聞て如何してかイエスを喪さんと謀しが彼を懼たり蓋人々みな其教に駭きたれゞ也○十九日くれてイエス城邑を出行り　二十翌朝かれら無花果の樹を過る時その根より蓋く枯たるを見る　二一ペテロ憶出てイエスに曰けるハラビ見よ詛し所の無花果樹ハ枯たり　二二イエス答て彼等に曰けるハ神を信ぜよ　二三誠に我なんぢらに告ん誰にても其心に疑ふ事なく其いふ所の言ハ必ず成べしと信じ此山に移て海に入といハゞ其言の如く成べし　二四是故に我なんぢらに告ん凡そ祈禱の時その求ふ所のものハ必ず得べしと信ぜゞ必ず得べし　二五又なんぢら立て祈禱する時もし人を憾こと有ゞ之を免せ蓋天に在す爾曹の父に爾曹も亦その過を免されん爲なり　二六もし爾曹免さずゞ天に在す爾曹の父も亦なんぢら

の過を免し給へじ○二七彼等またエルサレムに至りイエス殿を行るとき祭司の長學者および長老等きたりて二八彼に曰けるへ何の權威を以て此事を行や誰が此事を行べき爲に爾に此權威を與しや二九イエス答て彼等に曰けるへ我も一言なんぢらに問ん我に答よ然ば我なんぢらに何の權威を以て之を行といふ事を告べし三十ヨハネの浸礼のバプテスマハ天よりか人よりか我に答よ三一彼等たがひに論じ曰けるハ若し天よりと云バ然バ何故かれを信ぜざるかと曰ん三二もし人よりと云バ彼等民を懼たる也そハ民みなヨハネを預言者と爲に因三三遂に答て知ずと曰イエス答て曰けるハ我も何の權威を以て之を行か爾曹に語じ

第十二章　イエス譬をもて彼等に語れり或人葡萄園を樹り籬を環し酒搾をほり塔をたて農夫に租與て他の國へ往しが二期いたりけれバ葡萄園の果を收取ん爲に僕を農夫の所に遣しけるに三農夫等これを執へ打撲きて徒く返しめたり四また他の僕を彼等に遣しるに農夫等これを石にてうち首に傷つけ辱しめて返しむ五又ほかの者を遣しるに之をも殺せり又ほかに多く遣しるに或ハ撲あるひハ殺しぬ六爰に一人の愛子ありけるが此わが子ハ敬ふならんと曰て遂に其子を遣しるに七農夫等たがひに曰けるハ此ハ嗣子なり率これを殺さん然バ產業ハ我儕の者とならん八乃ち執へて之を殺し葡萄園の外に棄たり九然バ葡萄園の主人なにを爲べきか彼きたりて農夫等を打滅し葡萄園を他の人に託ふべし十工匠の棄たる石ハ屋の隅の首石と成り十一これ主の成たまへる事にして我儕の目に奇とする所なりと錄されしを未だ讀ざる乎十二彼等この譬ハ己等を指て語れりと知イエスを執んとせしかども衆人を懼てイエスを去ゆけり○十三彼等イエスを其言に由て陷いれんとしてパリサイの人とヘロデの黨の中より數人を遣せり十四遣されし者等イエスの所に來り曰けるハ師よ爾ハ眞なる者なり又誰にも偏らざる事を我儕ハ知そハ貌に依て人を取ず誠を以て神の道を教れバなり貢をカイザルに納るハ宜や否われら納べきか納ざる可か十五イエス

その實ならざるを知て彼等に曰けるハ何ぞ我を試るやデナリを携來りて
我に觀よ　十六　かれら携來りけれバイエス彼等に曰けるハ此像と號ハ誰か
答てカイザルなりと曰　十七　イエス曰けるハカイザルの物ハカイザルに歸し
又神の物ハ神に歸すべし彼等これを奇とせり○　十八　復生なしと曰なせる
サドカイの人きたりてイエスに問けるハ　十九　師よ我儕にモーセが書遺るに
ハ人の兄弟もし子なくして妻を留し死バその兄弟この妻を娶て兄弟
の裔を立べしと　二十　爰に七人の兄弟ありしが長子妻をめとり子なくして
死ニ　第二の者これを娶また子なくして死第三もまた然す　二一　七人みな之
を娶たれど子なく終にハ此婦も死り　二二　復生の時かれら甦らバ此婦
ハ誰の妻と爲べきか蓋七人おなじく之を娶たれバ也　二四　イエス答て彼等
に曰けるハ爾曹ハ聖書をも神の能をも知ざるに因て謬れるならず乎　二五　そ
れ死より甦る時ハ娶ず嫁がず天にある使者等の如し　二六　死し者の甦る
事に就てハモーセの書棘中の篇に神かれに語て我ハアブラハムの神イサク
の神ヤコブの神なりと曰たまひしを爾曹讀ざる乎　二七　神ハ死し者の神に非
ず生る者の神なり爾曹大に謬れり○　二八　學者の一人彼等の議論を聞て
イエスの善これに應しを知きたり彼に問けるハ諸誡の首ハイスラエルよ聽け主なる我
る乎　二九　イエス彼に答けるハ諸誡のうち何れ首な
儕の神ハ即ち一の主なり　三十　なんぢ心を盡し精神を盡し意を盡し力を
盡し主なる爾の神を愛すべし斯より大なる誡の首あり　三一　第二も亦これに同じ己
の如く爾の隣を愛すべし是誡なし　三二　學者イエスに曰けるハ
善かな師よ　爾神ハ即ち一にして他に神なしと曰しハ誠なり　三三　また心
を盡し智慧を盡し精神を盡し力を盡して之を愛し又おのれの如く隣を愛す
るハ諸の燔祭と禮物よりも愈るなり　三四　イエス彼が道理を知る答を見て
之に曰けるハ爾神の國より遠からず此のち敢てイエスに問者なかりき○
三五　イエス殿に在て教誨を爲る時かれらに答て曰けるハ何ぞ學者ハキリス
トをダビデの裔といふ乎　三六　夫ダビデ聖靈に感じて自いふ主わが主に曰

けるハ我なんぢの敵を爾の足凳となすまで我右に坐せよと　三七如此ダビデ自ら彼を主と稱たり然ハ如何で其裔ならんや多の人々喜びてイエスに聞ことを爲り○三八イエス教をなせる時かれらに曰けるハ長き衣服を衣てあるき市上にて人の問安　三九會堂の高坐筵席の上座を好　四十また孀婦の家を呑いつハりて長き祈をする學者を謹防よ彼等の審判かるゝこと尤も重し○四一イエス賽錢の箱に對て坐し人々の錢を箱に入るを見たまひしに多の富者ハ多く投入たり　四二一人の貧き孀婦きたりてレプタ二ゝ投入る此ハ四厘ほどに直れり　四三イエスその弟子を召て彼等に曰けるハ誠に我なんぢらに告ん箱に投入し凡の人々よりも此貧き孀婦ハ多く投入たり　四四そハ彼等ハ皆その餘れる所を以て入この婦ハその不足ところより其すべての所有すなはち全業を盡く入たれハ也

第十三章　イエス聖殿より出けれハ一人の弟子かれに曰けるハ師よ觀たまへ此石この殿宇いかに盛んならず乎　二イエス答て曰けるハ爾曹この大なる殿宇を見か一の石も石の上に圮れずして遺じ　三イエス橄欖山にて殿に對ひ坐し給しにペテロヤコブヨハネアンデレ竊に問けるハ　四何の時此事あるや又すべて此事の成ん時ハ如何なる兆あるや我儕に告たまへ　五イエス答て彼等に曰けるハ人に欺かれざるやう愼めよ　六蓋おほくの人わが名を冒來り我ハキリストなりと曰て多の人を欺くべし　七爾曹戰と戰の風聲を聞とき懼るゝ勿れ是等の事はみな有べきなり然ども末期ハ未だ至らず　八民ハ起て民をせめ國ハ國を攻また隨在に地震あり饑饉、變亂あり是等ハ苦難の始なり　九爾曹みづから愼めよ蓋なんぢら集議所に付され又會堂にて撻うたれ且證を爲んため我事に因て侯および王の前に曳立ちろべし十面して福音ハまづ萬民に宣傳ざるを得ず　十一人なんぢらを曳解さが以前より何を言んと慮また思煩ふ勿れ惟なんぢら其とき賜ふ所の言を曰べし蓋ものいふ者ハ爾曹に非ず聖靈なり　十二兄弟ハ兄弟を死に付し父ハ子を付し亦子ハその父母に逆ひて之を死しめ　十三又なんぢらハ我

名に縁て凡の人に憎るべし然ど終まで忍ぶ者ハ救るゝを得ん 十四 預言者ダニエルが言し所の残暴にくむ可もの立べからざる所に立を見バ（讀者よく思べし）其時ユダヤにゐる者ハ山に避れよ 十五 屋上にゐる者ハ室に下る勿れ又物を取んとて其家に入なかれ 十六 田にゐる者ハ其衣服を取んとて歸る勿れ 十七 其日にハ孕る者と乳を哺す婦ハ禍なる哉 十八 なんぢら冬にぐることを免れん爲に祈れ 十九 其日に患難あらん此の如き患難ハ神の物を創造たまひし開闢より今に至るまで有ざりき亦後にも有じ 二十 もし主その日を減少し給ずバ一人だに救るゝ者なし然ど主の選たまへる所の選れし者の爲に其日を減少し給べし 二一 其時もしキリスト此にあり彼に在と爾曹にいふ者あるとも信ずる勿れ 二二 そハ僞キリスト僞預言者おこりて休徴と奇能を行ひ選れたる者をも欺くことを得バ欺くべけれバ也 二三 なんぢら愼よ我預じめ爾曹に盡く之を告 二四 厥時この患難のち日ハ晦く月ハ光を失ひ 二五 天の星ハおち天の勢ひ震ふべし 二六 其とき人々ハ人の子の大なる權威と榮光を以て雲の中に現れ來るを見ん 二七 また其とき人の子その使者等を遣して地の極より天の極まで四方より其選れし者を集むべし 二八 夫いんぢら無花果樹に由て譬を學その枝すでに柔かにして葉めぐめバ夏の近を知 二九 此の如く爾曹も凡て是等の事を見バ時ちかく門口に至ると知 三十 われ誠に爾曹に告ん是等の事ことゞく成まで ハ此民ハ逝ざるべし 三一 天地ハ廢んず然ど我言ハ廢じ 三二 其日その時を知者ハ惟わが父のみなり天にある使者も子も誰も知者なし○ 三三 此日いづれの時きたるを知ざれバ爾曹つゝしみて目を醒し祈禱せよ 三四 ゐる人の子ハ遠行せんとして其權を僕等に委れ各に爲べき事を任け又閾者に愈らず守れと命じて家をさる人の如し 三五 是故に爾曹も愈らずして守れ蓋家の主人あるひハ夕あるひハ夜半あるひハ鷄鳴時あるひハ早晨に歸るかを知ざれバ也 三六 恐くハ不意の時きたりて爾曹が眠るを見ん 三七 われ愈らずして守れと爾曹に告るハ即ち凡の人に告るなり

第十四章

さて逾越即ち除酵節の二日前に祭司の長と學者たち詭計を以てイエスを執へ殺さんとし二日けるゝ祭の日にゝ爲べからず恐くゝ民の中に亂起らん○三イエスベタニヤの癩病人シモンの家にて食し居たまへる時ある婦嚮石の盒に價貴きナルドの香膏を盛て携來り其盒を裂りイエスの頭に膏を沃たり四或人々互に怒を含いひけるゝ此膏を糜すゝ何故ぞや五之を鬻ば三百有奇のデナリを得て貧者に施すことを得んと此婦を言咎む六イエス曰けるゝ彼に係る勿れ何ぞ此婦を煩すや我に善事を行へる也七貧者ゝ常に爾曹と偕に在ば爾曹意に隨せて彼等を濟ることを得べし我ゝ常に爾曹と偕に在ず八此婦ゝ力を盡して作り蓋あらかじめ我を葬る爲わが身に膏を沃しなり九我まことに爾曹に告ん天の下いづくにても此福音を宣傳らるゝ處にゝ此婦の行し事も亦その記念の爲に言傳らるべし十さて十二の一人なるイスカリヤテのユダイエスを付さんとて祭司の長に往しに十一彼等これを聞て

悅び銀子を予んと約せしかばユダゝイエスを付さんと機を窺へり○十二除酵節の首の日すなゝち逾越の羔を殺すべき日弟子イエスに曰けるゝ逾越の食を何處へ往て我儕備ふへき乎十三イエス二人の弟子を遣さんとして之に曰けるゝ京城に往さらば水を盛たる瓶を挈る人に遇べし之に從へ十四その入ところの家の主人に師いふ我弟子と偕に逾越を食すべき客房ゝ安に在やと曰十五然れば彼陳設たる大なる樓房を爾曹に示べし我儕の爲に其處に備よ十六弟子ゆきて京城に入しにイエスの曰たまへる如く遇しかば逾越の備をなせり○十七日暮てイエス十二の弟子と偕に來れり十八かれら席に就て食する時イエス曰けるゝ誠に我なんぢらに告ん我と偕に食する爾曹のうち一人われを賣すべし十九彼等憂て各々イエスに言出けるゝ我なる乎また他の一人も曰けるゝ我なる乎二十イエス答て曰けるゝ十二の中の一人われと共に手を盂に着る者是なり二一人の子ゝ己に就て錄されたる如く逝んぬ然ど人の子を賣す者ゝ禍なる哉その人は生ざりしなら

べ幸なりし爲ん　二二かれら食する時イエスパンを取て祝し之を擘かれらに予て曰けるハ取て食へ此ハ我身なり　二三また杯を取て謝し彼等に予けれべ皆この杯より飲り　二四イエス曰けるハ此ハ新約の我血にして衆の人の爲に流す所のもの也　二五我まことに爾曹に告ん今よりのち新しきものを神の國にて飲ん日までハ葡萄にて製るものを飲じ○　二六彼等歌を詠て橄欖山に往り　二七イエス彼等に曰けるハ今夜なんぢら皆われに就て躓かん蓋われ牧者を擊ん其とき綿羊散べしと錄されたれべ也　二八然ど我よみがへりて後なんぢらに先ちがりラヤに往べし　二九ペテロイエスに曰けるハ假令みな躓くとも我ハ然らず　三十イエス彼に曰けるハ我まことに爾に告ん今日この夜鷄二次鳴まへに爾三次われを知ずと曰ん　三一彼また力言いひけるハ我ハ爾と偕に死るとも爾を知ずと曰じ弟子みな如此いへり　三二斯て彼等ゲツセマ子といふ所に至りイエスその弟子に曰けるハ祈る間こゝに坐せよ　三三遂にペテロヤコブヨハ子を伴ひゆき甚しく憂へ哀を餘し　三四彼等に曰けるハ我心いたく憂て死るばかりなり爾曹こゝに待て目を醒し居　三五イエス少し進行て地にふし祈り曰けるハ若かなハゞ此時を去しめ給へ　三六また曰けるハアバ父よ爾に於てハ凡の事能ざるなし此杯を我より取たまへ然ど我が欲ふ所を成んとするに非ず爾が欲ふ所に任せ給へ　三七イエス來りて彼等の寢たるを見ペテロに曰けるハシモンなんぢ寢たるか一時も目を醒し居こと能ざる乎　三八誘惑に入ぬやう目を醒かつ祈その心神ハ願なれど肉體よわき也　三九復ゆきて同言を曰て祈れり　四十返りて復かれらの寢たるを見る此ハ彼等その目倦たるなりイエスに何と對ふ可やを知ざりき　四一三次きたりて彼等に曰けるハ今ハ寢て安め充分なり時いたれり人の子ハ罪人の手に賣さるゝ也　四二起よ我儕ゆくべし我を賣す者近けり○　四三斯いへる時たゞちに十二の一人なるユダ双と棒とを攜たる多の人々と共に祭司の長學者および長老の所より來る　四四イエスを賣者かれらに號をなして曰けるハ我が接吻する者ハ其なり之を執て愼

と曳去よ　四五　即ち來りてイエスに近よりラビ、ラビと曰て接吻せり　四六
人々手をイエスに措て執ふ　四七　傍に立る者の一人刃を拔て祭司の長
の僕を擊その耳を削り　四八　イエス答て彼等に曰けるハ刃と棒とをもち盜
賊を執る如くして我を執に來る乎　四九　われ日々なんぢらと共に殿にて教し
に爾曹われを執ざりき然ど此ハ聖書に應せんが爲なり　五十　弟子みなイエ
スを離て奔去ぬ　五一　一少者その身にたゞ廂の夜具を蔽てイエスに從ひ
たりしが逮捕の者等これを執けれど　五二　かれ廂の夜具をすて裸にて逃去
り○　五三　衆人イエスを祭司の長に携往けるに祭司の長長老および學者
等ことゞく彼の所に集れり　五四　ペテロ遠く離れてイエスに從ひ祭司の長
の庭の内まで入僕と共に坐して火に燠まり居り　五五　祭司の長および議員
みなイエスを殺んとして證を求れども得ず　五六　多の人々イエスに妄
の證を言出せども其證あハず　五七　或人々たちて妄の證を言出しけ
るハ　五八　かれ手を以て作たる此聖殿を毀ち三日の間に手を以て作ざる別の

殿を建んと言しを我儕ハ聞り　五九　如此いひしが其證また符ず　六十　祭司の
長中に立てイエスに問いひけるハ爾答る言なき乎この人々の爾に立る
證據ハ如何　六一　イエス默然として何も答ざりけれど祭司の長また彼に問
て曰けるハ爾ハ頌べき者の子キリストなる乎　六二　イエス曰けるハ然り人の
子大權の右に坐し天の雲の中に現れ來るを爾曹みるべし　六三　是に於て祭司
の長その衣を裂て曰けるハ我儕なんぞ復ほかに證據を求んや　六四　その褻瀆
たる言ハ爾曹も聞る所なり爾曹如何に意ふや彼等擧てイエスを死に當る
べき者と擬たり　六五　或者ハ彼に唾し又その面を掩ひ拳にて擊いひけるハ預
言せよ亦僕等も手の掌にて彼を批り　六六　ペテロ下庭に在しに祭司の長
のある婢きたりて　六七　其火に燠まり居を見つらゝ彼を視て曰けるハ爾も
ナザレのイエスと偕に在し　六八　ペテロ肯ハずして曰けるハ我これを知ず
亦なんぢが言ところの事を識得ざるなり斯て庭門に出けれど鷄鳴ぬ
六九　その婢かれを見て傍に立る者に又いひけるハ此人もかの黨の一人

なり七十ペテロまた肯へず少頃して傍に立る者またペテロに曰けるハ爾
誠に彼の黨の一人なり蓋爾ハガリラヤの人なり其方言これに合り
七一是に於てペテロ誓て我神の祟を受るとも爾曹が曰その人を我ハ識ざ
る也と曰しが七二此とき鷄二次鳴けれバペテロイエスの鷄二次
なく前に三次我を識ずと曰んと言たまひし事を憶起し且これを思反し
て哭悲めり

第十五章　平旦に及び直に祭司の長長老學者たち凡の議員と共に議て
イエスを繫り曳携てピラトに解せり二ピラト彼に問けるハ爾ハユダヤ人の
王なるやイエス答けるハ爾が言る如し三祭司の長多端をもて彼を訟ふ
四ピラト復イエスに問て曰けるハ何も答ざるか彼等が爾について證を立
しこと幾何かりぞ乎五ピラトの奇と爲までにイエス何をも答ざりき六偖こ
の節筵にハ彼等が求に任せて一人の囚人を赦すの例なり七時にバラバと云
る者あり己と共に謀叛せし黨と同く繫れ居たりしが彼等ハその謀叛の
とき人を殺しる者等なり八人々聲を揚て呼り恒例の如せん事を求りルピ
ラト彼等に答て曰けるハユダヤ人の王を爾曹に我が釋さん事を欲むや十是
ピラト祭司の長等の嫉に因てイエスを解したりと知バなり十一祭司の長民
どもにバラバを釋さん事を求と唆む十二ピラトまた答て彼等に曰けるハ然
ばユダヤ人の王と爾曹が稱る者にハ何を我が處ん事をなんぢら欲むや十三
彼等また叫びて之を十字架に釘よと曰十四ピラト彼等に曰けるハ彼なんの
惡事を行しや彼等ます〳〵叫びて之を十字架に釘よと曰十五ピラト民の懽
びを取んとしてバラバを彼等に釋しイエスを鞭ちて之を十字架に釘ん爲に
付せり十六兵卒等これを公廳に携ゆき全營を呼集め十七彼に紫の
袍を著せ棘にて冕を編て冠しめたり十八斯て曰けるハユダヤ人の王安か
れ十九また葦を以て其首を擊つ唾し跪きて拜しぬ二十嘲弄し畢て
紫の衣をはぎ故の衣を著せて十字架に釘んとて曳往しが二十一アレキサン
デルとルフの父なるクレネのシモンと云るもの田間より來りて其處を經

過りければ強て之にイエスの十字架を負せたり　二二　イエスをゴルゴダ譯ば
即ち髑髏と云る所に携來り　二三　沒藥を酒に和て飲せんと爲りしに之を受
さりき　二四　イエスを十字架に釘しのち誰が何を取んと鬮を拈てその衣服を
分てり　二五　朝の第九時にイエスを十字架に釘　二六　その罪標をユダヤ人の王
と書つく　二七　二人の盜賊かれと共に一人は其右一人は其左に十字架に釘
らる　二八　これ聖書に彼は罪人と共に算られたりと云しに應り　二九　往來の者
イエスを訴り首を搖て曰けるは噫聖殿を毀て之を三日に建る者よ　三十　自己
を救て十字架を下よ　三一　祭司の長學者等も同く嘲弄して互に曰けるは人
を救て自己を救ひ能ず　三二　イスラエルの王キリストは今十字架より下るへ
し然ば我儕見て之を信ぜん又ともに十字架に釘られたる者等も彼を訴れり
三三　第十二時より三時に至るまで徧く地のうへ暗なりぬ　三四　第三時にイエ
ス大聲に呼りエリ、エリ、ラマサバクタニと曰これを譯べ吾神わが神何ぞ
我を遺たまふ乎と云るなり　三五　傍らに立たる者のうち或人これを聞て彼は

エリヤを呼なりと曰　三六　一人はしり往て海絨をとり醋を漬せ之を葦に束て
彼に飲しめ曰けるは俟エリヤ來りて彼を救ふや否こゝろむべし○　三七　イエ
ス大なる聲を發て氣絕　三八　殿の幔上より下まで裂て二と爲り　三九　イエス
に對て立たる百夫の長かく呼り氣絕しを見て曰けるは誠に此人は神の子
なり○　四十　また遙に望ぬたる婦ありし其中に在し者はマグダラのマリアお
よび年少ヤコブとヨセの母なるマリア又サロメなり　四一　彼等はイエスの
ガリラヤに居たまひし時これに從ひ事し者等なり亦この他にも彼と共に
エルサレムに上りし多の婦ぬたりき○　四二　是日は備節日にて安息日の前
の日なりし故　四三　日暮るとき尊き議員なるアリマタヤのヨセフと云る者き
たれり此人は神の國を慕る者なり彼はぶからずピラトに往てイエスの屍
を求たり　四四　ピラトイエスの已に死るを奇み百人の長を呼て彼は死てよ
り時を經たるや否やを問　四五　百夫の長より聞て之をしり屍をヨセフに
予ふ　四六　ヨセフ窠布を買求め而してイエスを取下し之をその窠布にて裹み

磐に鑿たる墓におき石を墓の門に轉し置り 四七 マグダラのマリア及ヨセの母なるマリア其屍を葬し處を見たり

第十六章 安息日過てマグダラのマリアとヤコブの母なるマリア及サロメ香料を買さるのへイエスに抹んとて來れり 二七日の首の日いと早く日の出る時かれら墓に來り 三互に曰けるゝ誰か我儕の爲に石を墓の門より轉し取もの有んか是その石はなはだ巨大なれゝ也 四斯て彼等目を擧れゝ石の已に轉あるを見る 五墓に入しに白衣をきたる少者の右の方に坐せるを見て駭き異めり 六少者かれらに曰けるゝ駭き異む勿れ爾曹ゝ十字架に釘られしナザレのイエスを尋ぬ彼ゝ甦りて此に居ず彼を葬し處を觀よ 七且ゆきて其弟子とペテロに告よ彼ゝ爾曹に先ちてガリラヤに往り爾曹かこにて彼を見べし卽ち其なんぢらに言しが如し 八彼等いでゝ墓より奔れり且戰慄かつ駭き亦一言をも人に語ざりき是懼しが故なり ○九イエス七日の首の日よあけごろ甦りて先マグダラのマリアに現るゝ曩にイエス彼より七の惡鬼を逐出せり 十イエスと共に在し者の哭哀める時に此婦きたりて是等の事を告 十一彼等イエスの活て此の婦に見え給ひしことを聞しが信ぜざりき 十二此後かれらの中二人の者鄕村へ往けるが路を行きイエスの變たる貌にて彼等に現る 十三この二人の者ゆきて他の弟子等に告けしども亦これをも信ぜざりき ○十四又その後十一の弟子の食しをる時に現れて彼等が信なきと其心の頑さを責め給へり是かれらイエスの甦り給るのち其を見し者の言ところを信ぜざりし故なり 十五イエス彼等に曰けるゝ偏く世界を廻て凡の人に福音を宣傳よ 十六信じてバプテスマを受る者ゝ救れ信ぜざる者ゝ罪に定らるゝ也 十七信ずる者にゝ左の如き奇跡ふたふべし我名に託て惡鬼を逐出し異邦の方言をいひ 十八また蛇を操へ毒を飲ども害なく又手を病の者に按なゞ卽ち愈ん ○十九斯て主ゝ彼等に語しのち天に擧られ神の右に坐しぬ 二十弟子たち偏く福音を宣傳ふ主も亦かれらに力を協せ其從ふ所の奇跡によりて道を堅うしたまへりアメン

新約全書馬可傳福音書 終

新約全書路加傳福音書

第一章

我儕の中に篤く信ぜられたる事を始より親く見て道に役たる者の二我儕に傳し如く記載んと多の人々これを手に執る故に貴きテヨピロよ三我も原より諸の事を詳細に考究たれば次第を爲て爾に書おくり四爾が教られし所の確實を曉せんと欲り○五ユダヤの王ヘロデの時にアビアの班なる祭司ザカリアと云る者あり其妻ハアロンの裔にて名をエリサベツと云六共に神の前にて義人なり凡て主の誡命と禮儀を虧おく行へりセエリサベツ姙なきが故に彼等に子あし又二人とも年も老ぬ八ザカリアその班次に値て神の前に祭司の職を行ふ時九祭司の例に從ひ籤を抽て主の殿にいり香を燒ことを得十香を燒ける時に衆の人々ハみな外に居て祈れり十一主の使者香壇の右に立てザカリアに現れしかば十二ザカリア之を見て驚懼る十三天使かれに曰けるハザカリアよ懼るゝ勿れ爾の祈禱すでに聞たまへり爾の妻エリサベツ男子を生ん其名をヨハネと名くべし十四爾に

よろこび　たのしみ
喜と樂あらん多の人も亦その生るゝに因て悅び有ん十五それ此子主の
まへおほい　またぶだうしゅ　こさけ
前に大ならん又葡萄酒と濃酒とを飲じ母の胎より生出て聖靈に充さる
たみおほくひとしゅ　そのかみかへらべけ　うまれいでせいれいみたかれ
十六又イスラエルの民の多の人を主なる其神に歸す可れば也十七彼エリヤ
こゝろちからもしゅさきゆかれちゝこゝろこと　おもものたゞしきひと
の心と才能を以て主の先に行ん是父の心に子を慈ませ逆れる者を義人
さとりかへらしゆためあらたたみそなへとしおゆつまなにより
の智に歸せ主の爲に新なる民を備んとなり十八ザカリア天使に曰けるハ我
すでに年老妻もまた年進たれば何に因てか此事あるを知ん十九天使こ
たへて曰けるハ我ハガブリエルとて神の前に立者なり爾に語てこの喜の
おとづれつげなめつかはいひわれかみまへたつものかならなるわことばしんよろこび
音を告ん爲に遣されたれば二十其時いたりて必ず成べき我が言を信ざ
このことなるひおふしよりなるとしんたみ
ろに因なんぢ瘖となりて此事の成日まで言ふこと能ハじ二一民ザカリアを
そのみやうちひさしきあやしものいでものいたあたかれ
俟ぬて其殿の内に久を異む二二ザカリア出て言ふこと能ハざりしかば彼
みやうちいしやうみことさとりかうべひとしかからべ
等その殿の内にて異象を見たる事を曉たりザカリア衆人に首を以て示し
つとめおふしひみちこのゝちつましめ
竟に瘖となれり二三その職事の日滿ければ家に歸りぬ二四此後その妻エリ
はらみかくれはちひとなかはちしゅ
サベツ孕て隱をりしこと五ケ月にして二五曰けるハ主わが耻を人の中に

すゝがためかへりみ
灑せん爲に眷顧たまふ時ハ此の若く我に爲り○二六此六ケ月に當りガリ
ときかくわれなせこのろくかげつあたいへひとなづけ
ラヤのナザレと名たる邑の二七ダビデの家のヨセフと云る人の聘定せし
ところをとめかみいへつかはそのをとめな
所の處女に神より遣されたり其處女の名ハマリア
をとめきたりつかひめぐしものなまりあ
と云り二八天使この處女に來いひけるハ慶たし惠るゝ者よ主なんぢと偕に
いへなんぢをんなうちさいはひものことばいぶかりあいさつかとも
在す爾ハ女の中にて福なる者なり二九處女その言を訝この問安ハ如何
おもことなおそなんぢかめぐみなづくなかなんぢかみ
なる事ぞと思へり三十天使いひけるハマリアよ懼るゝ勿れ爾ハ神より惠を
つかひうまはらみなんしえなかれあなたかみめぐみものおほいなづく
得たり三一爾孕て男子を生ん其名をイエスと名べし三二かれ大なる者と
なりいとたかきものことなへうまなそのなかみせんぞわうくらるかれあたふものなづく
爲て至上者の子と稱られん又主たる神その先祖ダビデ王の位を彼に予れ
いとたかきものこなへまたしゅかみくにをはあたかれあたふ
ば三三ヤコブの家を窮なく支配すべく且その國終ることなく有ざるべし三四マ
しはいつかひいへかぎりわれひとゆかくにをはあらべき
リア天使に曰けるハ我いまだ夫に適ざるに何にして此事あるべけや三五天使
われいひせいれいいまだをとこたくいかこのことあるべきやあつかひ
こたへて曰けるハ聖靈なんぢに臨る至上者の大能なんぢを庇ん是故に
いひせいれいなんぢのぞきたるいたかきものいきほひなんぢおほはこのゆゑ
爾が生ところの聖なる者ハ神の子と稱らるべし三六それ爾の親戚エリサ
なんぢうまものかみことなへかれとしおいなんしはらめもとはらみしんせきはらみろくか
ベツ彼も年老て男子を孕り緊妊なき者と稱れたりしが今すでに孕て六ケ

月になりぬ 三七 蓋神に於ゐ能ざる事なけれゞ也 三八 マリア曰けるゐ我ゐ是主の使女なり爾の言る如く我に應かし天使つひに彼を去り○ 三九 當時マリア起て亟かに山地あるユダの邑に往 四十 ザカリアの家に入てエリサベツに問安したりしに 四一 エリサベツマリアの問安を聞しかゞ其胎孕腹の内にて跳動たりエリサベツ聖靈に感され 四二 大聲に呼いひけるゐ女の中にて爾ゐ福なる者なり亦孕る所の者も福なり 四三 わが主の母われに來われ何に由てか此事を得し 四四 夫なんぢの問安の聲わが耳に入しとき胎孕よろこびて我腹の中に跳れり 四五 主の言を信ぜし者ゐ福なり蓋主の語たまひし如く必ず成べけれゞ也 四六 マリア曰けるゐ我心主を崇め 四七 我靈ゐわが救主なる神を喜ぶ 四八 是その使女の卑微をも眷顧たまふが故なり今よりのち萬世までも我を福なる者と稱べし 四九 それ權能を有たまへる者われに大なる事を成り其名ゐ聖 五十 その矜恤ゐ世々かれを畏るゝ者に及ゞん 五一 其臂の力を發して心の驕る者を散し 五二 權柄ある者を位より下し卑賤者を擧 五三 飢たる者を美食に飽せ富る者を徒く返らせ給ふ 五四 アブラハムと其子孫を窮なく憐むことを忘ずして 五五 其僕イスラエルを扶持たまへり是われらの先祖に言たまひしが如なり 五六 マリアエリサベツと居しこと三ヶ月ばかりにて己が家に歸たりき○ 五七 偖エリサベツ產期みて男子を生り 五八 その隣里の者また親戚のもの主がエリサベツに大なる慈悲を垂たまひし事を聞て偕に喜べり 五九 第八日に及けれゞ彼等子に割禮せんとて來り其父の名に因ザカリアと名んとせしに 六十 其母こたへて然す可らずヨハ子と名べしと曰けれゞ 六一 彼等エリサベツに對て曰けるゐ爾が親戚の中にゐ此名を名し者なし 六二 かれら遂に其父に頭にて示いかに名んと欲か問たるに 六三 ザカリア寫字板を請て其名ゐヨハ子と書しるしかゞ皆奇めり 六四 ザカリアの口たちまちに啓て舌とけ言ひて神を頌たり 六五 その隣里に住たる人々みな懼ぬ又すべて此事を徧くユダヤの山地に傳播されしかゞ 六六 聞もの皆これを心に藏て此子ゐ如何なる者にか成んと曰り偖主の手

かれと共に在き六七父ザカリア聖靈に感され預言して曰けるハ六八主なるイスラエルの神ハ讃美べき哉これ其民を眷顧て贖を爲し六九我儕の爲に拯救の角を其僕ダビデの家に挺たまへべ也七十古より聖なる預言者の口を以て言たまひしが如し七一即ち我儕を敵また凡て我儕を惡む者の手より脫す救なり七二此ハ仁惠を我儕の先祖に施し又その聖約を忘じと也七三是我儕の先祖アブラハムに立し所の誓にして七四我儕を敵の手より救ひ我儕の生涯を七五聖と義に於て懼なく主に事しめんと也七六嬰兒よ爾ハ至上者の預言者と稱られんなり主に先ちて行その路を備んと爲べなり七七神の深き矜恤に賴その罪を赦されて救れん事を其民に示さんため也七八うの矜恤に賴て旭の光上より七九幽暗と死蔭に住る者を照し我儕の足を導きて平康なる路に至せんとて臨めり○八十斯て嬰兒ハ漸成長し精神ます〳〵強健にしてイスラエルに顯るゝの日まで野に居り

第二章　當時天下の戶籍を查る詔命カイザルアウグストより出たり二こレニオスリヤを管理し時の初次に行ハれたりし也三人みな戶籍に登んとて各その故邑に歸たり四ヨセフもダビデの宗族また血統ゑれべ戶籍に登んとて五已に孕る其聘定の妻マリアと共にガリラヤの邑ナザレより出てユダヤに上りダビデの邑ベテレヘムといふ所に至れり六此に居て產期滿けれべ七家子を生それを布に裹て槽に臥せたり此ハ客舍に彼等の居處なかりしが故なり○八近傍に羊を牧もの有けるが野に居て夜間その群を守たりしに九主の天使きたりて主の榮光かれらを環照けれべ牧者おほいに懼たり十天使これに曰けるハ懼ることなかれわれ萬民に關りたる大なる喜の音を爾曹に告べし十一それ今日ダビデの邑に於て爾曹の爲に救主うまれ給へり是主たるキリストなり十二爾曹布にて裹し嬰兒の槽に臥たるを見ん是其徵なり十三倏ち衆の天軍あらハれ天使と共に神を讃美て曰けるハ十四天上ところにハ榮光神にあれ地にハ平安人にハ恩澤あれ十五天使等かれらを離て天に行けれべ羊を牧もの互に曰けろ

ゝ率ベテレヘムにゆき主の示し給へる其有し事を見んとて十六急ぎ至りマ
リアとヨセフまた槽に臥たる嬰兒に尋遇り十七既に見て此子につき天
使の語し事を傳播ければ十八聞者みな羊を牧者の語る事を奇みたり十九
マリアハ凡て是等の言を心に記て思しぬ二十羊を牧者その見聞せる
所みな己に語し所の如あるにより神を崇かつ讃美て返れり○二一子に
割禮を行ふべき八日の日いたりければ其いまだ胎に寓ざる先に天の使者の
稱し如く名をイエスと稱たり○二二モーセの律法に循ひて潔の日滿ければ
嬰兒を携て主に献んが爲エルサレムに上れり二三是主の例に初に生るゝ
男子ハ主の聖者と稱べしと錄されたるが如し二四また主の律法に斑鳩一
雙あるひハ雛鴿一を献ふへしと言るに循ひて祭を行ん爲あり○二五
偖エルサレムにシメオンと云る人あり斯人ハ義かつ敬ありてイスラエ
ルの民の慰められん事を俟る者あり聖靈その上に臨り二六また主のキリス
トを見ざる間ハ死じと聖靈にて示さる二七かれ聖靈に感じて神殿に入り兩
親その子イエスを律法の例に循ひて行ハんと携來りしに二八シメオン
嬰兒を抱き神を讃美いひけるハ二九主よ今その言に從ひて僕を安然に世を
ハ逝せ給ふ三十我目すでに萬民の前に設たまひし救を見たり三一これ異邦
人を照さん光なり三二また爾の民イスラエルの榮なり三三その父母ハ嬰子
に就て語る事を奇をれり三四又シメオン彼等を祝て其母マリアに曰け
るハ此嬰兒ハイスラエルの多の人の頽て且興らん事と誹毀を受ん其號
に立らる三五これ衆の心の念の露れんが爲あり又劔なんぢが心をも刺
透べし○三六アセルの支派パヌエルの女にアンナと云る預言者あり彼ハ甚
老邁なり其處女なりしとき夫に適て七年ともに居たり三七この老女ハ齡お
ほよそ八十四歳の嫠なりしが殿を離す夜も晝も斷食と祈禱を爲て神に事
ふ三八此時この老女も側に立て主を讃美し亦エルサレムにて贖を望る
凡の人に此子の事を語れり○三九主の律法に循ひて悉く竟ければかりラ
ヤの己が邑ナザレに歸たり四十其子やゝ成長して精神强健に知慧みち

神の恩寵その上に臨り○四一偖その兩親毎年に逾越の節筵にエルサレムに往しが四二彼の十二歳の時また節筵の例に循ひエルサレムに上れり四三節筵の日卒て返往けるに其子イエスエルサレムに留りぬ然るにヨセフと母これを知ず四四同行人の中に在ならんと意ひ一日程を行て親戚知音の者に尋しが四五遇ざりければ彼を尋てエルサレムに返り四六三日ののち殿にて遇かれ教師の中に坐し且聽かつ問ぬたり四七聞者みな其知慧と其應對とを奇とせり四八兩親これを見て駭き母かれに曰けるハ子よ何ぞ我儕に如此行たるや爾の父と我と憂て爾を尋たり四九イエス答けるハ何故われを尋るや我は我父の事を務べきを知ざる乎五十然ど兩親ハ其語る事を曉ず五一イエスこれと共に下りナザレに歸て彼等に順ひ居り其母これらの凡の事を心に藏ぬ五二イエス知慧も齡も彌増り神と人とに益愛せられたり

第三章　テベリオカイザル在位の十五年ポンテオピラトハユダヤの方伯となりヘロデハガリラヤの分封の君と爲り其兄弟ピリポハイツリア及テラコニテの地の分封の君となりルサニアハアビレ子の分封の君と爲りニアンナスとカヤパ祭司の長と爲たりし時ザカリアの子ヨハネ野に居て神の命令を受三ヨルダンの邊なる四方の地に來り罪の赦を得させんが爲に悔改のバプテスマを宣傳たり四預言者イザヤの言を載たる書に野に呼る人の聲あり云く主の道を備その徑を直せよ五諸の谷ハ埋られ諸の山崗ハ夷られ屈曲たるハ直く崎嶇ハ易せられ六人々みな神の救を見ことを得んと有が如し七茲にバプテスマを受んとて來れる衆人にヨハネ子曰けるハ嗚呼蝮蛇の裔よ誰が爾曹に來らんとする怒を避べき事を告しや八然ば悔改に符る果を結べし爾曹心に我儕が先祖にアブラハム有と意こと勿われ爾曹に告ん神ハ能この石をアブラハムの子と爲しむべし九今や斧を樹の根に置る故に凡て善果を結ざる樹ハ伐れて火に投入らるゝ也十衆人ヨハネに問て曰けるハ然ば我儕何を爲べき乎十一答て曰けるハ二の衣服を有る者ハ有ぬ者に分與よ食物を有る者も亦然すべし十二稅吏もバプテスマを

受んとて來り曰けるハ師よ我儕ハ何を爲べきか　十三　答て曰けるハ定例の稅
銀の外に多く取こと勿れ　十四　兵卒も亦問て曰けるハ我儕ハ何を爲べきや答
て曰けるハ人を强暴し或ハ誣訴ることを爲なかれ得ところの給料を以て
足りと爲べし○　十五　民懷望し時なれば衆人みな心にヨハ子をキリストな
るや否と忖度たりしに　十六　ヨハ子之に答いひけるハ我ハ水を以てバプテス
マを爾曹に施へり我より能力ある者きたらん我ハ其履帶を解にも足す
彼ハ聖靈と火を以てバプテスマを爾曹に施ハん　十七　手にハ箕を持て其禾場
を潔め麥ハ斂て其藏にいれ殼ハ滅ざる火にて燒べし　十八　ヨハ子また多端
を以て勸をなし福音を民に宣傳たり　十九　さて分封の君なるヘロデその兄
弟ピリポの妻ヘロデヤの事および行ふ所の凡の惡事をヨハ子に責られ
けれど　二十　猶も惡事を加へヨハ子を獄に囚たり　二一　民みなバプテスマを
受けるにイエスも亦バプテスマを受て祈るとき天ひらけ　二二　聖靈鴿の如
き狀にて其上に降ぬ又天より聲あり云ふんぢハ我愛子わが喜ぶ所の者なり

○　二三　時にイエス年おほよそ三十にして福音を宣始む人々にヨセフの子と
意れ給へりヨセフの父ハヘリ　二四　其父ハマツタテ其父ハレビ其父ハメルキ
其父ハヤンナ其父ハヨセフ　二五　其父ハマタテヤ其父ハアモス其父ハナホム
其父ハエスリ其父ハナムガイ　二六　其父ハマアツ其父ハマタテヤ其父ハセメ
イ其父ハヨセフ其父ハユダ　二七　其父ハヨハンナ其父ハレサ其父ハゼルバベ
ル其父ハシアテル其父ハ子リ　二八　其父ハメルキ其父ハアツデ其父ハコサム
其父ハエルモダム其父ハエル　二九　其父ハヨセ其父ハエリエゼル其父ハヨホ
レム其父ハマツタテ其父ハレビ　三十　其父ハシメオン其父ハユダ其父ハヨセ
フ其父ハヨナン其父ハエリアキム　三一　其父ハメレア其父ハマイナン其父ハ
マタツタ其父ハナタン其父ハダビデ　三二　其父ハエツサイ其父ハオベデ其父
ハボアズ其父ハサルモン其父ハナアソン　三三　其父ハアミナダブ其父ハアラ
ム其父ハエスロン其父ハパレス其父ハユダ　三四　其父ハヤコブ其父ハイサク
其父ハアブラハム其父ハテラ其父ハナコル　三五　其父ハサルク其父ハラガヲ

その子パレク其父ヘベル其父ヘサラ三六その子カイナン其父ヘアパザデ
その子セム其父ノア其父ヘラメク三七その子マトサラ其父ヘエノク其父
ヘヤレド其父ヘマレレエル其父ヘカイナン其父ヘエノス其父ヘセツ其父ヘ
アダムアダムヘ即ち神の子なり

第四章　偖イエス聖靈に感されてヨルダンより歸り靈に導かれ野に適て二
四十日惡魔に試らる此諸日なにをも食ず四十日畢てのち餓たり三惡魔
かれに曰けるヘ爾もし神の子ならば此石に命じてパンと爲せよ四イエス
答けるヘ人ヘパンのみにて生る者に非ず唯神の凡の言に由と錄されたり
五惡魔また彼を高山に携ゆき一瞬間に天下の萬國を示して六曰けるヘ此
すべての權威と榮華を爾に予へん我これを委任たれば我が欲む者に之を予
ふべし七故に若わが前に拜跪ば悉く爾の屬とならん八イエス答けるヘ
サタンよ我後に退け獨主たる爾の神に拜跪これにのみ事べしと錄された
り九惡魔またイエスをエルサレムに携ゆき聖殿の頂に立て曰けるヘ爾も
し神の子なら汝此より己が身を投よ十そは神その使者等に命じて爾を護せ
ん十一爾が足の石に觸ざるやう彼等手にて扶べしと錄さる十二イエス答
けるヘ主たる爾の神を試む可らずと云おけり十三惡魔この誘試みを畢て
暫く彼を離たり十四イエス聖靈の能を以てガリラヤに歸しに其聲名あまれ
く四方の地に廣がりぬ十五斯て彼等が會堂にて教を爲すべての人々に榮
を得たり○十六その長育し所なるナザレに來り常例の如く安息日に會堂
に入て聖書を讀んとて立ければ十七預言者イザヤの書を予しにイエス其書
を展て斯錄れたる所を見出せり十八主の靈われに在す故に貧者に福音
を宣傳ん事を我に膏を沃て任じ心の傷る者を醫し又囚人に釋ん事と瞽
者に見させん事を示し又壓制らるゝ者を縱ち十九主の禧年を宣播
んが爲に我を遣せり二十イエス書を捲その役者に予へて坐しければ會
堂に在者みな目を注て視おせり二一イエス彼等に曰けるヘ此錄れたる事
ヘ今日なんぢらの前に應り二二衆かれを稱讃その口より出る所の恩惠の言

た奇みヨハネフの子に非や　二三　イエス彼等に曰けるハ爾曹かならず我に諺を引て醫者みづから醫せ我儕が聞し所のカペナウンにて行し事を自己の家郷なる此土にも行べしと云ん　二四　また曰けるハ我まことに爾曹に告ん預言者その家郷にてハ敬重るゝ者に非ず　二五　われ誠を以て爾曹に告んエリヤの時三年と六ケ月天とぢて徧地おほいなる饑饉なりし其時イスラエルの中に多の嫠ありしかど　二六　エリヤハ其一人へだに遣されず只シドンなるサレパタの一人の嫠に遣されたり　二七　また預言者エリシヤの時にイスラエルの中に多くの癩者ありしかど其一人だに潔られず惟スリヤのナーマンのみ潔られたり　二八　會堂に在し者これを聞て大に憤ほり　二九　起てイエスを邑の外に出し投下さんとて其邑の建たる山の崖にまで曳往り　三十　然にイエス彼等の中を徑行て去ぬ　三一　ガリラヤのカペナウンと云る邑に至りて安息日ごとに衆人を教しに　三二　その言權威有ければ衆人その教に驚けり○　三三　會堂に汚たる鬼の靈に憑れたる人あり大聲に喊叫いひけるハ　三四　噫ナザレのイエスよ我儕なんぢと何の興あらんや爾きたりて我儕を喪すか我なんぢハ誰なる乎を知すなハち神の聖なる者なり　三五　イエス之を責て曰けるハ聲を出すこと勿れ其處を出よ惡鬼つひに其人を衆の中に仆し傷ずして出　三六　衆人みな驚き互に語いひけるハ權威と能力を有て汚たる鬼に命ぜしかば出去り是いかなる道ぞや　三七　是に於てイエスの聲名徧く此四方の地に揚りぬ○　三八　イエス會堂を出てシモンの家に入しにシモンの妻母おもき熱病を患ひ居たりき　三九　衆人之が爲にイエスに求ければ其傍に立て熱を斥しに熱退けり婦直に起て彼等に事たり　四十　日の入さき各樣の病を患たる者をもてる人々皆其をイエスに携來ければ一々其上に手を按て醫せり　四一　惡鬼も亦多の人々を出さり喊叫て爾ハ神の子キリスト也と云り然に之を斥て言ふを容さりき惡鬼其キリストなるを識れば也　四二　明旦イエス出て人なき處に往ければ衆人尋來て其離去ことを止む　四三　イエス曰けるハ我又

他の郷村にも神の國の福音を宣傳ざるを得ず　蓋我之が爲に遣るれば也　四四　斯てガリラヤの諸會堂にて道を宣傳たり

第五章　衆人神の道を聽んとて擠擁ける時イエスゲネサレの湖の濱に立て二磯に二艘の舟あるを見る漁の者は舟を離て網を洗へり　三其一艘ハシモンの舟なりしがイエス之にのり請て岸より少許はなれ坐して舟の中より衆人を教ふ　四教竟てシモンに曰けるは漕へ出て網を下して漁れ　五シモン答けるは師よわれら終夜はたらきしかど所得なかりき然ど爾の言に從ひて網を下さん　六既に下して魚を圍ること甚だ多く網さけかゝりければ　七いま一艘なる舟の侶を招きて來り助しめしに彼等が來し時其魚二艘の舟に滿て沈んばかりなりし　八シモンペテロ之を見てイエスの足下に俯て主よ我を離たまへ我は罪人なりと曰り　九是シモンおよび偕に在し者みな漁し所の魚の夥しきに驚けるも　十シモンの侶なるゼベダイの子ヤコブとヨハネも亦然りイエスシモンに曰けるは懼るゝ勿れなんぢ今より人を獲べし　十一彼等舟を岸に寄おき一切を捨てイエスに從へり○　十二イエスある邑に居しとき身こゝく癩病を患る者ありイエスを見て俯伏れがひ曰けるは主もし聖旨にかなふときは我を潔なし得べし　十三イエス手を伸彼に按て我心にかなへり潔なれと曰ければ直に癩病愈たり　十四イエス彼を戒めて曰けるは人に告ること勿れたゞ往て己を祭司に示かつ潔られし爲にモーセが命ぜし如く獻物をおし證據を彼等に爲よ　十五然ども

イエスの聲名ますゝ揚りて許多の人々或は教を聽んとし或は病を醫れんとて集り來れり　十六イエス常に人おき處に退きて祈り給ひき○　十七一日イエス教を爲せる時パリサイの人と教法師ガリラヤの諸郷ユダヤエルサレムより來て此に坐しぬ彼等の病を醫すべき主の能顯れたり　十八或人癱瘋を患たる者を牀に載て舁來り之を家に入イエスの前に置んと欲ども　十九群集にて舁入べき方なかりければ屋上に升り瓦を取除て其人を牀のまゝ衆人の中へ繩下しイエスの前に置り　二十イエスその信あるを見て患

者に人よ爾の罪赦さると曰ければ　二一學者とパリサイの人々心に思出けるは此褻瀆ことを言者ハ誰ぞ神より外に誰か罪を赦すことを得ん　二二イエスその意を知て答いひけるハ何を爾曹心の中に論ずるや　二三爾の罪赦さるといふと起て行と言と孰か易き　二四それ人の子地にて罪をゆるすの權威あることを爾曹に知せんとて遂に癱瘓の人に我あんぢに告おきて牀をとり家に歸れと曰ければ　二五その人衆の前にて直に起て臥居たる牀をとり神を崇て己が家に歸ぬ　二六衆人みな駭きて神を崇かつ大に畏懼て曰けるハ我儕今日奇異なる事を見たり○　二七此後イエス出てレビと云る稅吏の稅關に坐し居けるを見て我に從へと曰ければ　二八レビ一切を捨おき起て從へり　二九レビ己の家にてイエスの爲に豐盛なる筵を設しに稅吏また他の人々も共に筵に坐したる者多かりければ　三十其所の學者とパリサイの人イエスの弟子に怨言曰けるハ爾曹稅吏また罪ある人々と共に飲食するハ何故ぞ　三一イエス答て曰けるハ康強ある者ハ醫者の助を需ず惟病ある者これを需む　三二わが來るハ義人を召く爲に非ず罪ある人を召て悔改させんが爲なり　三三彼等イエスに曰けるハヨハ子の弟子は屢斷食また祈禱をなすパリサイの弟子も亦然り然るに爾の弟子飲こと食ことを爲すハ何故ぞ　三四イエス曰けるハ新郎の朋友その新郎と一處に居間ハ之に斷食なさしむる事を得んや　三五將來新郎と別るゝ日いたらん其日にハ斷食すべきなり　三六譬を以て曰けるハ新衣を裁取て舊衣を補ふ者あらじ若然せば新布ハ舊ものと合ず　三七また新酒を舊革袋に盛る者あらじ若しかせば新酒ハ其袋をはりさき漏出かつ革袋も壞るべし　三八新酒ハ新革袋に盛べき者ぞ斯てこそ兩あがら存なれ　三九舊酒を飲て立刻に新酒を欲者ハ有じ是舊ハ尤も好と云べあり

第六章

逾越節の二日ののち首の安息日イエス麥の畑を徑行しに其弟子麥の穗を摘これを手にて搏くらひしかば　二或パリサイの人かれらに曰けるを

ハ爾曹安息日に行まじき事を行ハ何故ぞ　三イエス答て曰けるハダビデおよび從に在し者の饑しき行たる事を未だ讀ざる乎　四即ち神の殿に入たゞ祭司の外ハ食まじき供物のパンを取て食かつ從に在し者にも予たり　五又曰けるハ人の子ハ安息日にも主たる也○六また一の安息日にイエス會堂に入て教ふ此に右の手枯たる人ありければ　七學者とパリサイの人イエスこれを安息日に醫ならんかと窺ひぬ蓋かれを訴んと欲ばなり　八イエスその意を知て手なへたる人に起て、中に立よと曰ければ其人おきて立り　九イエス曰けるハ我なんぢらに問ん安息日に善を行と惡を行と又生を救ると殺と孰をか行べき　十遂に衆人を環視て其人に手を伸よと曰ければ彼その如せしに手すなハち愈て他の手の如くなれり　十一彼等大に怒て如何にイエスを處んと互に議あへり○十二當時イエス祈禱の爲に山に往て終夜神に祈れり　十三夜明てイエス弟子を呼その中より十二人を選て之を使徒と稱く　十四即ちペテロと名給ひしシモンその兄弟アンデレ及ヤコブとヨハネ　十五ピリポとバルトロマイ　十六マタイとトマスアルパイの子なるヤコブとゼロテと云るシモン　十六ヤコブの兄弟のユダとイスカリオテのユダなり此ユダハイエスを賣たる者なり　十七イエス是等と共に下て平かなる地に立しに許多の弟子と夥しき人々ユダヤの四方またエルサレム及ツロシドンの海邊より來集りて或ハ其教を聽んとし或ハ病を醫されん事を冀へり　十八又惡鬼に難されたる者あり咸く醫されたり　十九衆みなイエスに捫らんとせり是能力の其身より出て彼等を咸く醫せば也○

二十イエス目を擧弟子を見て曰けるハ爾曹貧者ハ福なり神の國は即ち爾曹の所有なれば也　二一爾曹いま飢たる者ハ福なり飽ことを得べければ爾曹いま哭者ハ福なり笑ことを得べければ也　二二人の子の爲に人なんぢらを憎また絶け詈り爾曹の名を惡しとして棄なば爾曹福なり　二三其日にハ欣び踊れ爾曹天に於て賞賜大なれば也その先祖が預言者に行たりしも是の如し　二四爾曹富者ハ禍なる哉すでに安樂を受べ

なり　二五　爾曹飽者ゝ禍なるかな餓んとすれゞなり爾曹いま笑者ゝ禍なるかな哀み哭んとゝ爲ゞなり　二六　凡の人なんぢらを譽なゞ爾曹禍なる哉その先祖が僞の預言者に行たりしも是の如し　二七　我に聽ところの爾曹に告ん其仇を愛し爾曹を憎者を善し　二八　詛者を祝し虐遇者の爲に祈禱せよ　二九　人なんぢの頰の右方を擊ゞ亦左方の頰を向よ爾の外服を奪ゞ裏衣をも禁ざれ　三十　凡て爾に求ゞ之に與へ爾の物を奪ゞ其をまた索る勿れ　三一　己人に施れんとする事ゝ亦人にも其如く施よ　三二　己を愛する者を愛するゝ何の賞賜あらんや惡人にても己を愛する者ゝ愛する也　三三　己に善を行者に善を行ゝ何の賞賜あらんや惡人もまた是の如く行なり　三四　爾曹償るゝ事を得んとおもふ人に借ゝ何の賞賜あらんや惡人も其ごとく償を得んとて亦惡人に借なり　三五　爾曹仇を愛し又善をなし何をも望ずして借與よ然ゞ其賞賜ゝ大なり且至上者の子と爲ん夫上者ゝ恩を忘るゝ者及び不善者にまで慈愛を施せゞ也　三六　是故に爾曹の父の憐憫の如く亦憐憫を爲べし　三七　人を議することゝ勿れ然ゞ爾曹も議せられず人を罪することゝ勿れ然ゞ爾曹も罪せられず人を恕せ然ゞ爾曹も恕さるべし　三八　人に與よ然ゞ爾曹も予らるべし彼等量を嘉して搖れ撼れ溢るゝ迄にして爾曹の懷に納ん爾曹量る所の其量にて亦人に量るべし○　三九　また譬を彼等に曰けるゝ瞽ゝ瞽の相者をおし得るや相共に溝壑に陷らざらん乎　四十　弟子ゝ其師に踰ず凡そ全備ある者ゝ其師の如なるべし　四一　なんぢ兄弟の目にある物屑を見て己の目にある梁木を知ざるゝ何ぞや　四二　如何で己の目にある梁木を見ずして兄弟に對ひ兄弟よ爾の目にある屑物を我に取せよと云ことを得んや僞善者よ先おのれの目より梁木をとれ然ゞ兄弟の目にある物屑を取こと明かに見べし　四三　それ惡果を結ゝ善樹に非ず又善果を結ゝ惡樹に非ず　四四　凡の樹ゝその果に因て識る荊棘より無花果を採ず亦蕤藪より葡萄を採じ　四五　善人ゝ心の善庫より善を出し惡人ゝその惡庫より惡を出す蓋心に充るより口に言るゝ也　四六　爾曹わが言ことを行ゝす

して何ぞ我を主よ主よと稱るや四七凡て我に就り我言を聞て行者を譬て爾曾に示さん四八其人ハ家を建るに土を深く堀て基礎を磐上に置るが如し洪水のとき横流その家を衝ども動すこと能ず是基礎を磐上に置ばなり四九聽て行ハざる者ハ基礎なく家を土の上に建たる人の如し横流これを衝ときハ其家たゞちに傾れ其頽壞また甚だし

第七章

イエス此すべての言を民に敎畢てカペナウンに入しに二ある百夫の長その愛する僕やみて死ばかりなりければ三イエスの事を聞ユダヤの長老等を遣して來り僕を助け給んことを求り四彼等イエスに就り切に勸めひけるハ此事を求る人ハ善人なり五我民を愛し我儕の爲に會堂を建たり六イエス彼等と共に往て既や其家に近けるとき百夫の長朋友を遣して曰せけるハ主よ自己を勞動こと勿れ我が家裏に入奉るハ憚多し七故に我なんぢの前に出も亦憚あり第一言を發たまハゞ我僕ハ愈ん八蓋われ人の權威の下に屬る者なるに我下に亦兵卒ありて此に往と命ば往かれに來と命ば來る我僕に之を行と命ば卽ち行が故あり九イエス聞て之を奇み從へる人々を顧て曰けるハ我あんぢらに告んイスラエルの中にても未だ斯る篤信に遇ざりき十遣されたる者家に歸て病たりし僕を見ば已に全快なせり○十一翌日イエスナインと云る邑に往けるに許多の弟子および許多の人々も共に往り十二邑の門に近づきしとき舁出さるゝ死人あり其母ハ孀にて此ハ獨の子なり邑の人々多これに伴ふ十三主孀を見て憫み哭なかれと曰て十四近より其棺に手を按ければ舁る者ども止れりイエス曰けるハ少者よ我あんぢに命おきよ十五死たる者起て且言ひ始むイエス之を其母に予せり十六衆人みな懼て神を崇いひけるハ大なる預言者われらの中に興る神その民を眷顧たまへり十七イエスの此聲名ユダヤの全國また徧く四方に揚りぬ○十八ヨハ子の弟子すべて是等の事を彼に告ければ十九ヨハ子二人の弟子を召て言遣しけるハ來ちべき者ハ爾なるか亦われら他に俟べき乎二十その二人イエスに來り曰けるハバプ

テスマのヨハ子我儕を爾に遣して言しむ來るべき者ハ爾なるか亦われら他に俟べきか　二一此時イエス多の疾あるひハ病および惡鬼に憑たる者を醫し且おほくの瞽に見ることを賜たり　二二イエス彼等に答曰けるハ爾曹か見ところ聞ところをヨハ子に往て告よ夫瞽者ハ見跛者ハ行み潔り聾者ハきゝ死し者ハ復活され貧者ハ福音を聞せらる　二三凡そ我爲に躓かざる者ハ福なり　二四ヨハ子の使者さりし後イエスヨハ子の事を衆人に曰けるハ何を見んとて野に出しや風に動さるゝ葦なる乎　二五然ハ爾曹なにを見んとて出しや美服を衣たる人なるか文繡を衣て奢る者ハ王の宮に在　二六然ハ何を見んとて出しや預言者なるか然われ爾曹に告ん是預言者よりも卓越たる者なり　二七それ爾に先ちて道を備る我使者を爾の前に遣んと錄されたるハ卽ち此なり　二八我なんぢらに告ん婦の生る者のうち未だバプテスマのヨハ子より大なる預言者ハ無されど神の國の至微者も彼よりハ大なる也　二九ヨハ子に聞る庶民また稅吏ハ其バプテスマを受て神を義とせり　三十パリサイの人また教法師ハ其バプテスマを受ず自ら暴ひて神の旨に背たり　三一然ハ此世の人々を何に比へ又何に譬んや　三二童子市に坐し互に呼て我儕笛ふけども爾曹踊ず悲歌をすれども爾曹哭ずと云に似たり　三三蓋バプテスマのヨハ子來りてパンをも食ず酒をも飲ざれハ惡鬼に憑たる者なりと爾曹いへり　三四人の子きたりて食ふ事をし飲ことを爲ハまた食を嗜み酒を好の人稅吏罪ある人の友なりと爾曹いへり　三五然ど智慧ハ智慧の子に義と爲らる○　三六或パリサイの人イエスを請て共に食せん事を願ければイエスパリサイの人の家に入て食に就り　三七邑の中に惡行を爲る婦ありけるがイエスパリサイの人の家に坐せるを知て蠟石の盒に香膏を携來り　三八イエスの後にたち足下に哭き涙にて其足を濡し首の髮をもて之を拭かつ其足に口を接また香膏を之に抹り　三九イエスを請たるパリサイの人これを見て心の中に謂けるハ此人もし預言者あらバ捫し者ハ誰なる乎又如何なる婦なる乎を知ん此婦ハ惡行を爲る

者あり 四十 イエス之に答て曰けるハシモン我なんぢに言事あり答けるハ師よ言たまへ 四一 イエス曰けるハ或債主に二人の負債人ありて一人ハ金五百一人ハ五十を負しに 四二 償方なかりければ債主この二人を免たり然ば二人の者その債主を愛すること孰か多き我に聞せよ 四三 シモン答けるハ我おもふに免るゝ事の多き者あらんイエス曰けるハ爾が意ところ違ざる也 四四 遂に婦を顧みてシモンに曰けるハ此婦を見か我なんぢの家に入に爾ハ我に口を接ず此婦ハ我こゝに入し時より我足に口を接て已ず 四五 爾ハ我首に膏を抹ず此婦ハ我足に香膏を抹り 四六 是故に我なんぢに言ん此婦の多の罪ハ赦れたり之に因て其愛も亦多なり赦るゝこと少き者ハ其愛も亦少し 四七 是に於て其婦に曰けるハ爾の罪赦さる 四八 同に坐せる者ども心の中に謂けるハ是人は是何人なれば罪をも赦す乎 四九 イエス婦に曰けるハ爾の信爾を救り安然にして往 五十

第八章

此後イエス郷邑を周遊て神の國の福音を宣傳ふ十二の弟子も偕に從ひぬ 二 また前に惡鬼を患たりし者病を痊れたる婦等も從ひたり卽ち七の惡鬼を逐出れたるマグダラと稱マリア 三 又ヘロデの家令クーザの妻ヨハンナ又スザンナ此ほか多の婦ありて皆その所有を以てイエスに供へ事たりき○ 四 衆の人々諸邑より出てイエスの所に集りければ譬をもて曰り 五 種まく者種を播んとて出ぬ播るとき路旁に遺し種あり踐踏られ且天空の鳥これを食へり 六 また石上に遺し種あり萌出て槁たり是潤なきが故なり 七 また棘の中に遺し種あり棘も同に生長て之を蔽り 八 また沃壤に遺し種あり生出て實を結べること百倍せり是を言畢て呼りけるハ耳ある者ハ聽べし 九 其弟子とふて曰けるハ是いかなる譬ぞ 十 答けるハ神の國の奥義を爾曹に知ことを賜ど他の者にハ譬を以てす此ハ視ても見ず聽ても悟ざる爲なり 十一 夫この譬の釋種ハ神の道なり 十二 路の旁に遺しハ聽し後惡魔の爲に其心より道を奪るゝ者なり彼ハ人の信じて救れんこ

とを恐る　十三　石上に遺しゝ聽てきき喜びて道を受れども根なければ信ずる
こと暫のみ患難に遇時ゝ道に背く者なり　十四　棘の中に遺しゝ聽て往この世
の諸　慮と貨財と宴樂とに蔽れて實ざる者なり　十五　沃壤に遺しゝ正かつ
善心にて道を聽これを守り忍て實を結ぶ者なり○　十六　燈を燃し器にて
之を覆ひ或ゝ床下におく者あし入來る者の其光を見ん爲に臺の上に置
べし　十七　隱て現れざる者あく藏て知れず露　出ざる者なし　十八　是故に爾等
聽ことを愼め有る者ゝなほ予られ無有者ゝ有りと意ふ所の物をも奪るべし
○　十九　此時イエスの母と兄弟きたりけれど群集に因て近くこと能ざりし
かば　二十　或人これをイエスに告て曰けるゝ爾が母と兄弟なんぢに遇んと
て外に立り　二一　イエス答て曰けるゝ神の道を聽て之を行ふ者ゝ乃ち我母
わが兄弟なり○　二二　一日イエス弟子と共に舟に登て彼等に湖の前岸へ
渡べしと曰ければ卽ち漕出せり　二三　舟の走る時イエス寢たり颶風湖に
吹下し舟に水滿んとして危かりしかば　二四　弟子きたりてイエスを醒し曰け
るゝ師よ師よ我儕亡なんとすイエス起て風と浪とを戒めければ止て平穩
になりぬ　二五　イエス曰けるゝ爾曹の信何所に在や彼等駭き且奇みて
互に曰けるゝ此ゝ何人あるぞや風と水とに命じしかば亦順へり　二六　斯て
ガリラヤに對るガダラ人の地に着て　二七　岸に登し時ある一人邑より出てイ
エスに遇この者ゝ久く惡鬼に憑れ衣をきず家に住ず惟塚にのみ居たりき
二八　イエスを見て喊叫その前に俯伏し大聲に呼りけるゝ至上神の子イエ
スよ我なんぢと何の與あらんや爾に求我を苦むることを勿れ　二九　此惡
鬼に人より出よとイエスが命じたるに因てあり彼の憑れたる事すでに久し
鏈また桎梏にて繫守ども其を打碎き惡鬼の爲に野に逐ぬ　三十　イエス之に
問て曰けるゝ爾が名ゝ何と稱や答けるゝレギョン是おほくの惡鬼の入たる
が故なり　三一　惡鬼イエスに求けるゝ命じて底なき所に往しむる勿れ　三二　此
に多の豕の羣山に草を食ゐたりしが彼等その豕に入んことを許せと求れ
ゝ之を許せり　三三　惡鬼その人より出て豕に入しかば其群はげしく馳下り山

坡より湖に落て溺る 三四 牧者ども其有し事を見て逃ゆき之を邑また諸村に告たり 三五 衆人その有し事を見んとて出てイエスの所に來れば惡鬼の離れし人衣を着たしかなる心にてイエスの足下に坐せるを見て懼あへり 三六 惡鬼に憑れたりし人の救れし狀を見たる者この事を彼等に告げれば 三七 ガダラ四方の多の衆庶イエスに此を去んことを求り是大に懼しが故なりイエス舟に登て返ぬ 三八 惡鬼の離たる人イエスと共に居んことを求けるにイエス之を去しめて 三九 家にかへり神の爾に行し大なる事を人に告よと曰ければ遂に去てイエスの己に行たまひし大なる事を遍邑に傳たり

○ 四十 イエス返たるとき衆人みな佇望て之を喜び接ふ 四一 ヤイロと云る人あり此ハ會堂の宰なり年なほよそ十二歲なる一人の女ありて瀕死なりければ來イエスの足下に伏て我家に來り給んことを求りイエスの往とき衆人これに擁あへり 四三 婦あり十二年血漏を患ひ醫者の爲に其業なを盡く耗しけれど誰にも痊れ得ざりしが 四四 イエスの後に來て其衣の裾に摺ければ直に血の漏と止ぬ 四五 イエス曰けるハ我に摺る者ハ誰ぞや衆人ハみな特に摺れる者なしと曰りペテロおよび偕に在者ども曰けるハ師よ衆人あんぢに擁擠せまるに我に摺る者ハ誰ぞと曰たまふ乎 四六 イエス曰けるハ我に摺る者あり能力の我身より出るを覺れば也 四七 その婦みづから隱せぬを知なのふき來て前に伏さへりし故と其たゞちに愈たるを衆人の前に告 四八 イエス曰けるハ女よ心安かれ爾の信あんぢを救へり安然にして往 四九 かく言る時に會堂の宰の家より人きたりて宰に曰けるハ爾が女はや死たり師を勞ハす勿れ 五十 イエス之をきゝ答て宰に曰けるハ懼るゝ勿たゞ信ぜよ女ハ痊べし 五一 イエス家に入にペテロヤコブヨハ子および女の父母の外たれにも偕に入ることを許さゞりき 五二 衆人みな女の爲に哭哀しかゞイエス曰けるハ哭かれ死たるに非ず寢たる耳 五三 彼等その死たるを知ゞ之を笑へり 五四 イエス人々を皆いだして女の手をとり女起よと呼曰ければ 五五 其魂かへりて忽ち起たりイエス命じて食を予しかゞ

五六 父母ハ駭異ぬイエスこの行しことを人に告るを戒め給へり

第九章

イエス十二の弟子を召集め凡の惡鬼を出し病を醫す能力と權威を賜たりニまた神の國を宣傳へ病者を醫せん爲に三彼等を遣さんとして曰けるハ路資に何をも携ざれ杖また旅囊糧金一の衣をも帶ル勿四何の家に入とも其處に居りて亦其處より去五爾曹を不接者あらば其邑を出る時かれらに證のため足より塵を拂へ六弟子いで〻偏く諸鄉にゆき福音を宣傳かつ病を醫せり○七分封の君ヘロデイエスの行し諸事を聞て惑り或人ハ之をヨハ子の甦れるなりと言八ある人ハエリヤの現れたる也といひ又ある人ハ古の預言者の一人甦れる也と言ばあり九ヘロデ曰けるハ我ヨハ子の首を斬り斯る事の聞ゆる者ハ誰ぞかヘロデ之を見んと欲ふ○十使徒たち歸來りて其行しことをイエスに告イエス彼等を携ひて潛にベテサイダと云る邑の邊なる野に退きしに十一衆人しりて從ければ之を接て神の國の事を語かつ醫を求る者を醫せり○十二日昃くとき十二の弟子きたりてイエスに曰けるハ此ハ野なれば衆人を去せ四圍の鄉村へゆきて宿をとり食を覓る事を爲たまへ十三イエス曰けるハ爾曹これに食を予へよ答けるハ我儕たゞ五のパンと二の魚ある耳この許多の人の爲に往て買に非されば別に食物ハなし十四此に居し男おほよそ五千人ありきイエス弟子に曰けるハ衆人を五十人づゝ列べ坐せしめよ十五弟子その如く行て彼等をみな坐せしめたり十六イエス五のパンと二の魚をとり天を仰ぎ祝して之をわり弟子に予て衆の前に陳しむ十七みな食飽て餘の屑を十二の筐に拾たり○十八イエス衆の在ざりしとき祈禱したりしが弟子も偕に居りイエス之に問て曰けるハ衆人は我を言て誰と爲か十九答て曰けるハバプテスマのヨハ子或ハエリヤ或ハ古の預言者の一人の甦れる也と二十イエス曰けるハ爾曹ハ我を言て誰と爲か ペテロ答けるハ神のキリストなり二一イエス彼等を戒て此事を何人にも告る勿れと命じたり二二又曰けるハ人の子かならず多の苦を受て長老祭司の長學者どもに棄られ且殺